

# 高齢社会懇談会 意見集

～高齢者がいきいきと輝く社会の実現を目指して～

2020年3月



# 目次

## 第1章 はじめに

- (1) 高齢社会懇談会の開催経緯と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 開催概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 有識者プロフィール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

## 第2章 本懇談会における有識者からのご意見

- (1) 高齢社会の現状と課題について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 高齢者の社会参加について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- (3) 高齢者の移動支援について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- (4) 高齢者の多世代交流について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

## 第3章 本懇談会で得られた知見と、それを踏まえた取組

- (1) 本懇談会で得られた知見（全4回の総括）・・・・・・・・・・・・・・ 22
- (2) 本懇談会での意見を踏まえたモデル事業の実施（高齢者社会参加推進事業）・・ 23

### <参考資料> 高齢社会懇談会資料

- 第1回懇談会資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 参-1
- 第2回懇談会資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 参-13
- 第3回懇談会資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 参-29
- 第4回懇談会資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 参-49

本懇談会の議事録全文や資料等の電子データについては、愛知県のWebページ「ネットあいち」にて公開しています。

**URL** <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kikaku/koureikon.html>

# 第1章 はじめに

## (1) 高齢社会懇談会の開催経緯と目的

愛知県は、65歳以上の高齢化率が24.9%（2018年、全国平均28.1%）と、人口構成が比較的若い県であるが、2025年には、団塊の世代の全てが75歳以上の後期高齢者となるなど、本県においても未曾有の超高齢社会を迎える。

こうした中、これまで愛知県では、高齢者施策について、医療・介護分野をはじめ、就労支援やまちづくりなど、様々な分野において、所管の各部署がそれぞれの立場から推進してきた。

一方、高齢者を取り巻く課題は広範かつ多岐にわたることから、その課題に対して、従来の縦割りの発想ではなく総合的な観点から、各施策を関連づけて取り組んでいくことも重要である。

そこで、これからの高齢社会や高齢者施策について、有識者の方から広くご意見をお聴きする「高齢社会懇談会」を開催することとし、全4回の懇談会を開催してきた。

この懇談会では、「老年医療」「地域福祉」「生活支援」「まちづくり」「科学技術」といった、幅広い分野の有識者にご参画いただき、それぞれの立場から高齢社会を巡る様々な課題や、その対応方策について、幅広いご意見をいただくことができた。また、各回のテーマに沿った知見・経験をお持ちの有識者の方に、ゲストスピーカーとしてご参画いただき、議論を深めてきた。

本意見集は、この懇談会でいただいた貴重なご意見やご提案を取りまとめたものである。愛知県では、高齢者がいきいきと輝く社会の実現に向けて、今後の高齢者施策に反映させることとしているが、市町村におかれても本意見集の内容を地域の皆様と共有するなどして、地域の実情に応じた取組の一助としていただきたい。

## (2) 開催概要

全4回開催

	開催日	テーマ
第1回	2019年5月24日（金）	高齢社会の現状と課題について
第2回	2019年7月31日（水）	高齢者の社会参加について
第3回	2019年10月11日（金）	高齢者の移動支援について
第4回	2020年2月7日（金）	高齢者の多世代交流について

### (3) 有識者プロフィール（敬称略）

#### <固定メンバー>

- ◆ <sup>くずや まさふみ</sup>**葛谷 雅文** 名古屋大学大学院医学系研究科教授

（専門分野）老年医学、栄養・代謝、サルコペニア、認知症、動脈硬化、地域在宅医療  
日本では数少ない、高齢者医療・老年医学領域を専門分野とする研究者であり、健康寿命の延伸につながる医療の追究と、その根拠を基盤とする社会環境の構築に向けて取り組んでいる。

- ◆ <sup>はらだ まさき</sup>**原田 正樹** 日本福祉大学副学長・社会福祉学部教授

（専門分野）社会福祉学、地域福祉、福祉教育  
厚生労働省の地域共生社会推進検討会や、地元の知多半島の自治体をはじめとする全国各地の地域福祉計画の策定に携わっている。福祉施設での勤務経験もあり、実践を通じた地域福祉の検討に取り組んでいる。

- ◆ <sup>いまい とも</sup>**今井 友乃** NPO法人知多地域成年後見センター事務局長

（専門分野）生活支援  
成年後見制度の相談窓口となるNPO法人に立ち上げ時から関わり、0歳から100歳までの権利擁護の最前線で活躍している。知多半島内の各市町の、自立支援協議会、虐待防止連絡協議会の会長をはじめ、地域福祉計画策定委員会等の委員も務める。

- ◆ <sup>いざわ ともかず</sup>**井澤 知旦** 名古屋学院大学現代社会学部長・教授

（専門分野）公共政策、地域経営、まちづくり、地域振興、減災福祉  
まちづくりコンサルタントとして、地域開発や都市開発、都市再生、観光振興等の構想・計画づくりを担当し、東海地方の多種多様なまちづくりを支援してきた経験を持つ。地域資源を有効活用するストックシェアリングのあり方を研究している。

- ◆ <sup>やすだ たかみ</sup>**安田 孝美** 名古屋大学大学院情報学研究科教授

（専門分野）社会情報学、情報メディア学  
情報通信ネットワークにおける新技術の調査研究と、それらがもたらす新しい社会のあり方について教育、文化、経済など多方面から調査研究を行うとともに、情報通信技術（ICT）を利活用した地域・コミュニティ支援も行っている。

### <第1回ゲストスピーカー>

- ◆ <sup>まつだ</sup> <sup>ともお</sup> **松田 智生** 株式会社三菱総合研究所主席研究員

(専門分野) 超高齢社会の地域活性化、アクティブシニア論

CCRC (生涯活躍のまち) の有望性を提唱した、CCRCの第一人者。政府の日本版CCRC構想有識者会議委員、内閣府高齢社会フォーラム企画委員をはじめ、中央官庁、地方自治体等の各種委員、アドバイザーを数多く務める。

### <第2回ゲストスピーカー>

- ◆ <sup>ふじわら</sup> <sup>よしのり</sup> **藤原 佳典** 東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム研究部長

(専門分野) 公衆衛生学、老年医学、老年社会科学

高齢者を対象として、多世代共生・プロダクティビティ (生産的で社会的な役割を担う活動) の促進と健康寿命の延伸に貢献するべく、研究を行っている。政府の高齢社会フォーラムでの講演をはじめ、国や地方自治体の施策策定に貢献している。

### <第3回ゲストスピーカー>

- ◆ <sup>いずはら</sup> <sup>こうじ</sup> **伊豆原 浩二** NPO法人ひと育て・モノづくり・まちづくり達人ネットワーク理事長

(専門分野) 交通政策、都市交通計画

元名古屋産業大学大学院・教授、元愛知工業大学・客員教授で、県内外の市町村の公共交通会議の座長を務めるなど、東海地域における公共交通の重鎮である。現在は、協働によるまちづくりや地域の活性化を目指すNPOの代表を務める。

### <第4回ゲストスピーカー>

- ◆ <sup>もちつき</sup> <sup>ともこ</sup> **望月 知子** 山口県宇部市政策広報室長

山口県宇部市は、多世代交流に先進的に取り組んでおり、「多世代ふれあいセンター」(高齢者の保健・福祉、雇用・就業、学習・社会参加等に関する諸施策を総合的に推進する施設) や、「多世代交流スペース」(若者や子育て世代、高齢者などの多世代が気軽に集い、交流し、にぎわいを創出する場) を設置している。

## 第2章 本懇談会における有識者からのご意見

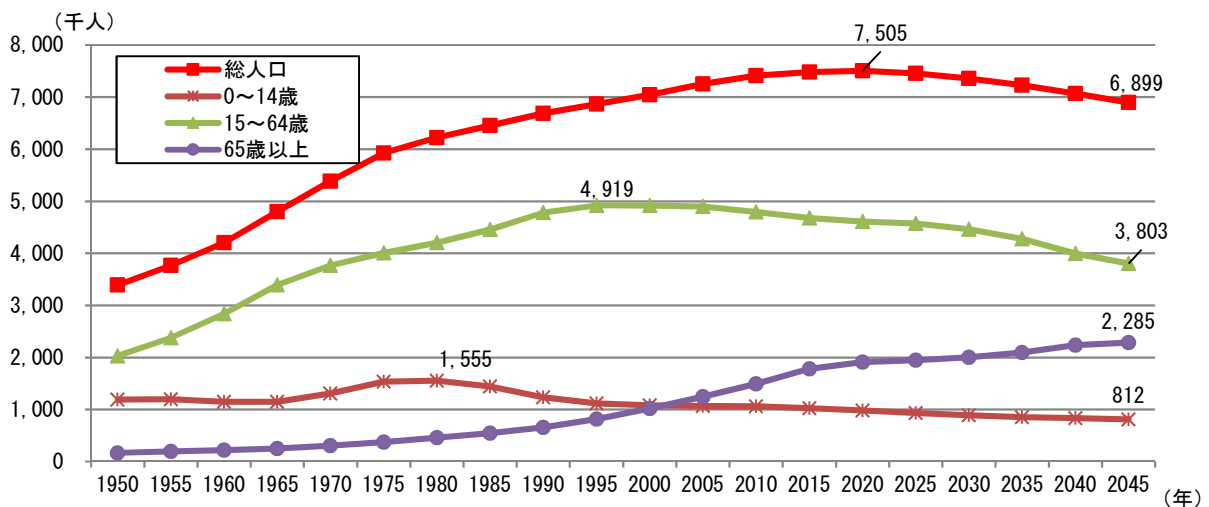
### (1) 高齢社会の現状と課題について

#### 本県及び全国の現状

参考資料 参-1~11

#### < 本県の人口の推移と将来推計 >

- ・ 全国の総人口は 2008 年をピークに既に減少しているが、国の推計によると本県ではピークが遅く、2020 年を境に減少していくとされている。一方、高齢者人口（65 歳以上）は 2020 年以降も一貫して増加する見込みである。

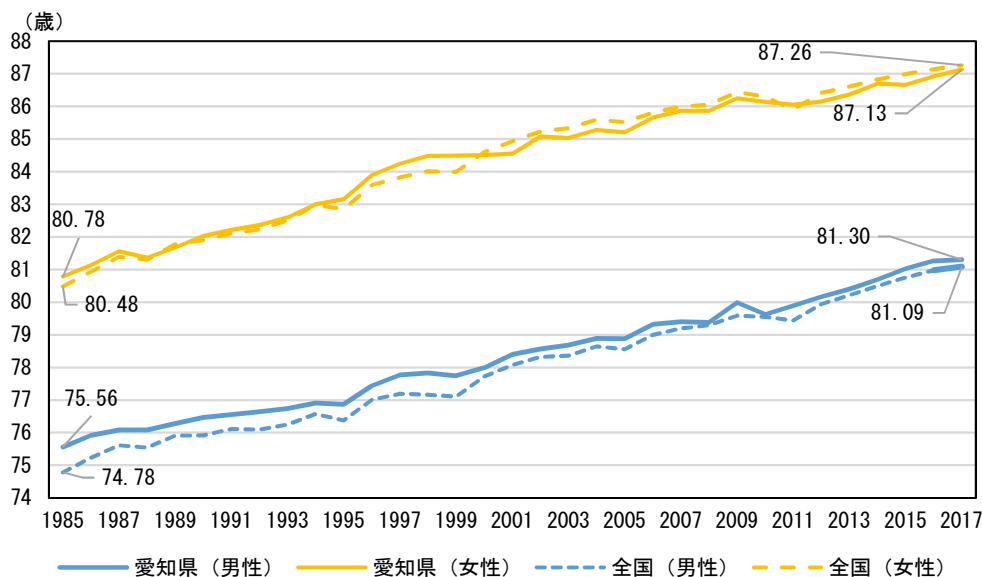


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年（2018 年）推計）」

（なお、第 2 期愛知県人口ビジョン（2020 年 3 月）においては、本県の総人口のピークは 2025 年頃（7,564 千人）と試算）

#### < 平均寿命の推移 >

- ・ 本県の平均寿命は、1985 年から 2017 年の 32 年間で、男性で 75.56 歳から 81.30 歳、女性で 80.78 歳から 87.13 歳と、男女ともに 5 歳以上伸びている。

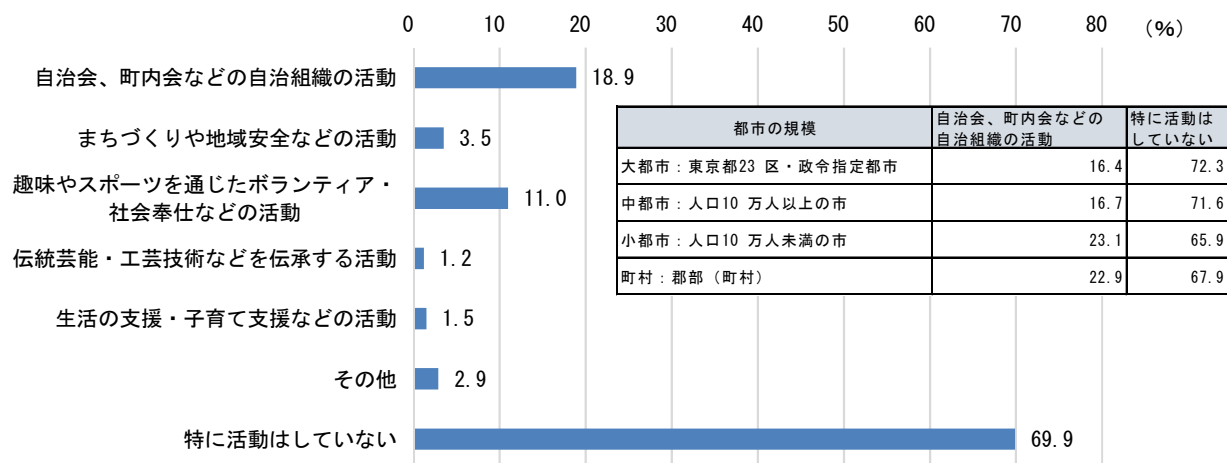


出典：愛知県「平成 29 年愛知県民の平均寿命について」（2018 年 12 月）

## ＜ 住んでいる地域での社会的活動（貢献活動）状況について＞

（60歳以上の者）（全国）（2016年）

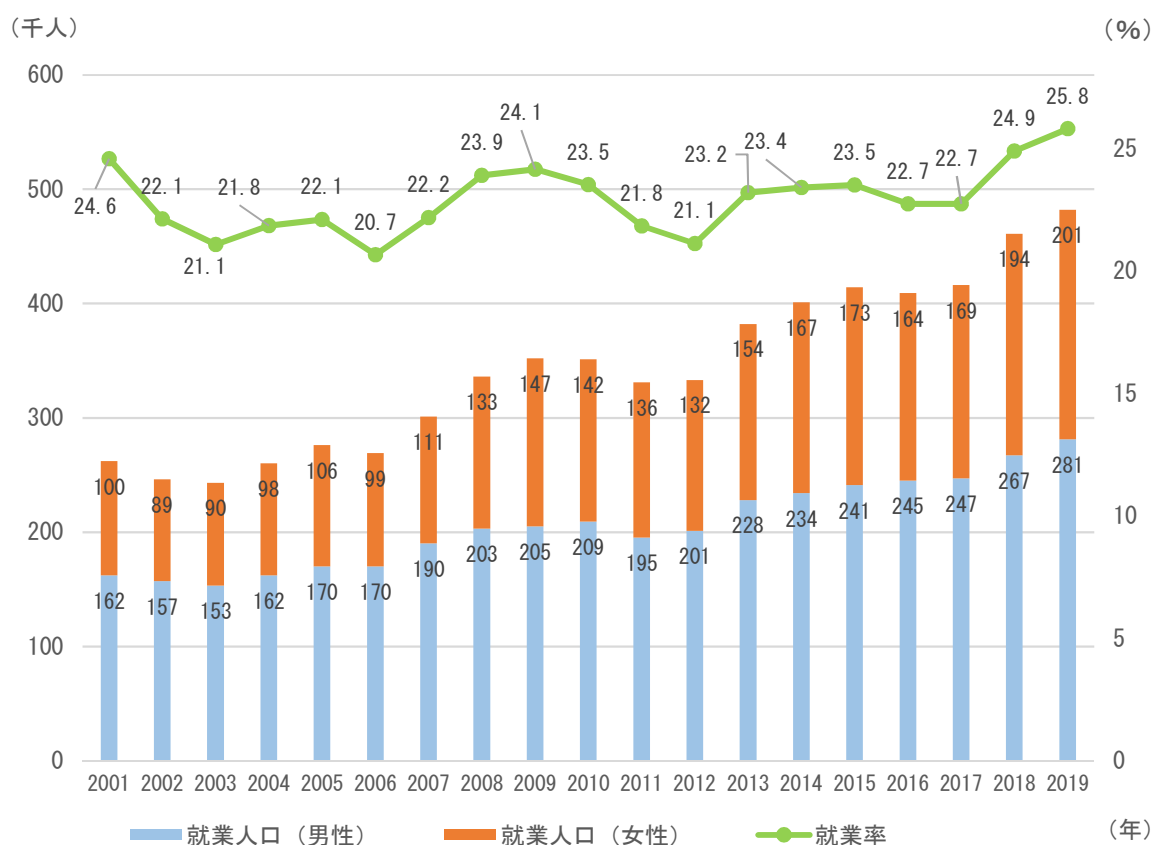
- 内閣府が全国の60歳以上の者に対して行った調査によると、「住んでいる地域での社会的活動（貢献活動）状況」について、「特に活動はしていない」とする割合が約7割（69.9%）を占めている。



出典：内閣府「高齢者の経済・生活環境に関する調査」（2016年）

## ＜ 本県の高齢者（65歳以上）の就業人口と就業率の推移＞

- 本県の65歳以上の高齢者の就業率は25.8%で、高齢者の就業人口は増加傾向にある。



出典：愛知県「あいちの人口」、愛知県「あいちの就業状況」

## 有識者からの主なご意見

### <ゲストスピーカー：(株)三菱総合研究所 松田主席研究員>

- ◆ 男性の高齢者にとって大切なのは「きょうよう（今日用事がある）」と「きょういく（今日行くところがある）」であり、老後を考える上で大事なキーワードである。
- ◆ 老後に大事なものは、「カラダの安心（健康や介護の安心）」、「オカネの安心（生活コストや介護コスト）」、「ココロの安心（生きがいやつながり）」の3つの安心である。その3つの安心は、縦割りの政策ではなく、健康・福祉・都市計画・社会参加・産業創造など、いくつかの政策を組み合わせることが重要である。
- ◆ 高齢社会では、子どもたちや多世代から「ありがとう」や「おかげさま」と言われるような、貢献欲求や承認欲求を充足させる必要がある。この貢献欲求、承認欲求を満たすモデルを社会システムとして作るべきである。
- ◆ これからのプラチナ社会（高齢者がシルバーのようにさびることなく、いつまでも輝く社会）では、現役時代の強みを生かして老後も輝く「人生二期作」や、現役時代とは全く違った分野で輝く「人生二毛作」といった、高齢者の社会参加を促すことが大事である。
- ◆ 社会参加に向けてやる気はあるが、なかなか一步を踏み出せない「潜在アクティブ層」を、いつも元気な「アクティブ層」にどうやって引き上げるかが課題である。例えば、50歳や60歳になったらもう一度学校へ行き、地域の歴史や課題を勉強する、給食があるので独居老人も安心といった「第二義務教育制度」といった、「程良い強制力」や「インセンティブ」を基本理念としたモデル事業を実施してはどうか。
- ◆ フランスでは、猛暑により多くの独居老人が亡くなったことをきっかけに老人と学生と一緒に住む「一つ屋根二つ世代政策」（日本の賄い付き下宿と同じもの）が始まった。週6日、学生が夜ご飯を一緒に食べて在宅していると学生の家賃は無料になる、というもので、日本では春日井市の中部大学が高蔵寺ニュータウンにおいて、同居ではなくラーニングホームステイという形で実施している。
- ◆ 日本版CCRC（生涯活躍のまち）には、行政視点や事業者視点よりも、ユーザー視点が重要である。それは、将来自分が住みたいワクワクするモデルであり、例えば、大学連携型CCRCや、地方名門校連携型CCRC、それからスポーツ連携型CCRCといった、ワクワクするモデルが今動き始めている。

### <葛谷委員（名古屋大学大学院医学系研究科教授）>

- ◆ 家から外へ出ない高齢者など、社会的なつながりが希薄な状態をソーシャルフレイル（社会的な虚弱）というが、その人たちは要介護状態になりやすいというリスクを抱えている。従って、そういう人達をどうやって外へ出すのか、社会的なつながりを持たせるかは非常に大きな問題である。そのためには、外出しやす



い場所の提供と外出を促すような企画の提示など、ありとあらゆるものを動員して高齢者を外へ出すような施策が非常に大事だと思う。

- ◆ 高齢者にとってやっぱり周囲の環境というのは健康にもすごく影響することは間違いない。高齢者が歩いて安全なまち、公共交通のアクセスが良いなど、良い環境に住んでいると、自ずと外出する。高齢者の行動範囲の広さは、高齢者の健康にとって非常に重要な要素だと言われている。
- ◆ 今後、ますます少子高齢化が進み、高齢者への様々な対応を若者にお願いするという発想自体が難しくなっていくと思う。そのため、元気な高齢者が虚弱な、また要介護高齢者をサポートする、前期高齢者が後期高齢者をサポートする循環型のシステムを作っていく必要がある。
- ◆ 高齢者の大学は、中々良いアイデアだと思う。リタイアする前後で、そういう大学で第二の人生を目指して、学び直すことが大事だと思うし、またそこでコミュニティができると思うので、第二の人生の友達を作る良い機会ではないか。
- ◆ 若者が使うような情報は、実は高齢者も望んでいる。インターネットができるだけ、すごく情報の幅が広がり、さらに外出の誘因にもなると思うので、やはり大事だと思う。

#### ＜原田委員（日本福祉大学副学長）＞

- ◆ 高齢者だけの問題ではなく、高齢社会に生きるあらゆる人たちの問題という視点を大事にしていきたい。
- ◆ 高齢者にも働きたいというニーズがすごくある。ある調査によると、年金収入に加えて現金収入4～5万円があると生活が落ち着いてくるという結果が出ている。有償ボランティアではなく、コミュニティビジネスやコミュニティサービスとして活躍できる仕組みを、どう作るかという点も検討すべきである。
- ◆ 一人暮らしの高齢者の不安は、医療・介護よりも亡くなった後の死後事務が多くなっている。今の成年後見制度だけでは支援できないので、支援の仕組みを作れないか。
- ◆ 知多半島にある「地域福祉サポートちた」というNPOでは、65歳以上の高齢者だけを介護保険の枠組みの中で包括ケアするのではなく、すべての人たちをみんながみんな支えていくという、0歳から100歳の地域包括ケアシステムを10年ほど前から提唱している。この考え方が地域共生社会のあり方の中でも取り入れられており、包括的支援体制をいかに作るのかが大きな課題となっている。
- ◆ 地域福祉の分野で最近、地産地消の介護保険みたいな言い方をすることがある。福祉は介護やサービスなど、お金を支出するばかりで負担が大きくて大変だという側面だけではなく、福祉分野は雇用をはじめ地域の産業の面、経済の面からも非常に大きな役割を果たしている。例えば、食材や消耗品などを地元の商店で共同購入するなど産業と福祉がうまく回る仕組み（地産地消の介護保険）ができれば、地域が活性化する。

### <今井委員（NPO法人知多地域成年後見センター事務局長）>

- ◆ 判断能力が欠けている人の成年後見の支援をしているが、社会的孤立というのが一番の問題だと思っている。
- ◆ NPO法人知多地域成年後見センターでは、「ろうスクール」という、葬式のこと、介護のこと、お墓のことなどが学べる、学びの場を開催している。また、研修の特徴として、自分で通って来れたらそれでよし、としており、通ううちにだんだんと元気になっていったりするので、外に出て人と話したりすることがとても大事だと感じる。
- ◆ 東海市、豊田市などには、仕事のために全国からやってきて、家族のつながりを作れなかった人がいる。定年退職後一人になり、自宅で孤立死する例が増えているので、身元保証とか、自分たちで何とかしていける仕組みを地域で作ろうと動いている。
- ◆ 知多市の南粕谷コミュニティでは、地域で自主的に常設型の居場所を作り、絵を描けたりとか何か作業をやったり、各種教室を開いたりして自由に使っているなど、コミュニティ活動が盛んであり、結果として高齢化率が高い地区ではあるものの、介護保険を市内で一番使っていないところである。そういう地域もあるので、是非とも見ていただきたいと思う。

### <井澤委員（名古屋学院大学現代社会学部長）>

- ◆ 高齢者を平均値で見てはいけない。健康という視点で見ても、高齢者はまちまちであり、後期高齢者が前期高齢者の介護をしている例もある。
- ◆ 個々人に社会的役割があること、これはやはり非常に重要だと思っている。例えば、長久手市は住民に様々なまちづくりの仕事を提供している。それをするこ  
とで健康増進にも住民同士のコミュニケーションにもなる。さらには、地域の活動の中で収入を得られるような仕組みを構築しながら、まちづくりを進めることができないか。
- ◆ 晩婚化に伴い、子育てと介護が同時進行になるダブルケアの問題が今後増加すると思われる。個人的な対応では限界があるので、どうやって社会で面倒も見ていくのかということが必須になってくる。このダブルケアという視点もこれから必要になってくるのではないか。
- ◆ 都市構造から高齢社会を考えると、歩行と公共交通をうまく組み合わせて生活支援をしていくというような、いわゆるM a a S※を使いながら、歩行と組み合わせた、そういう生活ができるプラチナシティを目指していく必要があると思う。

※ Mobility as a Service (M a a S) とは、運営主体を問わず、情報通信技術を活用することにより自家用車以外の全ての交通手段による移動を1つのサービスとして捉え、シームレスにつなぐ新たな『移動』の概念。

- ◆ 買い物難民についての取組も大型商業施設で実施を予定している。地域巡回バスを走らせることによって買い物に来れるように、公共交通のないところをカバーしようというものであるが、いわゆる買い物バスの場合はバス停の設置ができないので、そういったところを大学とタイアップしながら上手くできないかなと思っている。

#### <安田委員（名古屋大学大学院情報学研究科教授）>

- ◆ 高齢者のスマートスピーカーの使用について、尾張旭市と協定を結んで研究している。高齢者は情報機器が使えないだろうというのは、ステレオタイプな見方で、スマホを使う高齢者も結構いる。声によってネットの情報にアクセスができるスマートスピーカーは、結構、高齢者の方とのコミュニケーションに使えるのではないかと考えている。さらに、発話するということが認知症予防などの副次的な効果もあるなど、1日中何も喋らなかつた独居高齢の方が、スマートスピーカーに向かって喋る、発話するということのきっかけになるのではないかと期待している。
- ◆ 80歳になって YouTuber デビューをしたというおばあちゃんがいらっしゃる。その方は、これまでスマホすら使っていなかったにも関わらず、それが今や YouTuber となっている。これは素晴らしい事例とっていて、今 600 人ぐらいフォロワーが居るとのことである。高齢者だから情報機器や情報サービスに疎いんだという短絡的な発想は、少し考え直したほうが良いのではないかと思う。もちろんデジタル・デバイドの問題もあるので、情報弱者に対するケアは十分必要だが、このおばあちゃんのようにスターのような人達をうまく取り上げていくということも大事なのかと思う。

## (2) 高齢者の社会参加について

### 本県の取組

参考資料 参-13~16

#### < あいちシルバーカレッジの開講 >

高齢者に学習の機会を提供することにより、高齢者自らの学習意欲を助長して、生きがいと健康づくりを図るとともに、地域の社会活動の中核となる人材を養成する。

- **定員 (2019 年度)** 630 名 (2018 年度 630 名)
- **修業年限** 1 年 (年間 30 日)
- **在校生の状況**  
男性 241 名、女性 389 名  
平均年齢：70.1 歳 (男性最高齢：88 歳、女性最高齢：83 歳)

#### < あいち介護サポーターバンクの運営 >

アクティブシニアをはじめとした幅広い人材層の参入を促すため、「介護に関する入門的研修」の受講者をあいち介護サポーターとして登録し、介護事業所からの紹介依頼に応じてマッチングを行う。

- **研修内容**
  - ・基礎講座 (半日間)：介護に関する基礎知識、介護保険サービス、介護予防体操
  - ・入門講座 (3 日間)：基本的な介護の方法、認知症・障害の理解 等
- **活動内容** 清掃、配膳、利用者の話相手 等
- **登録者数 (2018 年度)** 273 人 [60 歳以上 145 人]
- **マッチング件数 (2018 年度)** 173 件 [60 歳以上 96 件]

#### < 地域学校協働活動への参画支援 >

子どもの成長を軸として地域と学校が連携・協働する地域学校協働活動に参画できるように支援することで、高齢者個々の自己実現を目指すとともに、地域の将来を担う人材の育成と地域の活性化を図る。

- **活動内容**
  - ・放課後子ども教室や地域未来塾等による居場所づくり・学習支援
  - ・本の読み聞かせや学校環境の整備等の様々な学校への支援活動
  - ・地域の自然や文化、伝統を学ぶ等の体験活動支援
- **活動への支援**
  - ・放課後子ども教室や地域未来塾等を実施する市町村への事業費補助
  - ・地域と学校をつなぐ地域コーディネーター等の育成
  - ・地域学校協働活動推進に向けた啓発

## < 高齢者の地域コミュニティへの参加促進 >

高齢者の孤立を防ぎ、社会参加を促進するため、高齢者が参加しやすいように配慮した通いの場の創設・運営をモデル事業として3か年にわたって実施し、そのノウハウ、実施内容をマニュアルにまとめ県内市町村での展開を図る。

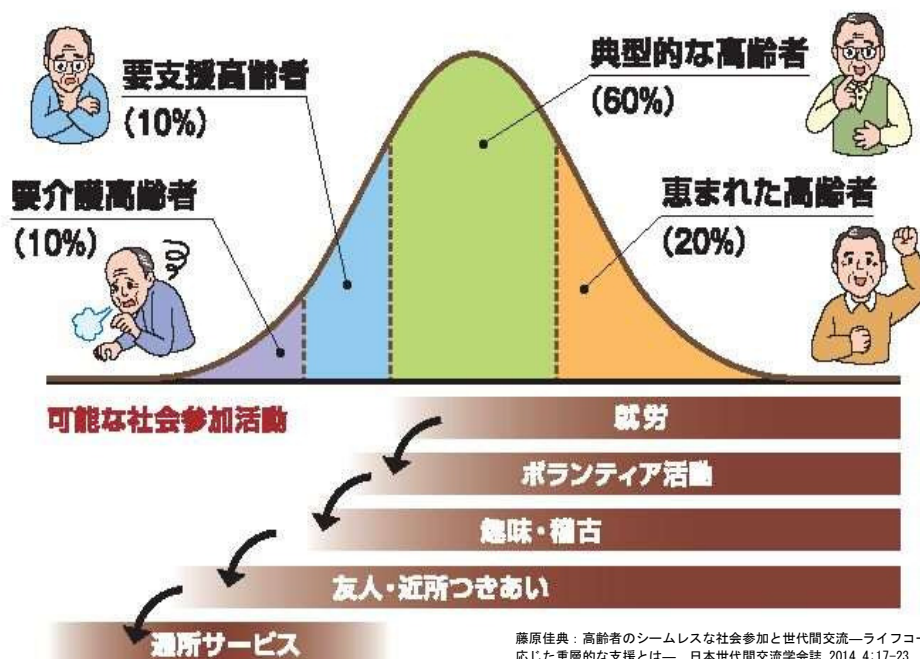
### ○ 内容

- ・対象者 高齢者及びその近親者（配偶者、息子、娘、兄弟姉妹等）
- ・実施方法 NPO等に委託
- ・実施箇所 5か所
- ・事業年度 2019年度から2021年度まで

## 有識者からの主なご意見

< ゲストスピーカー：東京都健康長寿医療センター研究所 藤原研究部長 >

### 高齢者の機能的健康度による分布と社会参加活動の枠組み



- ◆ 高齢者の社会参加は、生活機能や健康度に合わせて、就労、ボランティアや趣味・稽古活動、さらに友人・近所付き合いへと社会参加の姿も変わっていく。
- ◆ 高齢になっても仕事をやっていた方の方が生活の自立が長く維持されやすい。特に男性で顕著であるということがわかってきた。
- ◆ アメリカでも、高齢者は、することがないと心身ともにさびついてしまうので、いろいろなプログラムを展開しており、その中でも、1つ効果があると言われているのが、学校ボランティアである。

- ◆ 我々の研究では、自分の認知症予防のために絵本の読み聞かせの仕方をマスターしてもらい、これが今、多くの自治体の介護予防事業あるいは認知症予防事業として行われ、その後、保育園や小学校でボランティアとして活躍している。

絵本の朗読を通して、発声練習とか滑舌のトレーニングとか、あるいはイメージしながらできるだけストーリーを覚えてもらうといった脳トレの部分や体づくりということも入れており、調査の結果、高齢者の海馬萎縮抑制効果や体力維持の効果があることが分かってきた。

- ◆ 高齢者のうち若年世代と交流している人は、精神的な健康度が高く、また、若年世代も目上の人と交流している人の方が、精神的健康度が高いとの調査結果が出ている。
- ◆ 都市部には、多世代交流のための資源や団体がたくさんあるが、うまくマッチングできていないため、地域の資源を見える化していくことも非常に重要なのではないか。
- ◆ 読み聞かせのボランティアをはじめ、高齢者の自主グループ活動を地域で継続させていくためには、役所が支援しすぎることなく、後方支援に回り、つかず離れずのような関係性を続けていくと失敗しにくくなるのではないか。
- ◆ 首都圏で行われている生涯学習大学は、2、3年掛けて卒業というところも多々あり、2年目に例えば、ボランティアとして地域にどう関わっていくかといった実習などを取り入れていたりする。学んだ後、どう実践していくのかということを考えてもらう機会が非常に重要なのではないかと思う。
- ◆ フルタイムもパートタイムも、2、3年後の健康状態はあまり変わらないという調査結果がある。パートタイムでもフルタイムと同じぐらい効果が出るのであれば、緩い働き方というのも大事なのではないか。

#### < 葛谷委員（名古屋大学大学院医学系研究科教授） >

- ◆ シルバーカレッジのような高齢者向けの学校は良いと思う。学び直しだけではなく、そこでコミュニティができる。さらに、そこで学んだ人が、ファシリテーター（学習を促進する活動を行う人）になるなどして、次の高齢者にバトンタッチできると良い。
- ◆ 高齢者の社会参加をどう促すかということ考えた時に、やはり就労させるというのが一番効率的だと思う。愛知県にはたくさんの会社があるので、就労について企業と一緒に話し合っただけで考えていく必要があるのではないか。
- ◆ 行政が実施した取組を民間（地域）に引き継ぐ場合、行政がフォローアップしながら、自走させていくことが必要である。

### <原田委員（日本福祉大学副学長）>

- ◆ 県内の小・中学校では、福祉実践教室が行われているが、近年形骸化してきていると言われていることから、世代間交流みたいなものも含め、その福祉実践教室の中に新しいプログラムが入っていくと、いろいろな可能性が広がっていくのではないか。
- ◆ 社会参加を促す仕組として、コーディネーターのような人が必要である。メニューだけを提示しても、意欲のある人しか行かないので、コーディネート機能みたいなものをうまく作らないと、社会参加が促されていかないのではないかと思う。ただし、コーディネーターが乱立しているので、整理統合できる仕掛けも必要である。
- ◆ 就労とボランティア活動の間に、コミュニティサービスみたいなものがもう一つ、ワンクッションあっても良いのではないか。福祉の分野だけではなくて農業だとかいろいろなところで、月4、5万円ぐらいの現金収入を得られるような、コミュニティサービスみたいな、もう少し緩やかな働き方が、これから必要になるのではないか。

### <今井委員（NPO法人知多地域成年後見センター事務局長）>

- ◆ 大人になったら、意図的にどこかに足を運ばない限り仲間ができていくので、学校形式の学びの場というのは、みんなで学ぶことにより仲間ができてとても良い。知多地域成年後見センターでも、高齢者の方の仲間づくりということで「知多半島ろうスクール」というものをやっている。その一環として、大人の遠足ということで地域の中のお寺を回ったりしている。
- ◆ 実際に動くのは抵抗があるけれど、座学だけ参加したい人もいるので、学ぶ場がたくさんあった方が良い。
- ◆ 男性高齢者は、無理に文化クラブ的な活動に引き込まず、ずっと仕事をしていた方が良い。フルタイムで働くという意味ではなく、できる範囲で仕事をすれば良い。
- ◆ 生活支援コーディネーターをわざわざ置くから困るのであって、地域の中で何か活動していると情報は自然と集まってくるので、そういう人達をコーディネーターにすれば良いのではないかと思う。

### <井澤委員（名古屋学院大学現代社会学部長）>

- ◆ これからの高齢社会では、働き続けたい人や働かざるを得ない人のために、働く受け皿を作るというのが重要ではないか。どちらかというところ、働かざるを得ない人たちが圧倒的に多いと思われるので、働き続けられる環境を整備していくことが非常に重要だと思う。

- ◆ 高齢者が働き続け、女性の社会進出も進むと、地域活動の担い手がいなくなる。  
70歳を超えてエネルギー使い果たしてから地域に入ってくる方が多くなっていくので、働く場所と地域をどう結びつけるかという仕組みが重要であり、地域のコンシェルジュ（コーディネーター）が必要だと思う。
- ◆ 働き続けたいという個人の希望と、地域の空洞化（担い手不足）を結びつけるような仕組みが必要だと思う。また、地域には様々な能力を持った人材がいらっしやるので、こういう人材をもっと発掘していくべきではないか。

#### <安田委員（名古屋大学大学院情報学研究科教授）>

- ◆ 小中学校でプログラミングを含むIT教育を厚くしていこうという動きがあるが、一方で高校になると、大学受験のためIT教育が中断してしまうことから、例えば、社会で活躍した高齢者のITボランティアが、高校レベルのITスキルを高校生に教える仕組みができないか。
- ◆ 男性の高齢者の社会参加という点では、企業の退職者組合に働き掛けていくのが良いのではないか。新しいことを学ぶことに貪欲な元気な高齢者がいる。



### (3) 高齢者の移動支援について

#### 県内の取組事例

参考資料 参-29~32

#### < デマンドバスの運行 >

**乗り合い送迎サービスのしくみ**

**【豊明市仙人塚地区ほか】**  
 市内在住の65歳以上の高齢者と障がい者を対象に、健康増進のための乗り合い送迎サービス「チョイソコとよあけ」を2018年7月から試験運行

**【新城市作手地区】**  
 バス停まで歩くことが困難な高齢者の移動支援のため、2019年10月から定期路線バスを減便し、デマンド型区域運行バス「つくでバス」を運行開始

**つなぐ1号**  
(13人乗りハイエース)

**つなぐ2号**  
(6人乗りヴォクシー)

**つくでバスの利用方法**

- 1 予約の電話をする  
利用したい日の前営業日までに担当の方へ予約の電話をお願いします。
- 2 時刻を確認する  
担当の方から乗りたい時刻について乗車するおおよその時刻をお伝えします。
- 3 乗車場所へ行く  
予約した時刻が近づいたときに乗車場所へバスを待ちます。
- 4 目的地まで乗車  
目的地まで乗車します。他の利用客を運ぶに行く場合もあります。
- 5 目的地で降りる  
目的地について、乗車料金を支払って降ります。

**予約受付時間**  
 月曜日から土曜日  
 午前8時30分～午後5時  
 (日・祝日・年末年始は休み)  
 (営業一時限あり)  
 午前7時～午後7時

#### < 公共交通空白地における運送 >

**【設楽町津具地区】**  
 タクシー事業者の無い地域の交通手段を確保するため、津具商工会が主体で2014年4月から予約制有償送迎サービス「のってかっせ」を運行

#### < 市町村等の車両による無償住民輸送 >

**【瀬戸市菱野団地】**  
 買い物や通院など日常生活の足を確保するため、地域の自治会が主体となって協議会を設立し、2018年8月6日から地域の有償ボランティアがバスを運転し、「住民バス」を運行

<ゲストスピーカー：NPO法人ひと育て・モノづくり・まちづくり達人ネットワーク 伊豆原理事長>

## 交通（移動）

**派生需要**：ある**目的を果たすために移動する**  
(移動することが目的：散歩、  
サイクリング、ドライブ等)

**多くの高齢者（リタイヤした人）は、行わなくてはいけない目的、行かなくてはいけない場所**  
**といった制約が非常に少なくなる。**

→ **楽しい、面白い、やり甲斐がある等と**  
**いった目的、場所が必要。**

- ◆ 高齢者の移動目的は、買い物をもっとも多いが、前期高齢者の男性は就業者が多く、業務・通勤が多い。なお、後期高齢者になると男女ともに通院が多くなってくる。
- ◆ 運転免許の保有状況を見ると、前期高齢者の場合は、男女とも平均値に近い割合で、免許証を持っている方が多いが、後期高齢者になると女性はほとんど免許を持っていないという状況が見て取れる。
- ◆ 交通というのは「派生需要」であるという認識が必要で、基本的には、ある目的を果たすために移動するということである。多くの高齢者は、行わなくてはならない目的や行かなくてはならない場所といった制約が非常に少なくなる。楽しい、面白い、やりがいがあるといった目的や場所が必要である。
- ◆ コミュニティバス利用者は、70代80代のお年寄りが非常に多くて、7割ぐらいが高齢者ということになっている。
- ◆ 地域で独自に導入している事例として、地域で共同して交通システム（東栄町、設楽町、豊根村の3町村）を作っていたり、コミュニティバスと民間バスを連携（愛知医科大学病院のバスターミナルを整備して、名鉄バスと長久手市、尾張旭市、瀬戸市のコミュニティバスが乗り入れている）していたり、コミュニティバスとタクシーとの連携（みよし市や武豊町）や、企業が行政と連携してデマンド型の乗合タクシーを運行する（豊明市）といった仕組みを導入している例がある。
- ◆ 移動する際、特に通院する場合は、自分の市町村内だけで動いているわけではないので、隣接・近接する市町村との連携が必要だと思う。
- ◆ バス停まで来ることができない人は、タクシーの活用や自家用有償運送のような個別輸送の仕組みも作っていく必要がある。

- ◆ 全国的にMaaSが拡大していくと思うが、60歳代ぐらいまではスマホが使えるが、70歳以上になると紙媒体が主となっている。これから70歳以上の人にどう使ってもらうかが課題である。

#### <葛谷委員（名古屋大学大学院医学系研究科教授）>

- ◆ 外出の際にどこまで移動するかというライフスペースの拡大は健康度と関係があり、遠くまで移動している人は健康である。移動手段を確保していくことは高齢者の健康につながっていく。
- ◆ 外出する目的が段々少なくなってきた、今日行くところがなくなると、ますます外出しなくなるため、高齢者の外出する気が起こるような企画などが増えれば、何としてでも出掛けようと思う人が増えてくるのではないか。
- ◆ 免許返納については、80歳以上は判断能力も衰えるし、反射能力も落ちるので、返納した方がよいとは思いますが、一方で車が無ければ移動するのに困る高齢者もたくさんいるので、コミュニティバスなどの移動手段の確保を同時並行でやっていないといけない。

#### <原田委員（日本福祉大学副学長）>

- ◆ 福祉の分野では、買い物と通院の2つが外出支援の大きな目的となっている。外出支援とともに、宅配の仕組みや在宅診療の充実といった、外出しなくても良い仕組みも必要であり、移動と生活支援の問題を合わせて考えていく必要がある。
- ◆ 買い物や通院などは絶対に必要なものだが、日常以外でお墓参りとか、ちょっとお出掛けする観光なども高齢者の生活の質を高めるためには大切で、そのあたりの移動の問題も考えないといけない。
- ◆ 福祉有償運送や市民による無償運送と公共交通がどうつながっていくのか、その組み合わせも課題だと思う。

#### <今井委員（NPO法人知多地域成年後見センター事務局長）>

- ◆ バス停が遠いという声を聞くが、自家用車の便利さに慣れ、バスを使い慣れていないからだと思う。移動の足も含めて、できる範囲で暮らすという考え方が大切だと思うし、本当に便利さを追求し続けられないといけないのか、一度、立ち止まって考えるべきだと思う。
- ◆ 新しい移動サービスとして、ウーバーみたいな、一般の人にらせてもらうような取組（ライドシェア）がもっと広がれば良いと思う。知多地域成年後見センターで開催するイベントでは、自分で運転できない人は、友人に頼んで乗せてもらう人が多い。一方、既存のタクシーは、来てほしいときに来てくれない現状があり、不便を感じることもある。

- ◆ 新しい取組を考える際は、地域で考えていくべきだと思う。瀬戸市の菱野団地の取組のような、良い取組を真似して広げていくのが良い。自分たちで考えた方が楽しいと思うし、特に男性高齢者は、送迎ボランティアなどに向いているのではないか。
- ◆ 県の関わり方としては、立ち上げの時は支援すべきだと思う。また、県が成功事例を宣伝して、住民に視察に行ってもらうことも大切だと思う。

#### <井澤委員（名古屋学院大学現代社会学部長）>

- ◆ 本当は歩ける範囲で通院とか買い物ができる空間を作っていくのが一番望ましいが、必ずしもそういうまちばかりではないため、いかに快適に距離を歩かせるのかというのが高齢社会にとって重要だと考えている。例えば、夏日に木陰の中を歩ける環境とか、ベンチ等の休憩施設があるとか。歩くことはいろいろな効用があると言われている。
- ◆ 様々な規制はあるものの、民間の商業施設の巡回バスなど民間のパワーを活用して、買い物難民や通院などの問題を解決する「歩く＋移動」の仕組みができればと思う。

#### <安田委員（名古屋大学大学院情報学研究科教授）>

- ◆ 高齢者には、自動運転のようなものを使うより、コミュニティバスのような人が乗っていてコミュニケーションがとれる移動が重要ではないかと思う。また、隣接する自治体のコミュニティバスを圏域を超えて連携させることができれば、例えば買い物や通院が域外までより容易に行けるようになるのではないか。さらに、観光についても域外まで含めた観光プランが立てられるといった効果も期待できると思う。
- ◆ タクシー業界との問題があると思うが、世界的な潮流となっているウーバーとかディディ（D i D i）のシェアリングサービスを、過疎地域に限って認めて、人の温かみのある高齢者向けのモビリティサービスとしてやってはどうか。

## (4) 高齢者の多世代交流について

### 有識者からの主なご意見

<ゲストスピーカー：望月知子氏（山口県宇部市政策広報室長）>



- ◆ 私は、厚生労働省に勤めていたが、U I Jターンで地元に戻って、宇部市役所に転職した。宇部市には大学や医療機関などが立地しているにもかかわらず、若い人材が流出していくことが課題である。
- ◆ 宇部市のC C R Cは、高齢者の移住やアクティブシニアの活躍だけでなく、子育て世代を含めた様々な世代による、宇部市独自の地域支え合いの仕組みづくりとして「地域支え合い包括ケアシステム」と連携し進めている。
- ◆ この「地域支え合い包括ケアシステム」を推進するため、24の小学校区で、住民自らが地域計画をつくって、地域ごとに様々なプロジェクトを実施するなど、地域で支え合えるまちづくりに取り組んでいる。行政は地域支援員と保健師から成る「地域・保健福祉支援チーム」によって、それを支援している。
- ◆ 「地域・保健福祉支援チーム」を中心に、アウトリーチ型で高齢者をはじめとする福祉施策を展開してきた。そういう意味で、助成金よりも人材育成やアイデアが重要。
- ◆ 近年、多機関のつながりで問題を解決していかなければならないことが非常に増えており、複合的な問題に対応するために、「福祉なんでも相談窓口」を市内に15か所設けている。

- ◆ 「「ちょこっと活動・就労・活躍」事業（通称「ちょこ活）」という、高齢者の方に地域でちょこっとだけ活躍していただく事業を行っている。概ね週に1、2回程度、地域の身近なところで活動していただくもので、登録された方に地域活動や就労の情報を提供している。
- ◆ 「「スマートウェルネスシティ（住民が健康で元気に幸せに暮らせることを目指す新しいまちづくりの形）」は、鹿児島県指宿市、岩手県遠野市などとの飛び地型自治体連携で推進している。競争相手でもある近隣自治体でなく、離れた自治体が集まることでスケールメリットを出している。
- ◆ 山口県全体で、コミュニティスクールを進めているが、学校教育とか学校の安全確保、地域資源の教育にも高齢者の方に入っていただき、生徒のシビックプライドを育てていくということが必要だと思う。
- ◆ コミュニティスクールごとにいろいろなプロジェクトをやっており、例えば子ども食堂みたいに、朝ご飯を食べていない子ども等への対応や、地域の郷土史を教えるとか、学校の安心安全の見守り活動をする等、高齢者の方にも参加してもらっている。

#### <葛谷委員（名古屋大学大学院医学系研究科教授）>

- ◆ まちづくりにおいて、高齢者だけのための様々な施策をやっても、寿命もあり高齢者はいずれ亡くなってしまう。同時にまちづくりを支える若い人に移住してもらおう取組も大事だと思う。
- ◆ 高齢者向けのサロンは押し付けではなく、参加したいと思えるよう、若い人の力を借りるなどして、魅力的なサロンにしていける必要がある。
- ◆ サロンなど高齢者施策を拡大していても、それを支える人材がいない。高齢者のリーダーとなる人材を育成していける必要がある。例えば、率先的に催し物に参加してくれる人たちを集めて、高齢者用のカレッジを作り、そこで率先してやるような人達を、市がお墨付きを与えてリーダーとなってもらおう。ただ、ずっとリーダーもできないので、定期的に高齢者のリーダー育成の組織・仕組みを作られると良いのではないか。
- ◆ いろいろな取組を行ったとしても、その場所になかなか行けないとか、そういう移動の課題に関してどういうふうに改良していくかということも、同時にやっていかなければいけない。

#### <原田委員（日本福祉大学副学長）>

- ◆ 住民参加のまちづくりをしようとすればするほど、人手が足りなくなっていくので、一定程度、専門職の措置などをしっかりしていく必要がある。

- ◆ 宇部市の「地域支え合い包括ケアシステム」のネーミングは、的を射ている。専門職の連携だけでなく、住民も参画してお互い支え合っていくことが大切ではないか。また一方で、住民に任せっきりにするのではなく、住民との協働が重要である。
- ◆ 多世代交流では、世代間のつなぎ役としてコーディネーターの存在が大変重要である。
- ◆ シビックプライドの醸成には、多世代交流が大切である。お年寄りから子どもたちに、何か直接的に伝承するという技術を学ぶというだけではなく、地域の良いところや好きなところを伝えていくべきではないか。

#### <今井委員（NPO法人知多地域成年後見センター事務局長）>

- ◆ 住民主体でサロン等を運営すると、行政が運営する場合と比べて自由度が高いというメリットがある。そのため、住民が自発的に運営し、行政はその後押しをするという形が良い。
- ◆ 特に若い女性が東京に流出してしまう要因としては、東京だと男女差なく平等に働けるからである。人材の流出を防ぐにはそうした観点も重要ではないか。

#### <井澤委員（名古屋学院大学現代社会学部長）>

- ◆ 高齢者の能力を活かすにはコミュニティビジネスが有効だが、高齢者の能力や人材を、ニーズとマッチングさせることができるとより活性化することができる。
- ◆ 地域のことを考える際には、狭い範囲で考えるのではなく、他の成功事例にも目を向けるなどグローバルな観点で考えることが必要である。
- ◆ 地域資源を有効に活用するため、JAのような様々な業態を持っている団体を上手く地域活動の中に取り入れられると面白いのではないか。

#### <安田委員（名古屋大学大学院情報学研究科教授）>

- ◆ 世の中は利便性を追求する傾向にあるが、高齢者の知識・知恵や歴史の伝承も重要である。そうした知識・知恵は地域防災にも役に立つのではないか。
- ◆ 多世代交流の観点から、退職された情報技術者が、小学校などで情報教育に携わる仕組みが必要である。また、県立高校などで、草の根的にITに秀でた人材を発掘するため、高齢者のメンターを配置できると良い。
- ◆ 核家族化に伴い、若い世代の人の老化や死に対する感覚が鈍っている。そのため、高齢者と幼稚園児や保育園児との触れ合いの機会があると良い。高齢者の方の特技とか趣味をクラブ活動に活かすような仕組みづくりがあっても良いと思う。そういった方々の名刺に、例えば自治体が任命して肩書きを書けるような仕組みがあると、高齢の方にとっての生きがいにつながるのではないか。

### 第3章 本懇談会で得られた知見と、それを踏まえた取組

#### (1) 本懇談会で得られた知見（全4回の総括）

- ◇ 高齢者にとって大切なのは、「きょうよう（今日用事があること）」と「きょういく（今日行くところがあること）」であり、高齢者が地域で孤立することを防ぐためには、地域活動への参加を促すことが重要である。
- ◇ 高齢者の社会参加は、生活機能や健康度に合わせて、就労、ボランティアや趣味、さらに近所付き合い等へと変わっていくため、そうした活動を入口から出口までどう支援していくかが課題である。
- ◇ 年金収入に加えて現金収入4～5万円があると生活が落ち着いてくるので、そこをコミュニティビジネスで稼ぐことができる仕組みを作っていく必要がある。
- ◇ 働く場所と地域をどう結びつけるかという仕組みが重要で、地域のコンシェルジュ（コーディネーター）が必要である。
- ◇ 地域活動の担い手が不足している現状において、担い手の養成及び活動の場の提供が必要であり、また、多世代交流を通じた地域活動を実施することは、高齢者の健康だけでなく、子どもや若者の成長にも良い影響がある。
- ◇ ライフスペースの拡大と健康度には関連があり、遠くまで移動している人ほど健康であるため、高齢者の移動手段の確保が重要である。
- ◇ 福祉有償運送や市民による無償運送と公共交通がどうつながっていくのか、その組み合わせが課題である。

高齢社会懇談会における有識者の意見等を踏まえ、移動支援を含めた、高齢者の社会参加を促す事業を、地域住民に密着した市町村において主体的に取り組んでいただくため、2020年度から3年間、3つの新たなモデル事業を市町村に委託して実施していく。



## (2) 本懇談会での意見を踏まえたモデル事業の実施（高齢者社会参加推進事業）

### ◆ 目的

高齢者を取り巻く広範かつ多岐にわたる課題に対応するため、「高齢社会懇談会」における有識者の意見等をもとに、高齢者の社会参加を促す新たなモデル事業を実施し、高齢者がいきいきと輝く社会の実現を目指していく。

### ◆ 事業内容

#### ① 高齢者がいきいきと輝くまちづくりモデル事業（市町村委託事業：3年間実施）

##### ア 高齢者の就労・生きがいくりの一体的支援（3市町村）

高齢者個々の健康状態や就労意欲に応じ、就労からコミュニティビジネス、ボランティア等について幅広く情報提供を行う総合窓口を設置するなど、一体的な支援を行うための取組を実施する。なお、企業退職後にスムーズに地域活動に移行できるよう、退職前の方も対象とする。

##### イ 多世代交流を通じたシニアの活躍推進（3市町村）

地域活動に興味があるものの活動に携わっていない高齢者に対し、子どもを対象とした地域活動への参加を促すとともに、担い手としての活躍を推進するため、子どもが集う施設等（学校、児童館、公民館等）において、地域活動（例：絵本の読み聞かせ、プログラミング教室等）を実践する取組を実施する。

##### ウ 高齢者の移動支援（6市町村）（※）

高齢者の社会参加を促す環境づくりとして、免許を返納したり、運転に不安を持つ高齢者等が自家用車に依存しなくても生活できるよう、地域の実情に応じた移動手段の確保、拡大を図るため、既存の公共交通機関、地域の社会福祉協議会、NPO法人、地域住民等を実施主体とする多様な輸送サービスを有機的に組み合わせて、高齢者の移動支援体制を構築する。

※ 本事業を推進するにあたり、県において、交通・福祉関係者等が一堂に会し、連携体制を協議するネットワーク会議を開催するとともに、関係法令や多様な輸送サービスに見識のあるアドバイザーを派遣することにより、実施市町村を支援する。

#### ② 普及啓発事業（県事業）

##### ア キックオフイベントの開催

社会全体における高齢者の社会参加の気運の醸成を図るとともに、市町村モデル事業の実施を周知するため、フォーラム形式のキックオフイベントを開催する。

##### イ アクティブシニアとしての地域デビューを促す応援隊の派遣

地域活動への関心が薄い高齢者の意識変革等を図るため、学生等の希望者により構成する応援隊を高齢者が活躍する地域のイベントやサークル活動等へ派遣し、その活動の様子をSNS等で情報発信する。



# 参 考 资 料



# 高齢社会の現状と愛知県の取組

2019年5月24日（金）  
第1回高齢社会懇談会

## 目 次

- 1 統計データで見る高齢社会の現状と課題
  - (1) 人口・世帯
  - (2) 健康・福祉
  - (3) 生きがい・社会参加
  - (4) 就業
  - (5) 住まい
  - (6) まちづくり
  - (7) 交通安全・防犯
  
- 2 高齢社会に向けた愛知県の主な取組

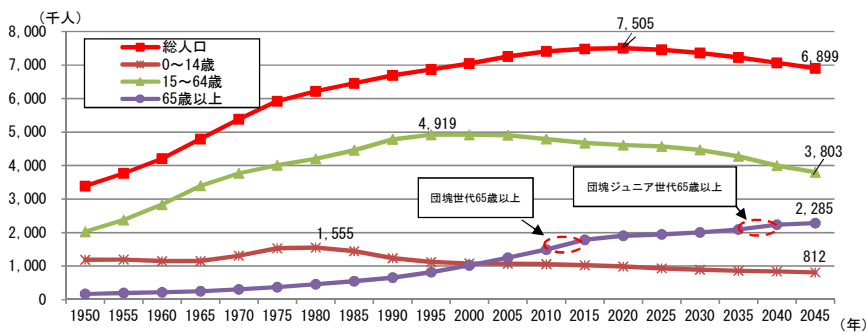
# 1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

## (1) 人口・世帯

### 1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

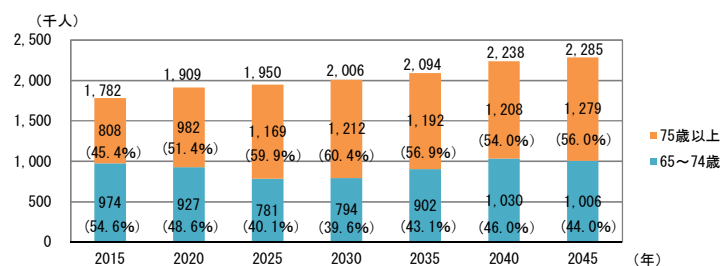
- ・ 全国の総人口は2008年をピークに既に減少しているが、国の推計によると本県ではピークが遅く、2020年を境に減少していくとされている。一方、高齢者人口（65歳以上）は2020年以降も一貫して増加する見込み。
- ・ 今後、団塊の世代の高齢化に伴い、2020年以降は、75歳以上の人口が65～74歳の人口を上回る見込み。

#### ◆本県の人口の推移と将来推計



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成30年(2018年)推計)」

#### ◆本県の65歳以上の高齢者人口の推移と将来推計



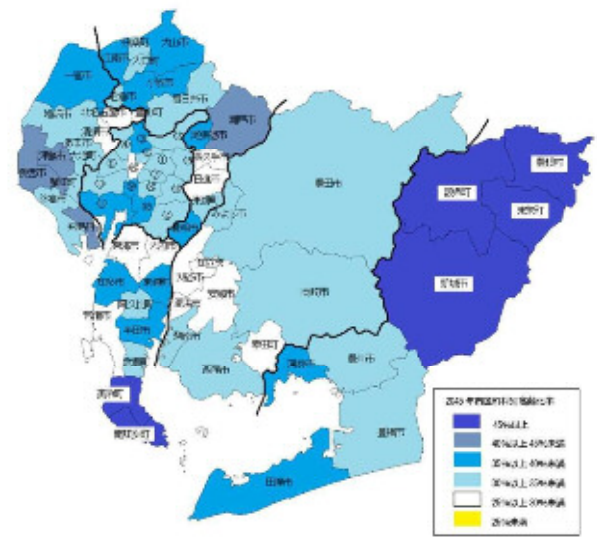
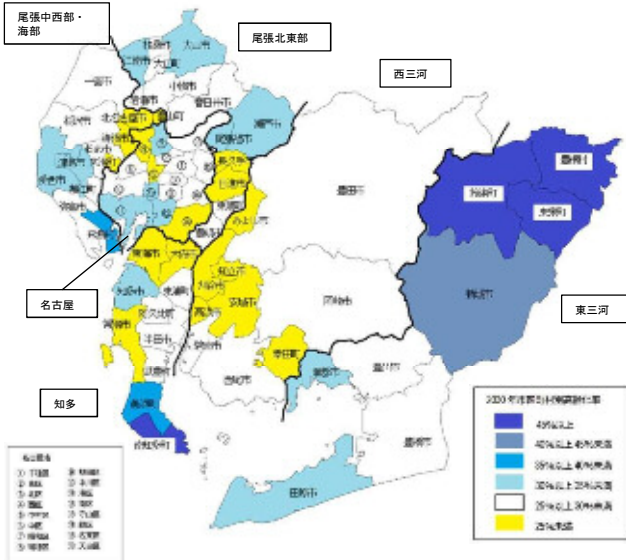
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計(平成30年(2018年)推計)」

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

- ・高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）について、県全体では2030年で27.3%（全国31.2%）と人口の約4分の1を上回る程度だが、2045年では33.1%（全国36.8%）となり、人口の約3分の1を65歳以上の高齢者が占めることが見込まれる。
- ・地区別では、比較的若い人口構造を維持できる西三河地区に対して、尾張北東部、尾張中西部・海部や東三河の各地区においては、県全体の平均を上回って高齢化が進む見込み。

◆2030年の高齢化率（市区町村別）＜県全体の高齢化率：27.3%＞

◆2045年の高齢化率（市区町村別）＜県全体の高齢化率：33.1%＞

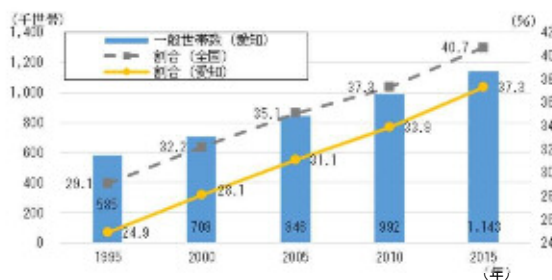


出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年（2018年）推計）」

1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

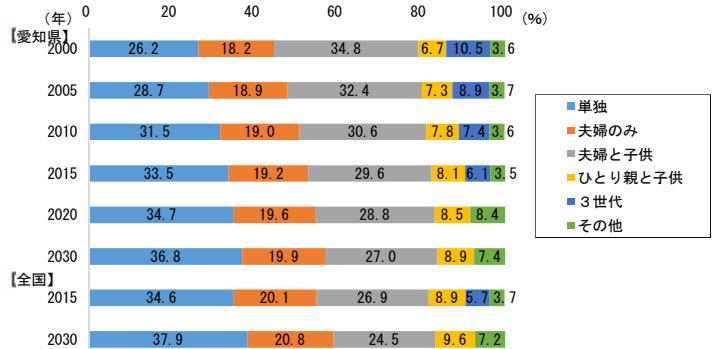
- ・急速な高齢化を背景に、65歳以上の者のいる一般世帯数の割合の上昇が続いており、2015年では全国が40.7%（約2,171万世帯）、本県が37.3%（約114万世帯）となっている。
- ・一般世帯における世帯構成の推移を見ると、夫婦と子供の世帯が減少し、単独世帯数の割合が増加傾向にある。また、65歳以上の単独世帯の割合も全国同様、上昇傾向にある。

◆65歳以上世帯員のいる一般世帯数と一般世帯全体に占める割合



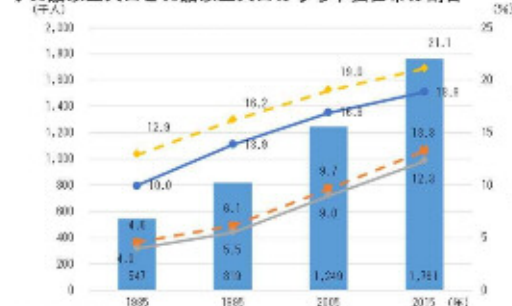
出典：総務省「国勢調査」

◆一般世帯における世帯構成の推移



※2020年以降の3世代世帯の割合については、「その他」に含む。  
出典：総務省「国勢調査」、  
国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（2019年推計）」

◆65歳以上人口と65歳以上人口のうち単独世帯の割合



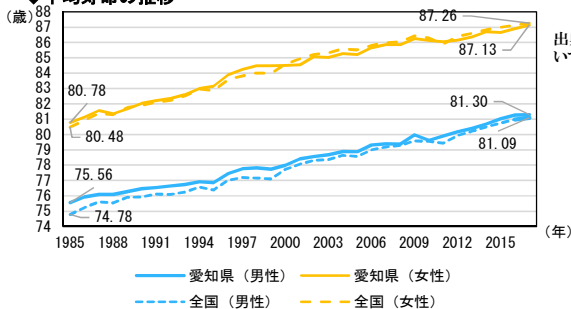
出典：総務省「国勢調査」

## (2) 健康・福祉

### 1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

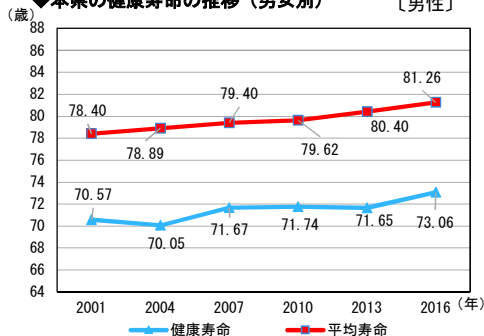
- ・本県の平均寿命は、1985年から2017年の32年間で、男性で75.56歳から81.30歳、女性で80.78歳から87.13歳と、男女ともに5歳以上伸びている。
- ・本県の健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）は、直近の2016年時点で、女性で全国1位の76.32歳、男性で全国3位の73.06歳と高い水準となっており、平均寿命と同様に、健康寿命も延伸傾向にある。（平均寿命と健康寿命の差 男性8歳、女性10歳）

#### ◆平均寿命の推移

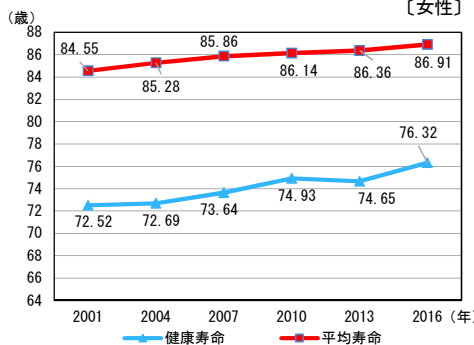


出典:愛知県「平成29年愛知県民の平均寿命について」(2018年12月)

#### ◆本県の健康寿命の推移 (男女別)



[女性]



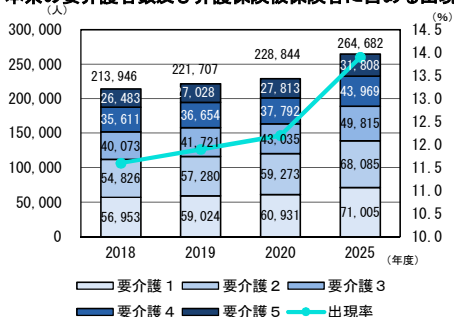
出典:平均寿命は愛知県「平成29年愛知県民の平均寿命について」(2018年12月)、健康寿命は厚生労働科学研究「健康寿命及び地域格差の要因分析と健康増進対策の効果検証に関する研究(平成28～30年度)」

4

### 1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

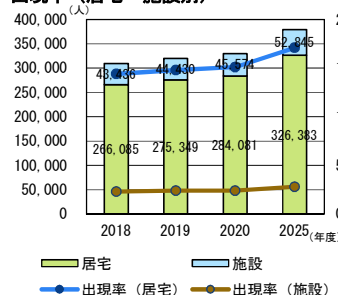
- ・本県の2025年度の要介護者数は、2018年度に比べ、5万人以上増加（2018年度:213,946人→2025年度:264,682人）すると見込まれており、65歳以上の介護保険被保険者に占める割合（出現率）も上昇する見込み（2018年度:11.6%→2025年度:13.9%）。
- ・また、施設に入居する要支援・要介護者に比べ、自宅での要支援・要介護者の増加が大きくなることが見込まれる。
- ・さらに、認知症高齢者数も、2012年の約24万人から、2025年には最大で40万人に増加する見込み。

#### ◆本県の要介護者数及び介護保険被保険者に占める出現率



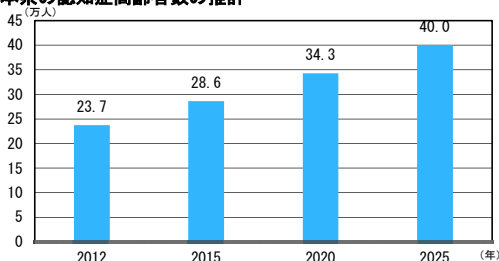
出典:愛知県「第7期愛知県高齢者健康福祉計画」(2018年3月)

#### ◆本県の要支援・要介護者及び介護保険被保険者に占める出現率 (居宅・施設別)



出典:愛知県「第7期愛知県高齢者健康福祉計画」(2018年3月)

#### ◆本県の認知症高齢者数の推計



※「日本における認知症高齢者人口の将来推計に関する研究」による速報値（2015年1月厚生労働省公表）をもとに、愛知県の将来人口推計（65歳以上）に認知症有病率（糖尿病有病率の増加により増加すると仮定した場合）を乗じて算出

出典:愛知県「あいちオレンジタウン構想」(2017年9月)

5



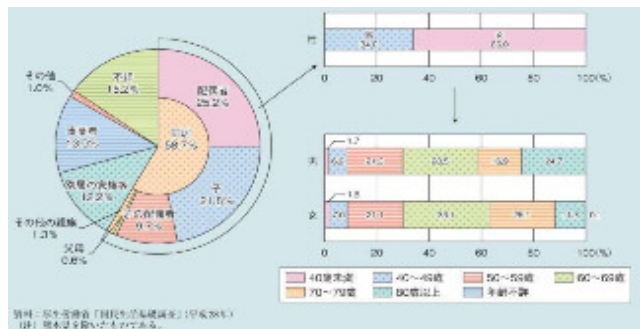
- ・全国調査によると、自分の介護が必要となった場合、どこでどのような介護を受けたいかの希望についてみると、自宅で介護を受けたいと回答した人の割合は全体で73.5%であった。
- ・要介護者等からみた主な介護者の続柄をみると、6割弱が同居者（配偶者、子、子の配偶者）となり、いわゆる「老老介護」のケースも相当数存在している。

◆どこでどのような介護を受けたいか



出典:平成30年版高齢社会白書

◆要介護者等からみた主な介護者の続柄

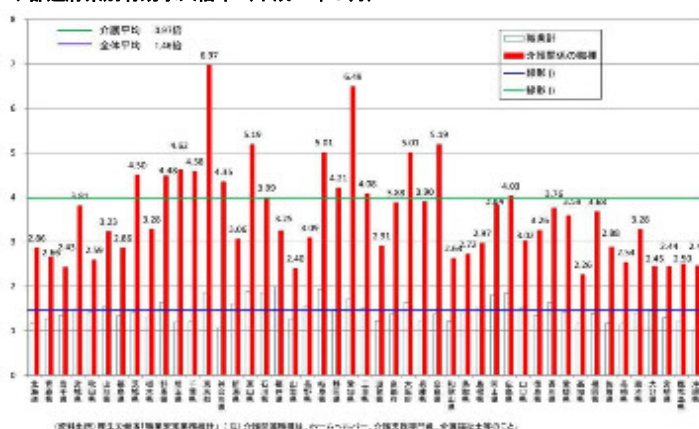


出典:平成30年版高齢社会白書

6

- ・介護に従事する職員数は増加しているものの、依然として介護職員の不足感は高まっており、有効求人倍率は全産業に比べ高い水準にある。特に本県の有効求人倍率は全国で東京に次いで、2番目に高い。
- ・介護人材需給推計によると、本県の2015年の需給推計が釣り合っていると仮定した場合、2025年には11,330人不足すると推計されている。

◆都道府県別有効求人倍率（平成30年8月）



出典:第165回社会保障審議会介護給付費分科会資料

◆本県の介護人材にかかる需給推計

(単位:人)

区分	需要推計	供給推計	需要と供給の差
2015年	91,374	91,374	0
2018年	100,190	98,903	1,287
2020年	107,617	104,147	3,470
2025年	125,273	113,943	11,330

出典:第7期愛知県高齢者健康福祉計画

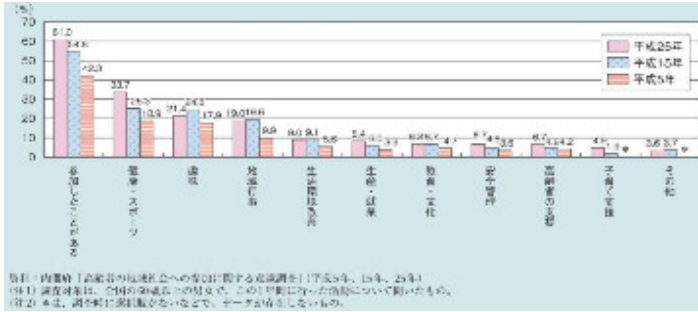
7

### (3) 生きがい・社会参加

#### 1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

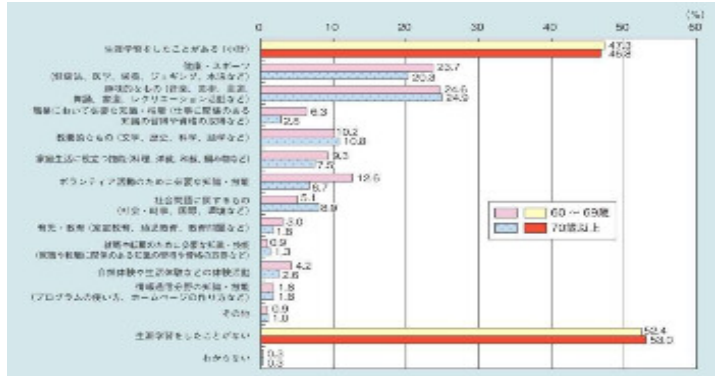
- ・60歳以上の約6割が趣味などを含めたグループ活動に参加したことがあり、この割合は増加している。
- ・生涯学習を行っている60歳以上の者は4割以上で、内容は趣味的なもの、健康・スポーツが多い。

#### ◆ 高齢者のグループ活動への参加状況（複数回答）



出典：平成29年版高齢社会白書

#### ◆ 60歳以上が行っている生涯学習（複数回答）



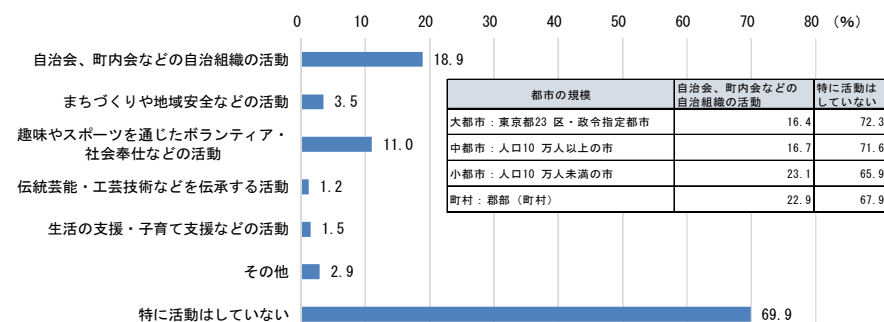
出典：平成30年版高齢社会白書

8

#### 1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

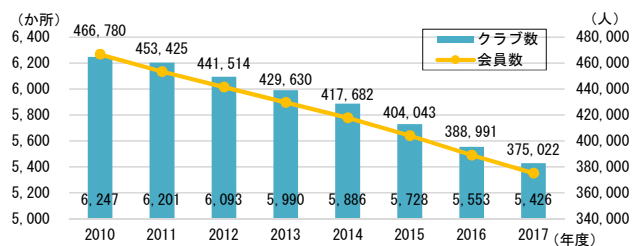
- ・内閣府が全国の60歳以上の者に対して行った調査によると、「住んでいる地域での社会的活動（貢献活動）状況」について、「特に活動はしていない」とする割合が約7割（69.9%）を占めている。
- ・高齢者が増加する中で、「老人クラブ」は、健康づくり、趣味、レクリエーション、学習活動など「生活を豊かにする活動」や、友愛活動、社会奉仕、伝承活動など「地域を豊かにする社会活動」を行っているが、加入者の減少によって、クラブ数、会員数ともに減少傾向にある。

#### ◆ 住んでいる地域での社会的活動（貢献活動）状況について（60歳以上の者）（全国）（2016年）



出典：内閣府「高齢者の経済・生活環境に関する調査」（2016年）

#### ◆ 本県の老人クラブ数と会員数の推移



出典：厚生労働省「福祉行政報告例」

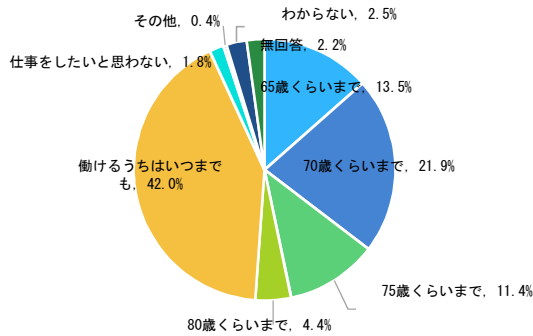
9

# (4) 就業

## 1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

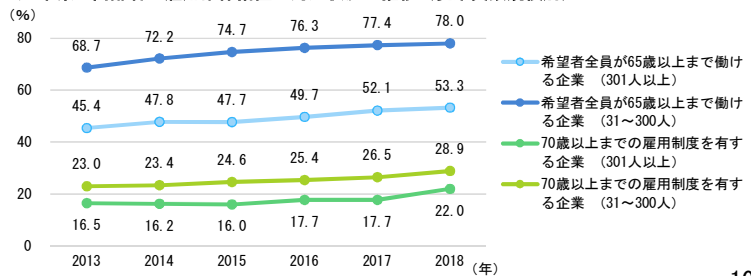
- ・全国調査によると、現在仕事をしている60歳以上の者の約4割が「働けるうちはいつまでも」働きたいと回答している。
- ・大企業より中小企業の方が、高齢者が長く活躍できる環境の整備が進んでいる。

### ◆ 現在60歳以上で仕事をしている者の就業希望年齢（全国）



出典：内閣府「高齢者の日常生活に対する意識調査」（2014年度）

### ◆ 本県の高齢者の雇用確保措置の対応状況の推移（従業員数規模別）



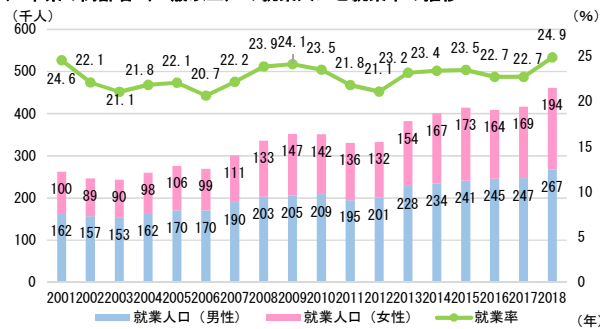
出典：愛知労働局「高齢者の雇用状況」

10

## 1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

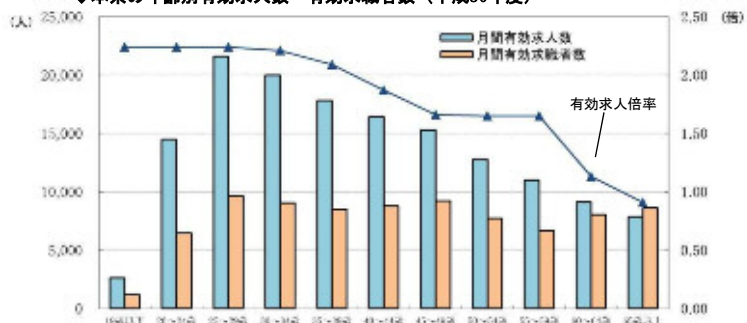
- ・本県の65歳以上の高齢者の就業率は24.9%で、高齢者の就業人口は増加傾向である。
- ・平成30年度の年齢別有効求人数・有効求職者数の状況によると、65歳以上に限っては有効求人倍率が0.91倍と、1.00倍を下回っている。

### ◆ 本県の高齢者（65歳以上）の就業人口と就業率の推移



出典：愛知県「あいちの人口」、愛知県「あいちの就業状況」

### ◆ 本県の年齢別有効求人数・有効求職者数（平成30年度）



出典：厚生労働省愛知労働局「平成31年3月分 最近の雇用情勢」

11

# (5) 住まい

## 1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

- ・全国調査によると、高齢者（65歳以上）のいる主世帯（※）の8割以上が持ち家に居住している。一方、高齢者単身主世帯では、65.6%と持ち家率が低い。
- ・本県では、高齢者のいる主世帯のうち、高齢者のための設備が設置されている住宅は、持ち家では69%となっているが、借家では43%と低くなっている。

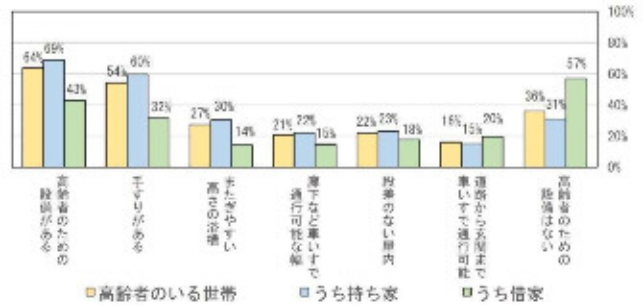
### ◆ 居住の状況



(※)主世帯  
住居と生計を共にしている家族等のうち、同居世帯（家の持ち主や借主でない世帯）以外の世帯を指す。

出典:平成30年版高齢社会白書

### ◆本県の高齢者のいる主世帯における住宅のバリアフリー化の状況



出典:総務省統計局「住宅・土地統計調査」(平成25年)

12

## 1 統計データで見る高齢社会の現状と課題

- ・住宅火災における死者数の7割が65歳以上の者である。

### ◆ 住宅火災における死者数の推移（放火自殺者等を除く）



資料:消防庁「平成28年(1月～12月)における火災の状況(確定値)」

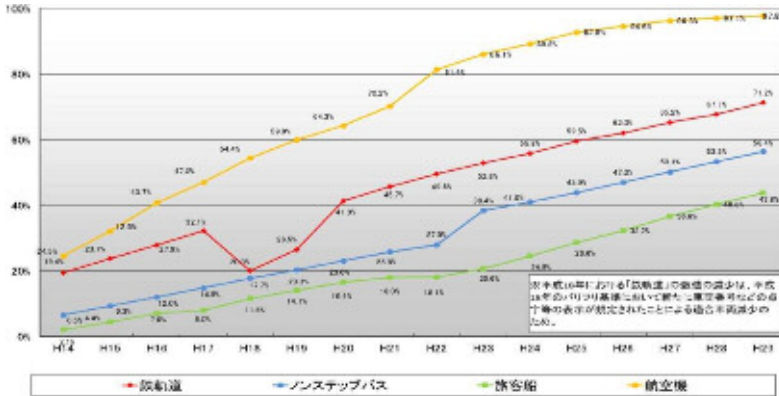
出典:平成30年版高齢社会白書

13

# (6) まちづくり

- ・全国調査によると、公共交通等のバリアフリー化が進んでいる。
- ・60歳以上の方が買い物に行くときの交通手段として、都市の規模が小さくなるほど、自家用車を運転する割合が高くなる傾向がある。

## ◆車両等におけるバリアフリー化の推移



出典:国土交通省「公共交通移動等円滑化実績等報告」

## ◆60歳以上の方が買い物に行くときの主な手段（都市規模別）



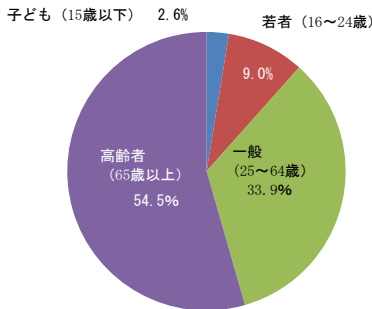
資料:内閣府「高齢者の経済・生活実態に関する調査」(平成28年)  
 (注)1 調査対象は、大分県、熊本県を除く交通圏内世帯の世帯。  
 (注)2 調査対象は、自家で買い物の方で「自分のお店に行く」と回答した者。  
 出典:平成30年版高齢社会白書

14

# (7) 交通安全・防犯

- ・本県の2018年の交通死亡事故では、高齢者の死者数が全死者数の54.5%を占めている。
- ・65歳以上の者の刑法犯罪被害認知件数に占める割合は増加傾向にある。

## ◆本県の交通事故死者の年齢層別割合（2018年）



出典:愛知県警察本部調べ

## ◆65歳以上の者の刑法犯罪被害認知件数



資料:愛知県の統計より内閣府作成。  
 出典:平成30年版高齢社会白書

15

## 2 高齢社会に向けた愛知県の主な取組

### 2 高齢社会に向けた愛知県の主な取組

#### 人口・世帯

〈高齢者人口の増加、  
高齢夫婦・単独世帯の  
増加〉

- ・見守りネットワーク構築の推進
- ・生活支援サービス（独り暮らし高齢者への配食サービス、掃除、調理等の支援）の提供体制の整備

#### 健康

〈健康寿命の延伸〉

- ・高齢者の健康づくり支援（生活習慣病対策等）
- ・介護予防の推進
- ・高齢化に伴い必要となる病床数の確保
- ・在宅医療の提供体制の整備
- ・長寿研と連携した認知症予防プログラム作成

#### 福祉

〈要介護者数・認知症高  
齢者の増加、介護人材  
の不足〉

- ・介護保険サービスの充実
- ・地域包括ケアの推進
- ・保健・医療・福祉人材の養成・確保
- ・介護ロボット、リハビリロボットの活用
- ・「あいちオレンジタウン構想」に基づく認知症サポーターの養成、認知症パートナー宣言

## 生きがい・ 社会参加

〈老人クラブ会員数の減少、社会的活動（貢献活動）への参加状況の低迷〉

- ・ 高齢者の社会参加促進（老人クラブの参加促進）
- ・ シルバーカレッジの充実
- ・ 生涯学習の推進
- ・ 世代間交流機会の拡充

## 就 業

〈高齢者の就業環境の整備〉

- ・ 中高年齢者の早期再就職支援
- ・ 高齢者が意欲や能力に応じて年齢に関わりなく働き続けられる環境の整備
- ・ 高齢者の体力やライフスタイルを踏まえた就業支援
- ・ シルバー人材センターを通じた就業支援

## 住まい

〈借家における高齢者のための設備設置率が低い、住宅火災による死者の多くは高齢者〉

- ・ サ高住等の民間賃貸住宅の供給促進
- ・ 公的賃貸住宅の供給、高齢者の優先入居
- ・ 既存住宅のバリアフリー化
- ・ 住宅防火対策の普及啓発

17

## まちづくり

〈公共交通等のバリアフリー化の促進、外出時の交通手段の確保〉

- ・ 公共施設のバリアフリー化、人にやさしい街づくり条例による指導・助言
- ・ 都市の集約化
- ・ バス路線の維持
- ・ 自動運転の実現に向けた取組

## 交通安全・防犯

〈交通事故死者数や振り込め詐欺の被害者の多くが高齢者〉

- ・ 高齢者向けの交通安全対策、運転免許の返納
- ・ 詐欺被害対策

18





# 高齢者の社会参加に係る愛知県の取組

2019年7月31日（水）  
第2回高齢社会懇談会

## 目 次

- 1 あいちシルバーカレッジの開講
- 2 あいち介護サポーターバンクの運営
- 3 地域学校協働活動への参画支援
- 4 高齢者の地域コミュニティへの参加促進

# 1 あいちシルバーカレッジの開講

高齢者に学習の機会を提供することにより、高齢者自らの学習意欲を助長し、もって生きがいと健康づくりを図るとともに、地域の社会活動の中核となる人材を養成する。

○定員(2019年度) 630名(2018年度 630名)

学 科	定 員	学 科	定 員
名古屋A 文化教養学科	100名 (100名)	豊橋 文化教養学科	80名 (80名)
名古屋A 生きがい健康学科	50名 (50名)	岡崎 文化教養学科	100名 (90名)
名古屋B 文化教養学科	100名 (100名)	一宮 文化教養学科	90名 (90名)
名古屋B 生きがい健康学科	50名 (50名)	東海 生きがい健康学科	60名 (70名)

( )内は2018年度

○修業年限 1年(年間30日)

○在校生の状況

- ・男性 241名、女性389名
- ・平均年齢:70.1歳(男性最高齢:88歳、女性最高齢:83歳)

1

# 1 あいちシルバーカレッジの開講

○学習内容(講師:県内大学教授、医師、弁護士等)

学 科		学 習 内 容
共通科目	一般教養科目	作者とともに「老いの風景を味わおう」、相続・遺言の一般常識、10年長生きするIT活用術、クラシック音楽への誘い、次の地震に備えて、歌舞伎ばなし など
	地域活動支援科目	今の人生に楽しさと生きがいを、地域社会と高齢者、生涯学習と高齢者 など
専門科目	文化教養学科	郷土の文学、古画を読む、川柳を楽しもう、地域のことは、外国文化、愛知の官道と古代遺跡、日本のやきもの、海洋生物のおかれている状況と人間活動 など
	生きがい健康学科	ライフサイクルの中の高齢期、健康で元気に生きる、家庭でできる健康体操、高齢者の食生活、老化の研究の最前線、薬と上手に付き合う方法、日本茶の歴史と効用 など

講義のほか、修学旅行(1泊2日)や社会見学(日帰り)を実施することで学生同士の交流を深める。



2

## 2 あいち介護サポーターバンクの運営

アクティブシニアを始めとした幅広い人材層の参入を促すため、「介護に関する入門的研修」の受講者をあいち介護サポーターとして登録し、介護事業所からの紹介依頼に応じてマッチングを行う。

### ○研修内容

- ・基礎講座(半日間)  
⇒介護に関する基礎知識、介護保険サービス、介護予防体操
- ・入門講座(3日間)  
⇒基本的な介護の方法、認知症・障害の理解 等

### ○活動内容

清掃、配膳、利用者の話相手 等

### ○登録者数(2018年度)

273人 [60歳以上 145人]

### ○マッチング件数(2018年度)

173件 [60歳以上 96件]



3

## 3 地域学校協働活動への参画支援

子供の成長を軸として地域と学校が連携・協働する地域学校協働活動に参画できるよう支援することで、高齢者個々の自己実現を目指すとともに、地域の将来を担う人材の育成と地域の活性化を図る。

### ○活動内容

- ・放課後子供教室<sup>※1</sup>や地域未来塾<sup>※2</sup>等による居場所づくり・学習支援
- ・本の読み聞かせや学校環境の整備等の様々な学校への支援活動
- ・地域の自然や文化、伝統を学ぶ等の体験活動支援

### ○活動への支援

- ・放課後子供教室や地域未来塾等を実施する市町村への事業費補助
- ・地域と学校をつなぐ地域コーディネーター等の育成
- ・地域学校協働活動推進に向けた啓発

※1 放課後子供教室:放課後等に全ての児童を対象として学習や体験・交流活動を行う事業  
2018年度:29市町309教室(名古屋市・中核市を除く。)

※2 地域未来塾:学習が遅れがちな中学生等を対象に実施する原則無料の学習支援  
2018年度:18市町62中学校区(名古屋市・中核市を除く。)

4

## 3 地域学校協働活動への参画支援

### 様々な地域学校協働活動

#### 定義

「地域学校協働活動」とは、幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして、以下の様々な取組を組み合わせる実施する活動

<p><b>学びによるまちづくり・地域課題解決型学習・郷土学習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域資源を理解し、その魅力を伝えたり、地域活性化のための方法を考え、実行する学習活動</li> <li>◆「ふるさと」について地域住民から学び、自ら地域について調べたり発表したりする学習活動</li> <li>◆地域の産業や商店街の職場体験学習、郷土の伝統・文化芸能学習 など</li> </ul> 	<p><b>放課後子供教室</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として行う、学習や体験・交流といった多様な活動</li> </ul> 	<p><b>地域未来塾</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆中学生・高校生等を対象に、教員OBや大学生などの地域住民の協力によって行う学習支援</li> </ul> 
<p><b>家庭教育支援活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆寄り添いが必要な子供、不登校傾向のある子供等への対応について、保護者が学び合う機会づくり など</li> </ul> 	<p><b>学校に対する多様な協力活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆登下校の見守り、花壇や通学路等の学校周辺環境の整備、子供たちへの本の読み聞かせ、授業の補助や部活動の支援 など</li> </ul> 	<p><b>地域の行事、イベント、お祭り、ボランティア活動等への参画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域イベントにおけるボランティア体験学習、伝統行事やお祭りでの伝統文化・芸能の発表や楽器の演奏、地域の防災訓練への参画 など</li> </ul> 

5

## 4 高齢者の地域コミュニティへの参加促進

高齢者の孤立を防ぎ、社会参加を促進するため、高齢者が参加しやすいように配慮した通いの場の創設・運営をモデル事業として3か年にわたって実施し、そのノウハウ、実施内容をマニュアルにまとめ県内市町村での展開を図る。

#### ○内容

- ア 対象者 高齢者及びその近親者(配偶者、息子、娘、兄弟姉妹等)
- イ 実施方法 NPO等に委託実施
- ウ 実施場所 11ヶ所(予定)
- エ 事業年度 2019年度から2021年度まで

#### ○特徴

- ・高齢者のみでなく、近親者も対象とした内容とする
- ・参加者への声かけなどを行うコーディネーターを配置する
- ・同じ内容の繰り返しではなく、多様な活動を行う

※活動例: 介護予防を目的とした健康マージャン、健康体操、コミュニティカフェの複合開催や多世代交流事業の企画・実施など

6

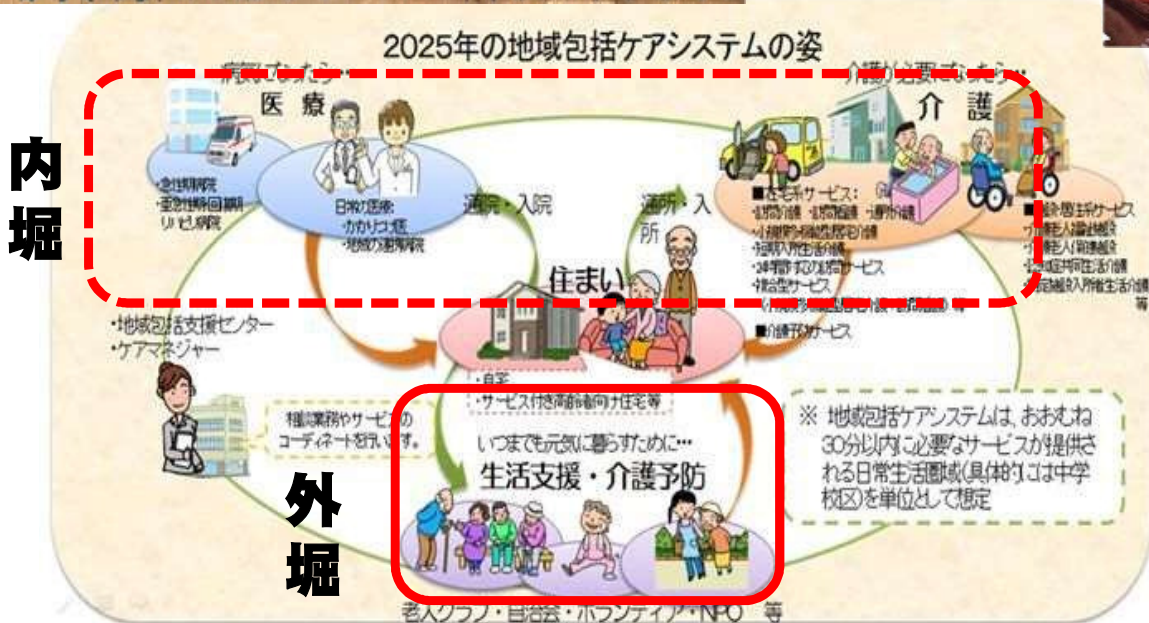
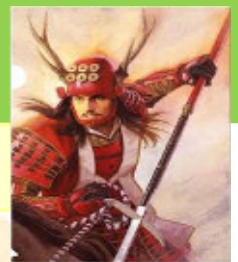
# 愛知県 第2回高齢社会懇談会

## 高齢者の社会参加が拓く、持続可能な地域づくり



**2019/7/31 愛知県議会議事堂 1階**  
**東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム**  
**藤原佳典**

# 歴史に学ぶ～地域包括ケアシステムは戦略



# 今、なぜ多世代アプローチなのか？

## 「我が事・丸ごと」 共生社会の肝は

➤ 「丸ごと」とは、  
「三方よし」 「論語と算盤」 (澁澤栄一)



➤ 「我が事」とは、  
「子供叱るな来た道だもの、  
年寄り笑うな行く道だもの」

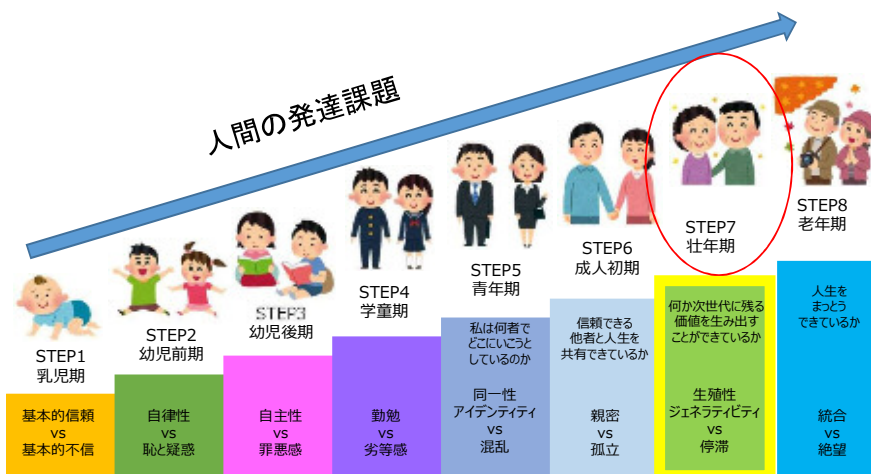


(澁澤栄一)

## 高齢者の視点・次世代継承への意識・行動

### Generativity理論

「次世代の価値を生み出す行為に積極的に関わること」



Erikson心理社会的段階目録検査

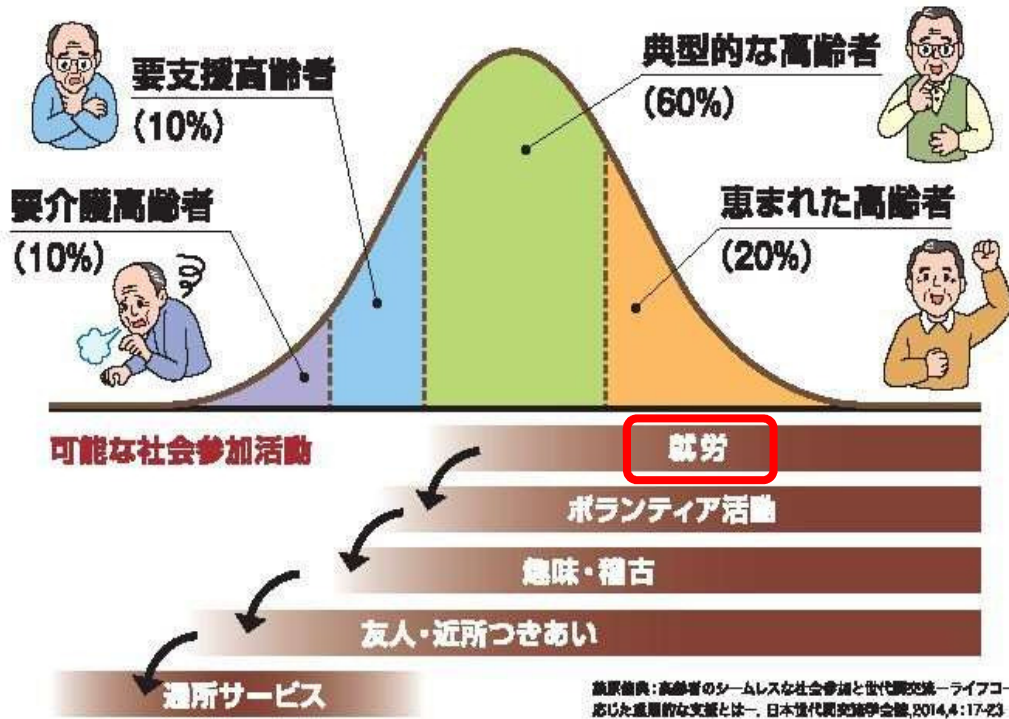


▲ E.H.エリクソン (1963)



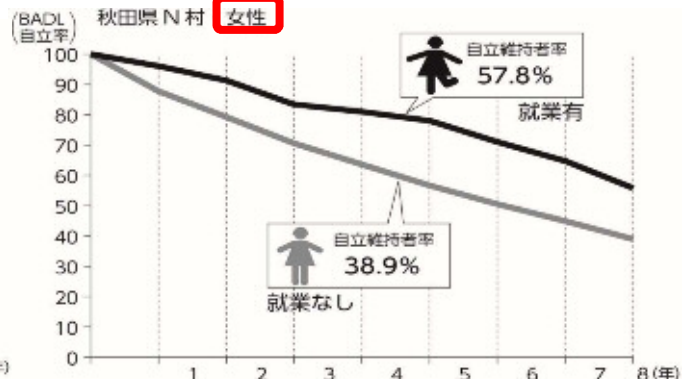
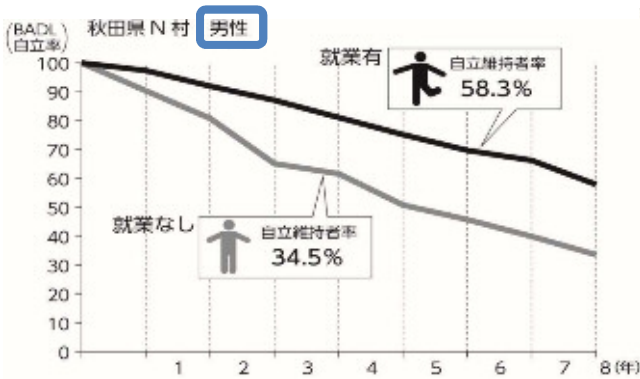
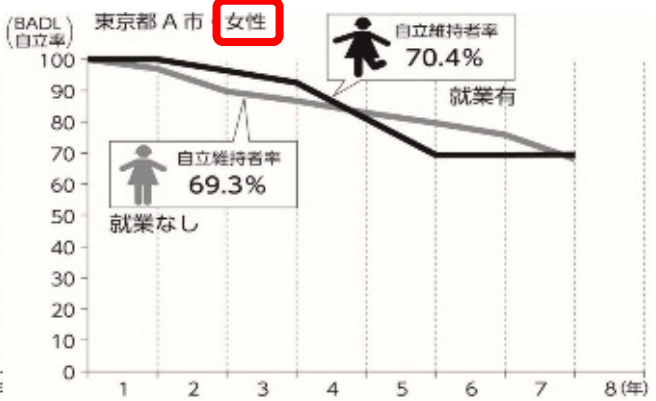
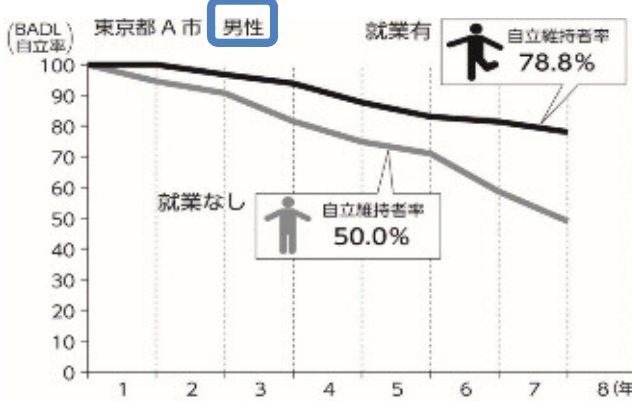
➡ 英知、思い、技術、経験、文化、環境・・・何かを伝える

# 高齢者の機能的健康度による分布と社会参加活動の枠組み



5

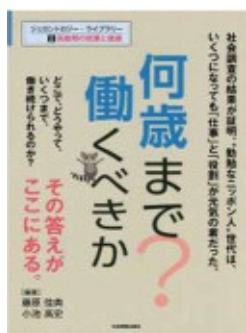
## 就業が生活機能の維持に及ぼす意義



Fujiwara, Y. et. al.: Geriatr Gerontol Int 2016; 16: 126-134を改編 (株) 社会保険出版社「何歳まで働くべきか」藤原佳典・小池高史 (編者)

6

2014年～高齢者就労支援のあり方  
研究会(研究者・実務者)を計25回開催



社会保険出版社



ミネルヴァ書房

USPS&研究 基礎研究(A)  
「大都市圏高齢者の実態解明およびシームレスな社会参加支援に向けた研究」(研究代表者:藤原伸典)

**第2回 公開シンポジウム**

**介護福祉領域における高齢者就労の展望**

平成31年3月16日(土)  
13:30~17:30  
桜美林大学 四谷キャンパス(千駄ヶ谷)

**入場無料**  
事前申し込み要  
締切3/8

**プログラム**

**開会挨拶**  
講演 佐典 氏 (東京初級保健長寿医療センター-研究員)

**第1部 トピック発表 高齢者就労を盛り込む環境**  
座長: 青 高 氏 (高知医科大学)  
柳家 隆二 氏 (日本大学)  
小池 真史 氏 (九州歯科大学)  
松永 博子 氏 (東京聖隷済生看護医療センター-研究員)  
高橋 知也 氏 (東京聖隷済生看護医療センター-研究員)

**第2部 特別講演**  
テーマ: 将来の介護福祉と高齢者就労  
座長: 長田 久雄 氏 (桜美林大学)  
講演 前田 翔三 氏 (経済産業省経済産業政策局長兼産業構造課)

**第3部 シンポジウム**  
テーマ: 持続可能な社会へ向けた高齢者の介護福祉就労の展望  
座長: 藤原 伸典 氏 (東京初級保健長寿医療センター-研究員)  
1. 高齢者が活躍できる介護事業所の好事例報告  
相良 友敬 氏 (東京聖隷済生看護医療センター-研究員)  
2. 研究者・実務者によるディスカッション  
渡辺 修一郎 氏 (桜美林大学)  
塚本 成典 氏 (筑波大学)  
石橋 智司 氏 (ダイヤ福祉社会実務院)  
大川 直人 氏 (社会福祉法人 永上長寿園)  
都沼 英一 氏 (社会福祉法人 三陽福祉会 社の総しハウス文京関口)  
中井 祐輔 氏 (株式会社みづつあ)

<お問い合わせ先>  
東京聖隷済生看護医療センター-研究員  
社会参加と地域保健研究チーム (担当: 杉良, 真穂)  
TEL: 03-9364-3241(内線4257) E-mail: essence@img.or.jp

<お申し込みフォーム>  
<https://form087.biz/4767d38c/>  
※ スマートフォンの場合は、QRコードで参加登録をお願いいたします。

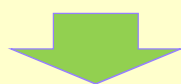
【主催】 ESSENCE研究会-東京初級保健長寿医療センター-研究員 社会参加と地域保健研究チーム 【後援】 桜美林大学

7

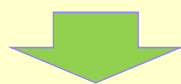
## 高齢者就労のめざす、三方よし



**高齢者に良し**  
**+ 雇用者・現職に良し**  
**+ 地域社会に良し**



**直接感謝される働き方**



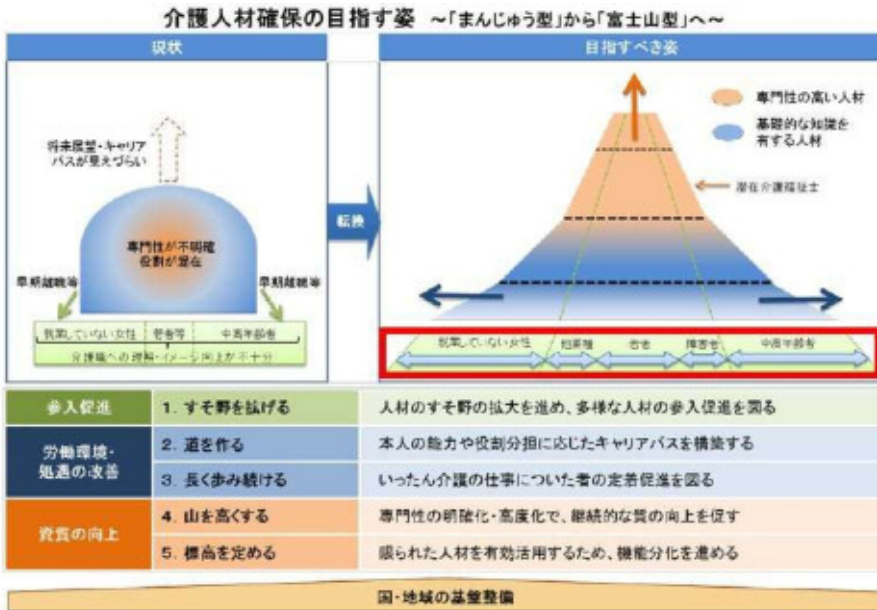
**技の継承、ワークシェア、介護・育児支援・・・**

ESSENCE研究会ステートメント(2019/3/16)

8



# 2025年に向けた介護人材の構造転換と「新たな担い手」



**切り札は、介護助手**

成功のカギは、次の3つ

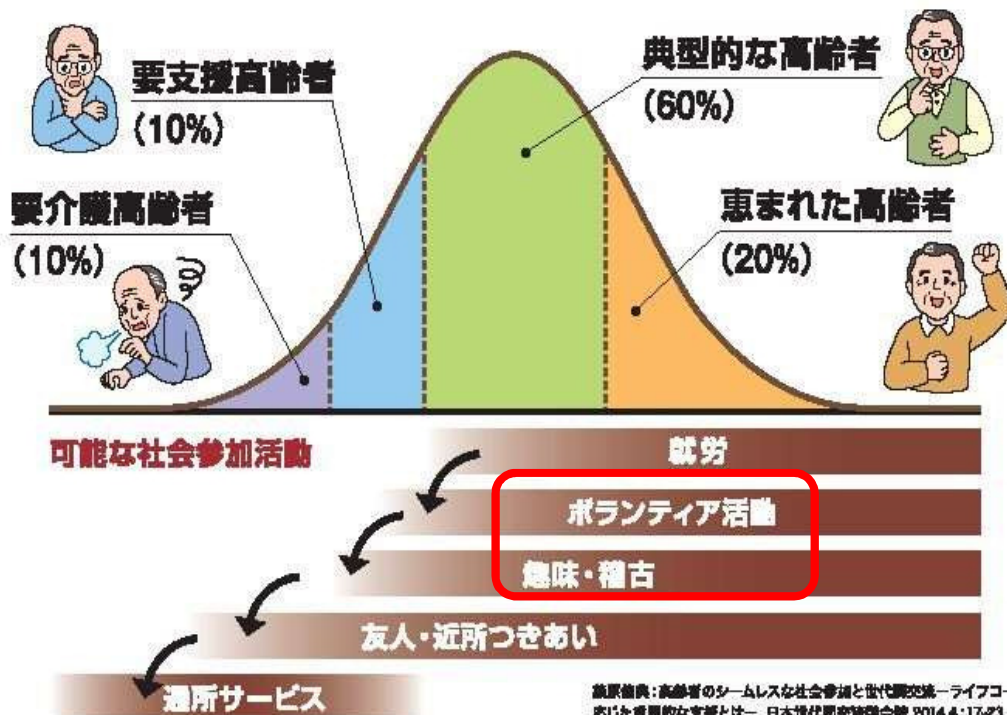
1. 目的とメリットをきちんと伝え、職目の理解と合意を得る。
2. すぐってもらえることから、初めから定着を促す。
3. 1つの仕事を丸ごと任せず、上子に切り分ける。

出典)社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会「2025年に向けた介護人材確保～量と質の好循環の確立に向けて～」(平成27年2月25日)

## 厚労省 介護現場革新会議 パイロット事業

～当チームで三重県における「介護助手」調査を委託 (2019/7～) 9

## 高齢者の機能的健康度による分布と社会参加活動の枠組み



# 米国の高齢者・ソーシャルキャピタル戦略

Use it, or lose it  
「頭、体、心」を使うか、さびるか？



学び、役割、仲間



プロジェクト「Experience Corps®」

◆ 公立小学校でのシニアボランティアによる  
世代間交流モデル研究 (Fried et al. *J Urban Health* 2004)

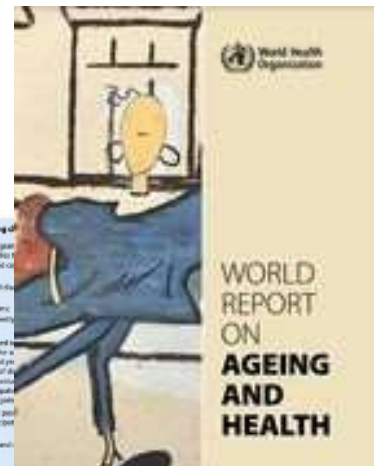
11

## 認知症予防発！世代間交流ボランティア シニア読み聞かせボランティア「りぷりんと」

2004~モデル版

- 東京都中央区（都心部）27名→40名
- 川崎市多摩区（住宅地）22名→57名
- 滋賀県長浜市（地方小都市）21名→100名

WHO ワールドレポートにて  
優良事例として紹介



**Box 9.11. Older people helping out**  
Experience Corps is a volunteer program that taps the time and experience of people over 55. Older adults have the talents and the experience to meet important needs in local elementary schools as volunteers.  
Volunteers can contribute in three areas of greatest need identified by principals:  
• Helping children to be better readers.  
• Making the school library work and helping the children use the library.  
• Supporting improved behavior and play without violence.  
The school year Experience Corps volunteers spend one to two hours per week in the school. If you would like to know more, call us at 410-302-5496. Participants will receive \$120 a month, an on-call pocket expense.  
To volunteer for Experience Corps, call 410-302-5496.

**World Health Organization**  
**WORLD REPORT ON AGEING AND HEALTH**

**Box 9.11. Older people helping out**  
Experience Corps is a volunteer program that taps the time and experience of people over 55. Older adults have the talents and the experience to meet important needs in local elementary schools as volunteers.  
Volunteers can contribute in three areas of greatest need identified by principals:  
• Helping children to be better readers.  
• Making the school library work and helping the children use the library.  
• Supporting improved behavior and play without violence.  
The school year Experience Corps volunteers spend one to two hours per week in the school. If you would like to know more, call us at 410-302-5496. Participants will receive \$120 a month, an on-call pocket expense.  
To volunteer for Experience Corps, call 410-302-5496.

Volunteers are attracted to Experience Corps by the chance to make a meaningful contribution to society and assist children in achieving academic success. Satisfaction levels among volunteers are as high as 90%, and 80% of those surveyed returned during the following 4-year period (STI). Traditional health-promotion programs that focus regularly on physical activity tend to have significantly lower retention rates.  
Volunteers are attracted to Experience Corps by the chance to make a meaningful contribution to society and assist children in achieving academic success. Satisfaction levels among volunteers are as high as 90%, and 80% of those surveyed returned during the following 4-year period (STI). Traditional health-promotion programs that focus regularly on physical activity tend to have significantly lower retention rates.  
Volunteers are attracted to Experience Corps by the chance to make a meaningful contribution to society and assist children in achieving academic success. Satisfaction levels among volunteers are as high as 90%, and 80% of those surveyed returned during the following 4-year period (STI). Traditional health-promotion programs that focus regularly on physical activity tend to have significantly lower retention rates.

2006~普及版

杉並区、横浜市青葉区  
豊島区、文京区、大田区

2015~

北区、板橋区、府中市  
練馬区、千代田区

2017~

狛江市  
北秋田市

2018~

新宿区  
立川市



自治体の介護予防・認知症予防事業として飛躍的に展開

➤主人公が高齢者多い

➤メッセージ性

➤多種多様、無尽蔵

➤借りれば無料

➤近くの図書館で

13

## 生涯学習型 認知介入プログラム

第1回 今読まれている絵本について



第2-3回 忘れられない絵本, 自分を知る

・絵本の記憶の掘り起こし, 伝えるという技術について



第4回 読み聞かせに必要な体づくり

・柔軟体操から呼吸法、発声と滑舌 読み聞かせの技術



第5-6回 読み聞かせの練習

・読解と表現, 文章理解と感情移入



記憶トレーニング



第7-8回 読み聞かせ発表会 読み聞かせ実践

・個別発表会, 自己採点・講評



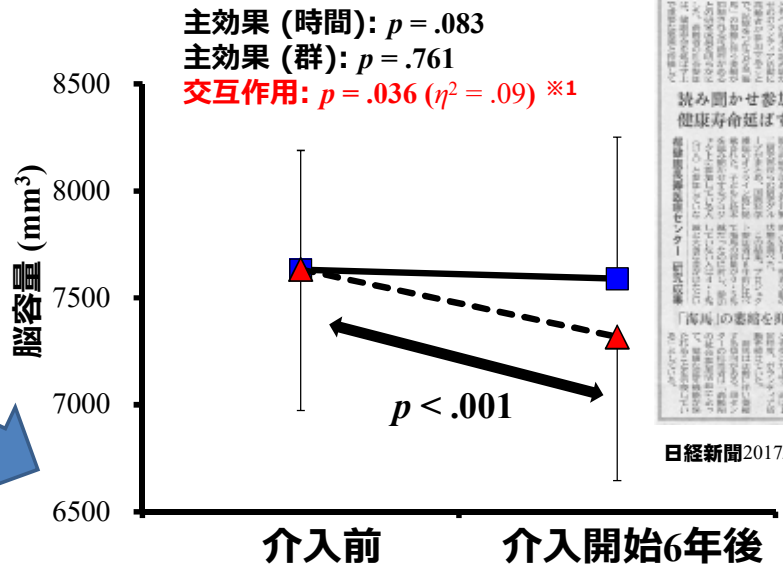
第9回以降 グループ発表会の準備, 実演

■ ボランティア群 (介入群) : 17名

▲ 対照群 (健診参加のみ) : 42名



6年間ボランティア継続



日経新聞2017/9/20

※1 性、年齢、教育年数、現病歴、抑うつ得点、頭蓋内容量、MMSE得点、ApoE遺伝子型、追跡期間を調整

Sakurai et al. *Int J Geriatr Psychiatry*. 2017

## 文化活動だけど体力も維持！ — 7年間の長期効果 —



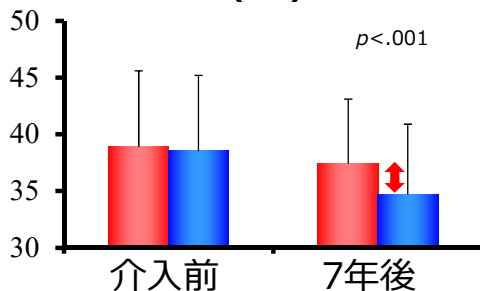
介入群(ボランティア)62名、対照群100名を7年間追跡

■ 介入群 ■ 対照群

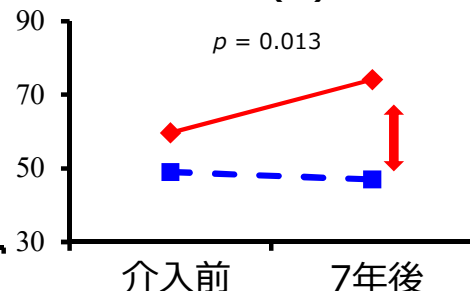
— 介入群 ..... 対照群

※交絡因子を調整

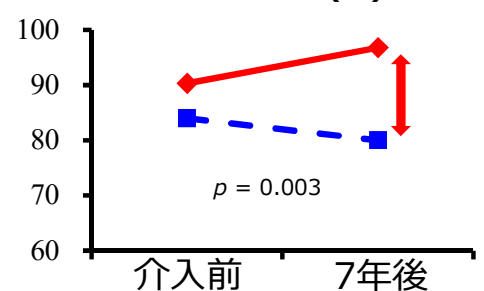
前のめりバランス(cm)



近隣子供との交流者(%)



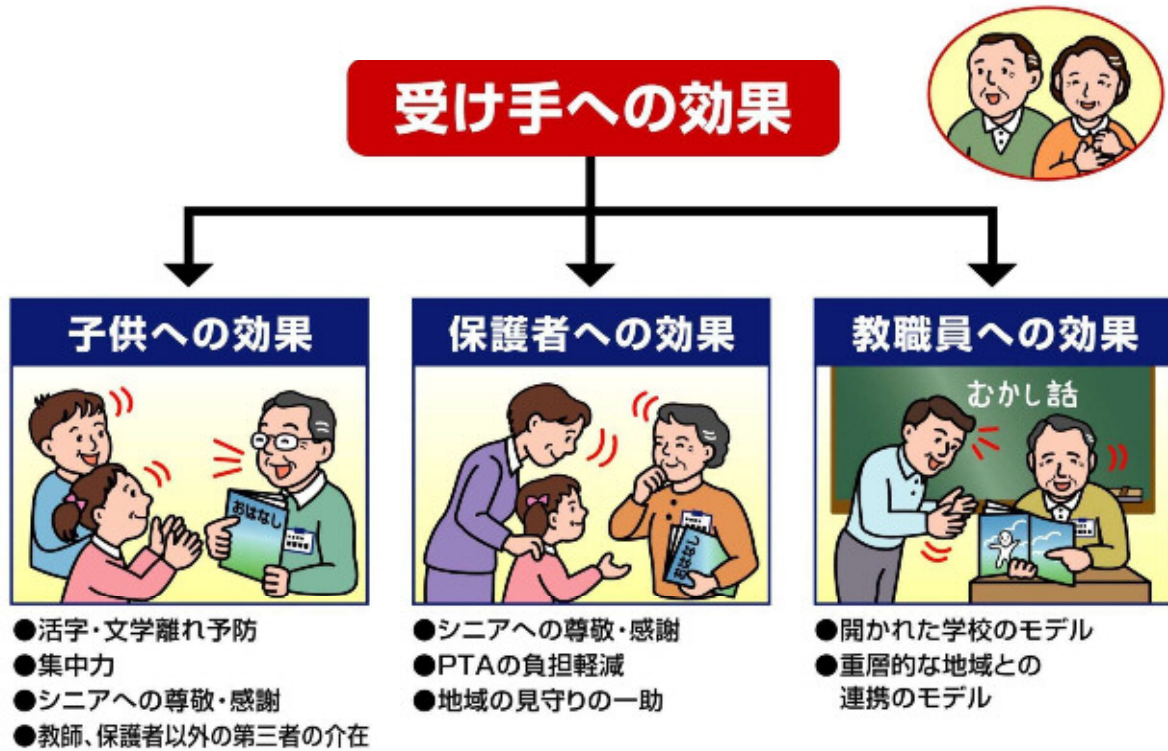
知的能動性維持・向上者(%)



**知らず知らず一日1万歩!**

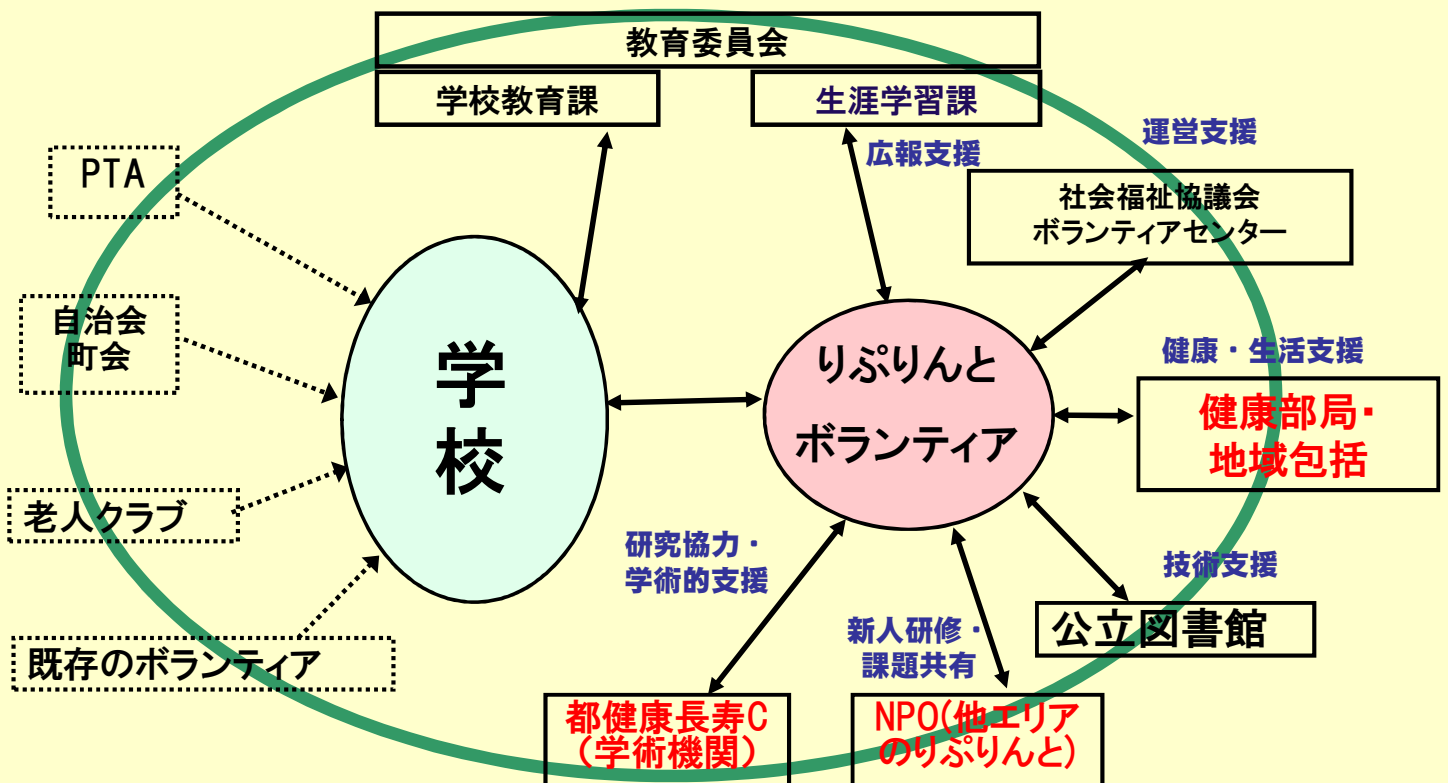
Sakurai et al. (2015) *Arch Gerontol Geriatr*

# りぷりんとと活動の多面的効果

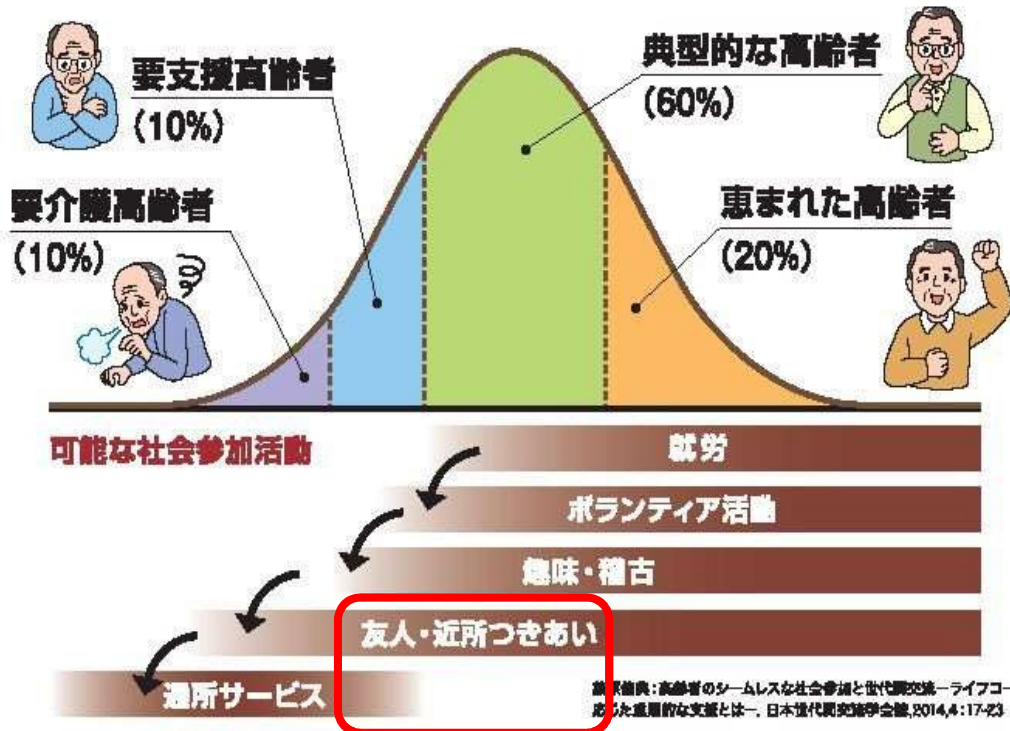


藤原他2007;村山他2012;竹内他2013 藤原他2010; Yasunaga, et al 2016, Murayama et al. 2018

# 「りぷりんと」を取り巻く、ローカルネットワーク



# 高齢者の機能的健康度による分布と社会参加活動の枠組み

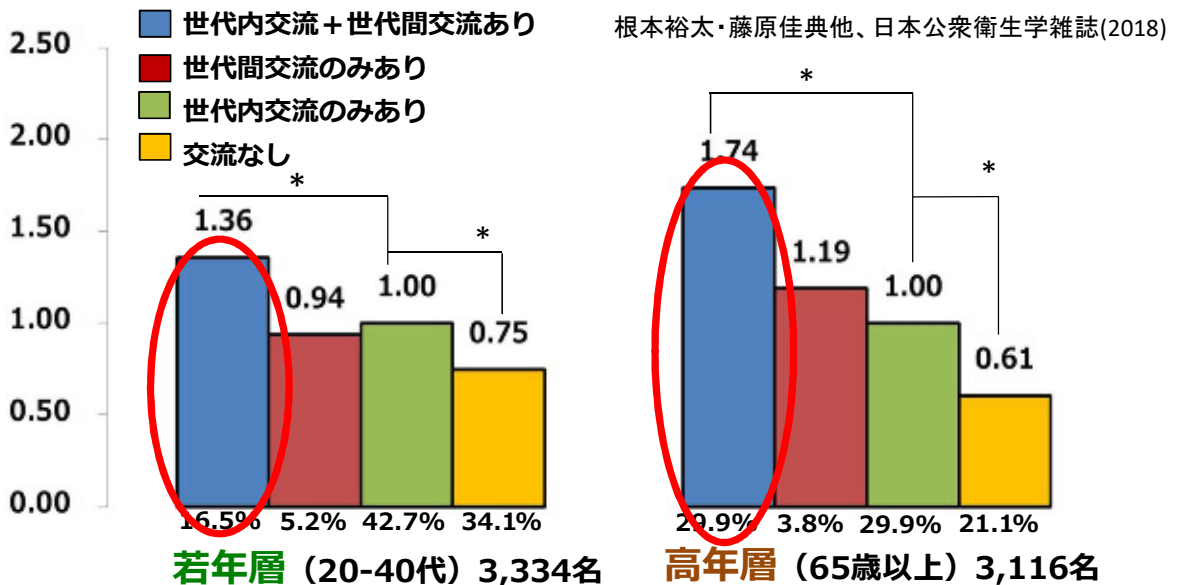


19

## 一般住民においても、世代間交流は健康に良い！

1111の健康(WHO-5)が良好であるオッズ比

### 世代間・世代内交流の有無と精神健康の関連



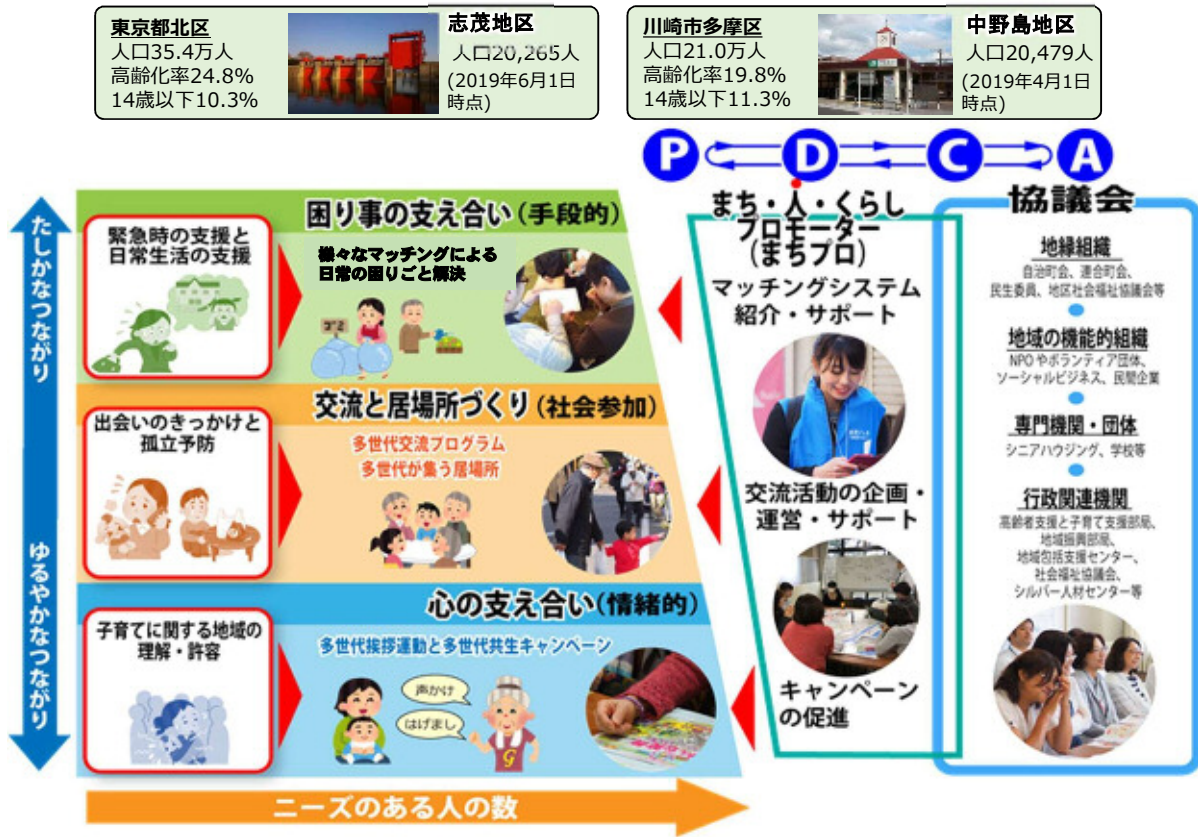
※1 性、年齢、教育年数、婚姻状況、居住地域、婚姻状態、子/親/祖父母との同居、主観的経済状態、地域活動への参加、就労、健康度自己評価、生活機能(高齢者のみ調整)、既往歴(脳卒中、心臓病)を考慮した解析 ※2 家族や仕事関係の人以外で会話をする機会を問い、「よくある、ときどきある」と回答したものを「交流あり」とした。

**世代を問わず、世代内交流をしている者は、交流をしていない者より精神的に健康であり、世代間交流もしている者はさらに健康度が高い。**

20

# 多世代型介護予防・日常生活支援総合事業プロジェクトの全体イメージ

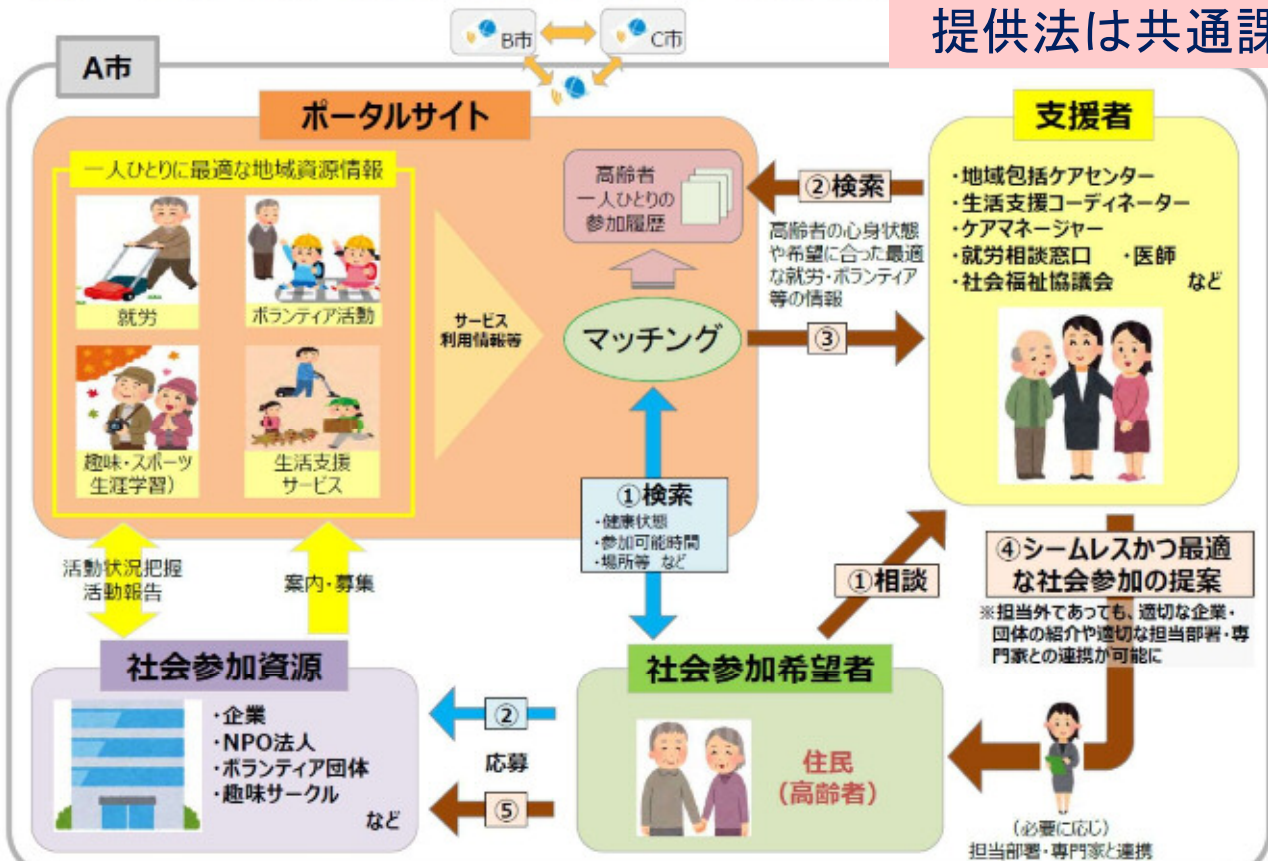
JST-RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」(H27-30) 助成



21

## (イメージ図)「誰でも社会参加コーディネーターシステム」

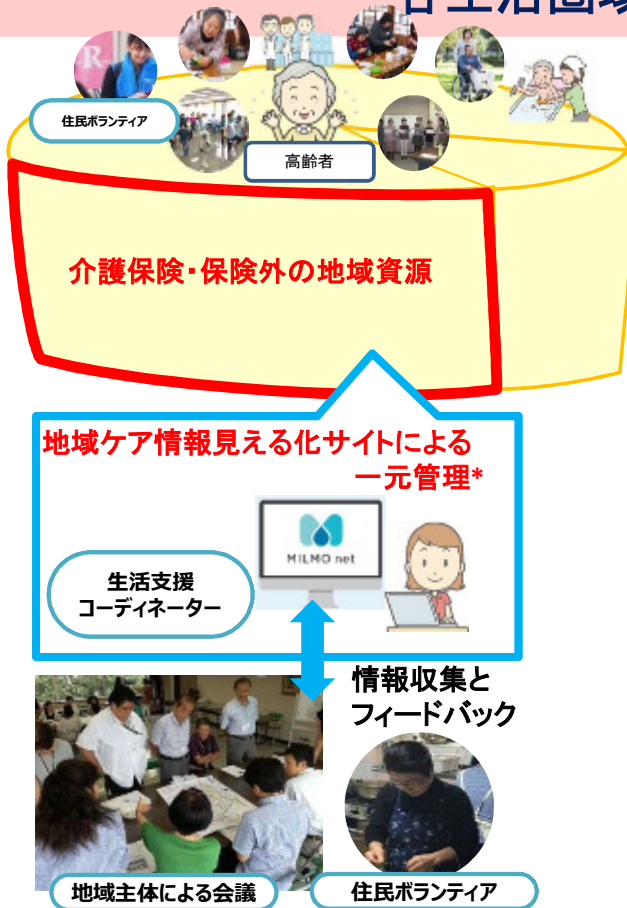
## 社会参加情報の提供法は共通課題



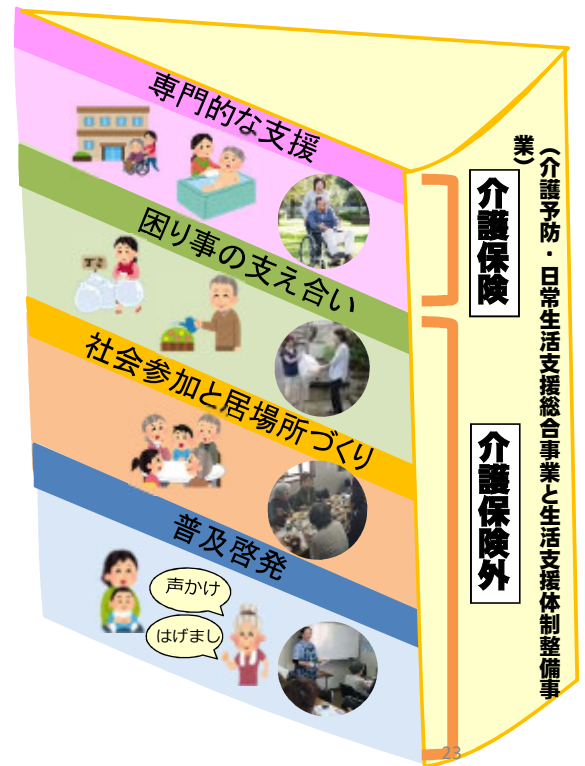
(出典) 未来投資会議 第3回構造改革推進部会「健康・医療・介護」会合 (平成29年12月) 資料2 (東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム 藤原佳典研究部長 提出資料) を参考に経産省作成

22

## 各生活圈域での地域包括ケアの全体像



\*当チーム、大田区、(株)ウエルモとの協働事業  
[http://www2.tmig.or.jp/spch/project\\_gaiyou\\_mirumo.html](http://www2.tmig.or.jp/spch/project_gaiyou_mirumo.html)



23

## 地域ケア資源情報見える化サイト「ミルモネット」の実績

■ 介護保険内資源登録数 711件

2019/7/18現在

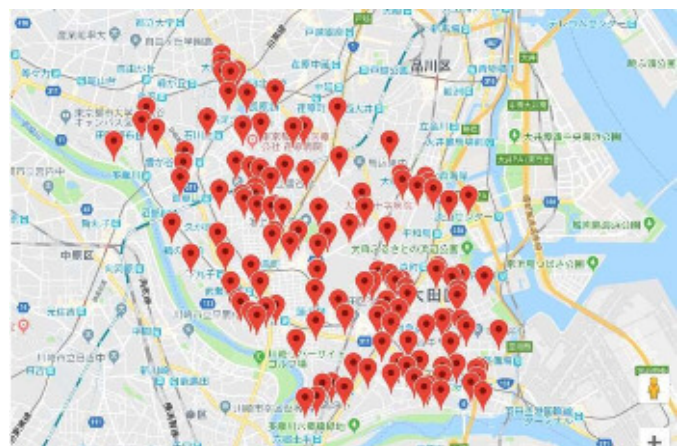
■ 介護保険外資源登録数 333件

地域包括支援センターが2018年9月より地域資源を把握し、

1) 包括が代行入力、2) 地域資源が自主的入力を行った。

### -活動通いの場 232件

- 介護タクシー・移送 21件
- 生活支援（自費ヘルプ） 12件
- 配食サービス 12件
- 訪問理美容 4件
- 遺品・生前整理 5件
- 見守り・緊急通報 2件
- その他 45件



24



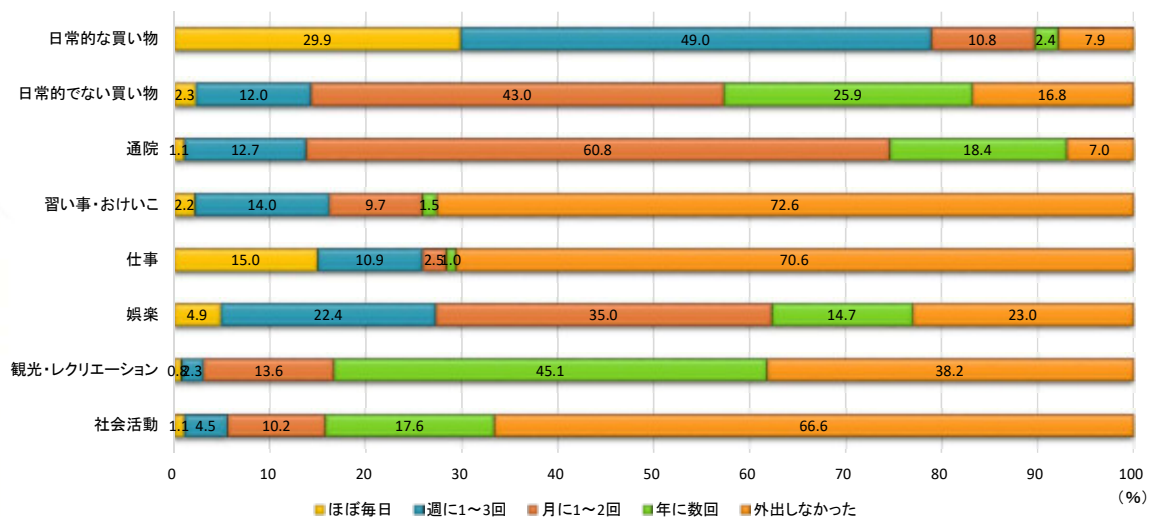
# 高齢者の外出手段と県内市町村の取組

2019年10月11日（金）  
第3回高齢社会懇談会

## 1 高齢者の目的別外出頻度と外出手段

・ 高齢者の外出頻度について目的別にみると、週1日以上の外出では「日常的な買い物」の割合が8割（78.9%）と高い。また、月1日以上の外出では、「日常的な買い物」のほか、「通院」（74.6%）や「娯楽」（62.3%）の割合が高い傾向にある。

高齢者の目的別外出頻度

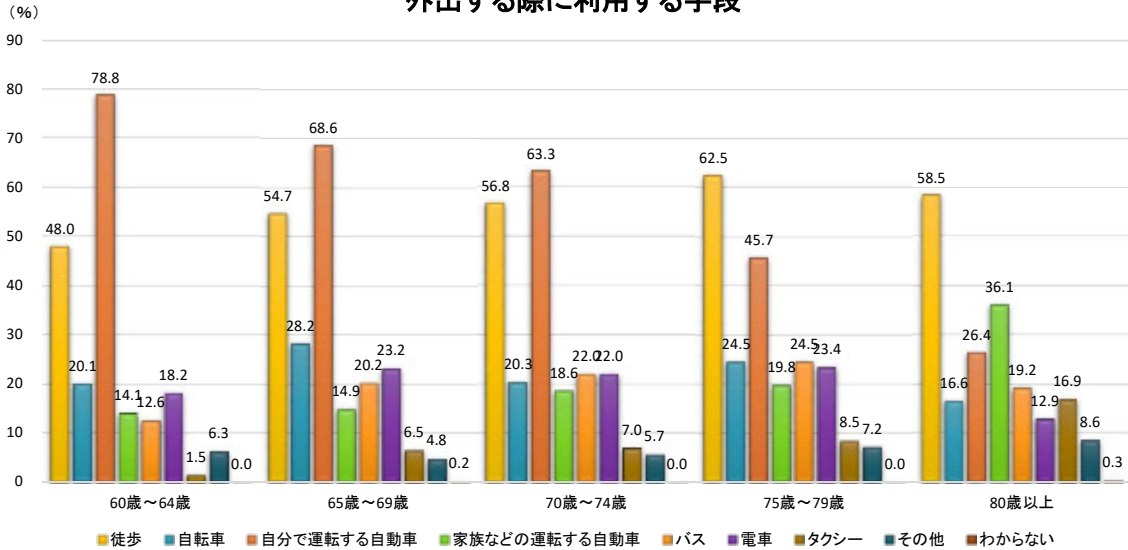


出典：国土交通省中部地方整備局、愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市「高齢者の移動等に関する調査」（2018年度）  
※ 調査対象は、愛知県、岐阜県、三重県に居住する65歳以上の高齢者

# 1 高齢者の目的別外出頻度と外出手段

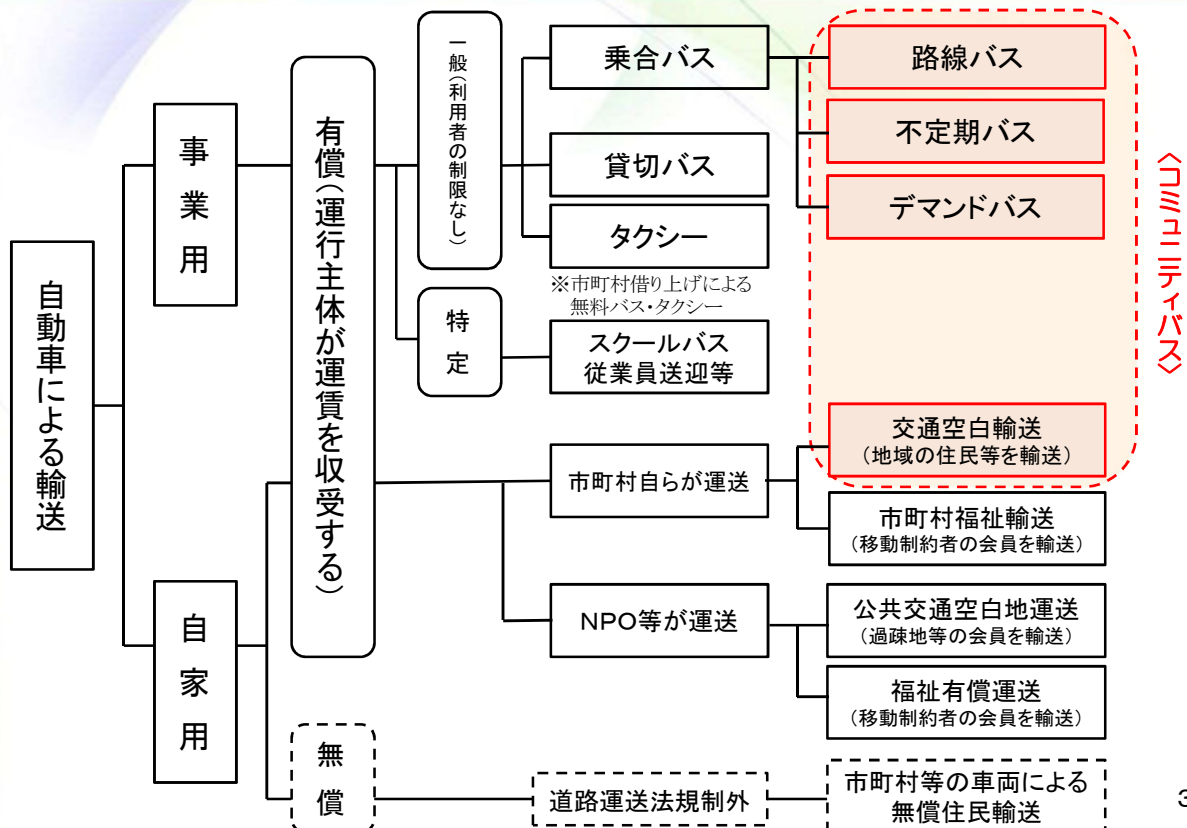
・外出する際の利用手段について年齢別にみると、「自分で運転する自動車」とする割合は年齢が上がるほど減少するが、「家族などの運転する自動車」とする割合は、年齢が上がるほど増える傾向にある。

外出する際に利用する手段

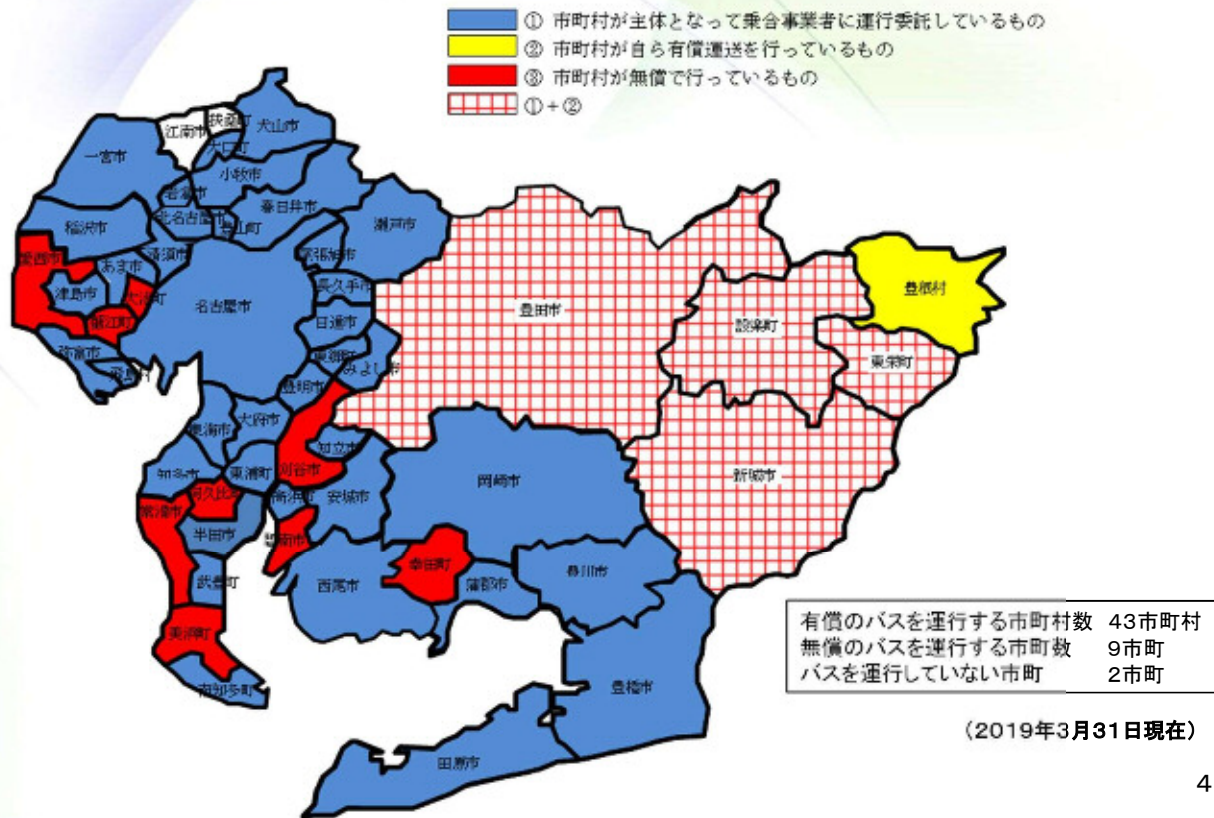


出典：内閣府「高齢者の住宅と生活環境に関する調査」(2018年)  
 ※ 調査対象は、全国60歳以上の男女

# 2 道路運送法の事業区分と運行形態



### 3 市町村主体で運行するコミュニティバスの状況



4

### 3 市町村主体で運行するコミュニティバスの状況

#### <コミュニティバスを運行するためには>

市町村が有償のコミュニティバスを運行するためには、市町村が主宰し、国や県、学識経験者、交通事業者、地域住民等で構成する**地域公共交通会議**において協議の上、合意を得る必要がある。

県は、地域公共交通会議において、広域的な見地からの助言や他の市町村の取組を紹介するなどの役割を担っている。

地域公共交通会議の設置状況

2019年3月現在

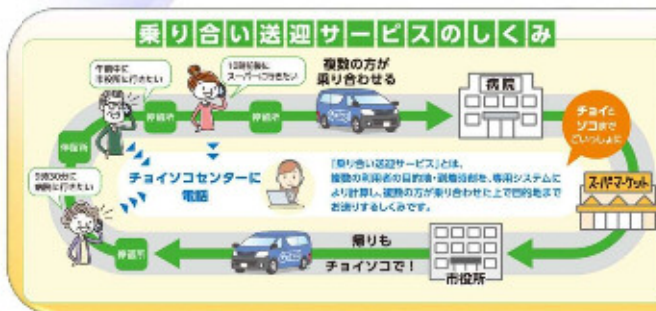
市町村名	会議名	市町村名	会議名	市町村名	会議名
1 豊橋市	豊橋市地域公共交通活性化推進協議会	16 稲沢市	稲沢市地域公共交通会議	31 みよし市	みよし市公共交通会議
2 岡崎市	岡崎市交通政策会議	17 新城市	新城市地域公共交通会議	32 あま市	あま市地域公共交通会議
3 一宮市	一宮市地域公共交通会議	18 東海市	東海市地域公共交通会議	33 長久手市	長久手市地域公共交通会議
4 瀬戸市	瀬戸市地域公共交通会議	19 大府市	大府市地域公共交通活性化協議会	34 東郷町	東郷町地域公共交通会議
5 半田市	半田市地域公共交通会議	20 知多市	知多市地域公共交通会議	35 豊山町	豊山町地域公共交通会議
6 春日井市	春日井市地域公共交通会議	21 知立市	知立市地域公共交通会議	36 大口町	大口町地域交通推進会議
7 豊川市	豊川市地域公共交通会議	22 尾張旭市	尾張旭市地域公共交通会議	37 飛島村	飛島村地域公共交通活性化再生法定協議会
8 津島市	津島市地域公共交通会議	23 高浜市	高浜市地域公共交通会議	38 東浦町	東浦町地域公共交通会議
9 豊田市	豊田市公共交通会議	24 岩倉市	岩倉市地域公共交通会議	39 南知多町	南知多町地域公共交通活性化・再生協議会
10 安城市	安城市総合交通会議	25 豊明市	豊明市地域公共交通会議	40 武豊町	武豊町地域公共交通会議
11 西尾市	西尾市地域公共交通活性化協議会	26 日進市	日進市地域公共交通会議	41 設楽町	北設楽郡公共交通活性化協議会
12 蒲郡市	蒲郡市地域公共交通会議	27 田原市	田原市地域公共交通会議	東栄町	
13 犬山市	犬山市地域公共交通会議	28 清須市	清須市地域公共交通会議	豊根村	
14 江南市	江南市地域公共交通会議	29 北名古屋	北名古屋市地域公共交通会議		
15 小牧市	小牧市地域公共交通会議	30 弥富市	弥富市地域公共交通活性化協議会		

全54市町村中43市町村で設置済

5

## 4 高齢者等の移動手段確保の取組事例

### <デマンドバスの運行>

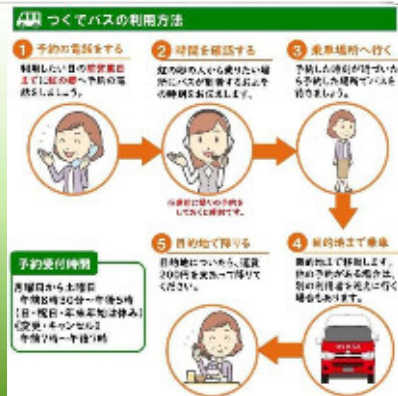


#### 【豊明市仙人塚地区ほか】

市内在住の65歳以上の高齢者と障がい者を対象に、健康増進のための乗り合い送迎サービス「チョイソコとよあけ」を2018年7月から試験運行

#### 【新城市作手地区】

バス停まで歩くことが困難な高齢者の移動支援のため、2019年10月から定期路線バスを減便し、デマンド型区域運行バス「つくでバス」を運行開始



6

## 4 高齢者等の移動手段確保の取組事例

### <公共交通空白地における運送>



#### 【設楽町津具地区】

タクシー事業者の無い地域の交通手段を確保するため、津具商工会が主体で2014年4月から予約制有償送迎サービス「のってかっせ」を運行

### <市町村等の車両による無償住民輸送>

#### 【瀬戸市菱野団地】

買い物や通院など日常生活の足を確保するため、地域の自治会が主体となって協議会を設立し、2018年8月6日から地域の有償ボランティアがバスを運転し、「住民バス」を運行



7

# 高齢者の移動支援について

令和元年10月11日  
NPO まちづくりの達人ネットワーク  
理事長 伊豆原浩二

## 1. 高齢者の移動実態

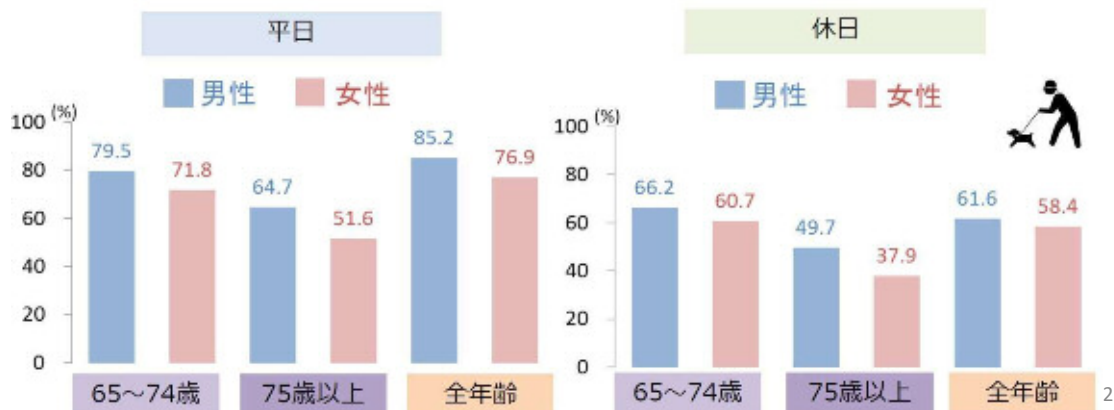
—平成27年全国都市交通特性調査（国交省資料）より—

### ①全体の傾向

前期高齢者（65～74歳）、後期高齢者（75歳以上）共に、男性の方が外出している。前期高齢者は全年齢と変わらないくらい外出している。後期高齢者の休日の外出率は5割未満で2日か3日に1回くらいしか外出していない。

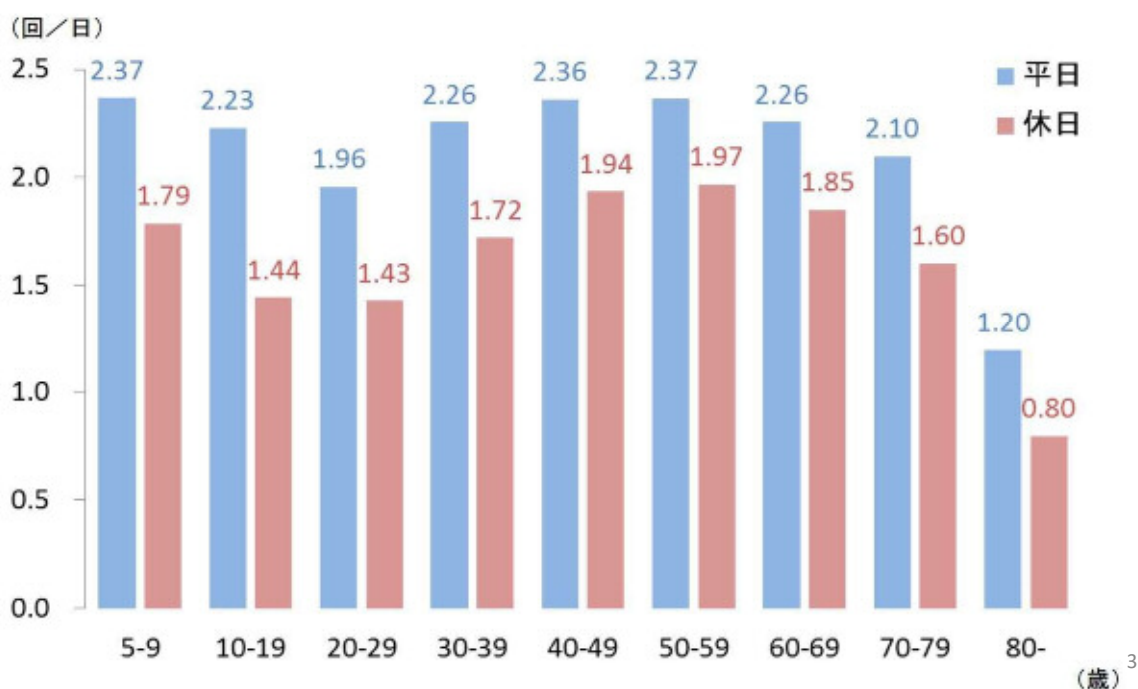
9 高齢者の外出率

・前期高齢者（65～74歳）は全年齢と変わらないくらい外出している  
・女性よりも男性の方が外出している傾向にある



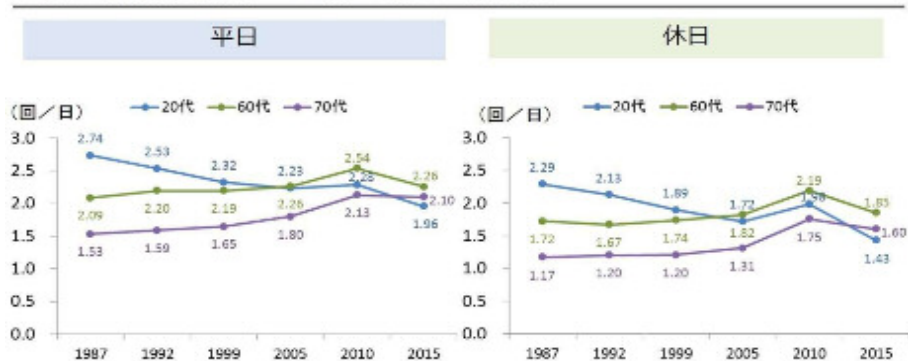
## 80歳未満の高齢者の1日の移動回数は他の年齢と比較しても少ないとはいえない。

年齢階層別・1日あたり移動回数



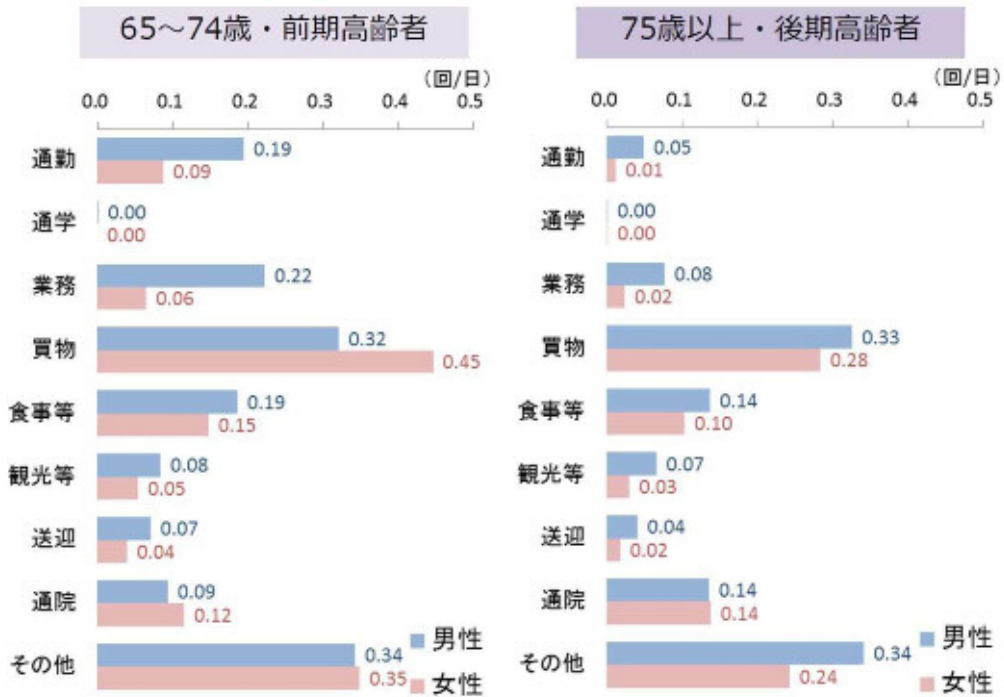
## 60代、70代の高齢者の1日の移動回数は増加傾向にあり、20代の若者より活動している傾向。

1日あたり移動回数の推移 70代・60代と20代の比較



**高齢者の移動目的は、平日休日共に「買物」が最も多い。  
前期高齢者の男性は就業している割合が高い。後期高齢者になると男女共に通院が多くなる。**

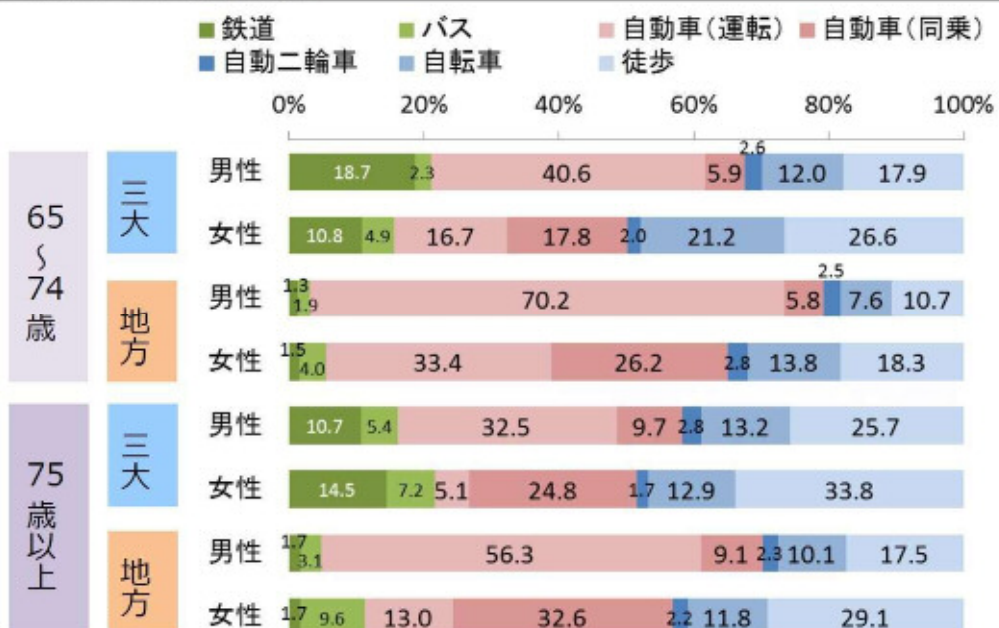
高齢者の移動の目的構成比



5

**前期高齢者の男性は自動車（運転）を使う傾向が大きい。  
女性や後期高齢者男性は徒歩での移動が多くなる。  
公共交通機関が少ない地方都市圏では自動車の利用が多く、  
女性は自動車でも同乗が多く、徒歩も多い。**

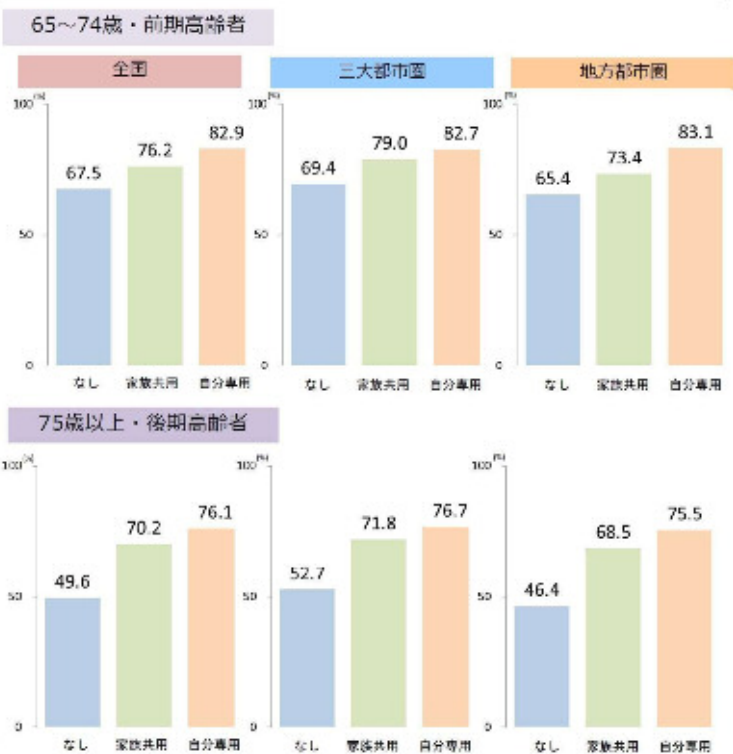
高齢者の移動の交通手段別構成比



6

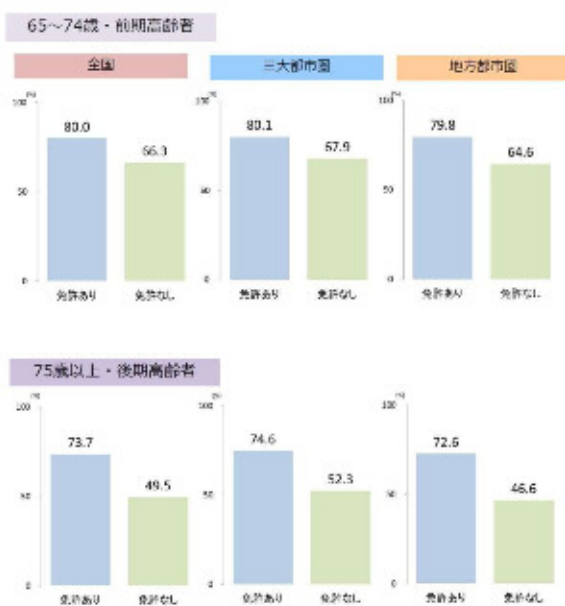
# 自動車保有者、運転免許保有者の方が外出する割合が高く、1日の移動回数も多い。

高齢者の自動車保有形態別 外出率

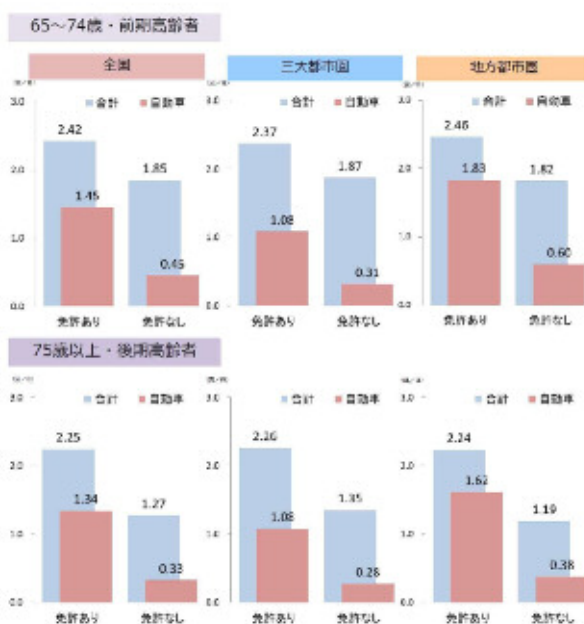


7

高齢者の自動車免許有無別 外出率



高齢者の免許有無別 1日あたり移動回数(平日)



8



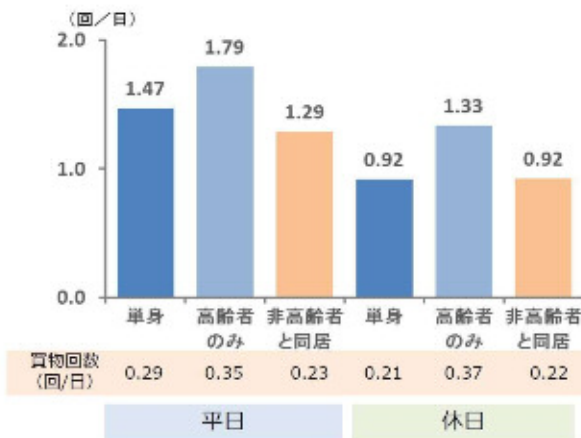
## ②世帯構成からの傾向

後期高齢者の単身、非高齢者と同居の人は、高齢者のみの人に比べて1日の移動回数が少ない。

交通手段では、単身の人は徒歩移動の傾向が強く、3大都市圏では自動車利用の割合が少なく、公共交通利用が多い。

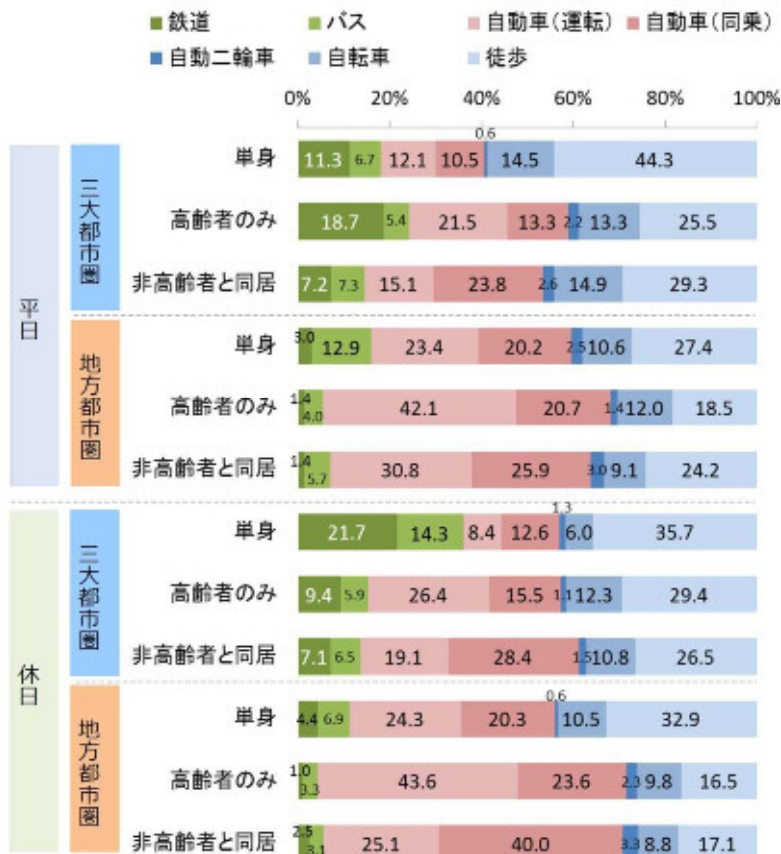
地方都市圏の高齢者のみの人は、自動車（運転）が多い。また、非高齢者と同居している人は、3大都市圏、地方都市圏とも自動車に同乗している割合が高い。

後期高齢者の世帯構成別 1日あたり移動回数



9

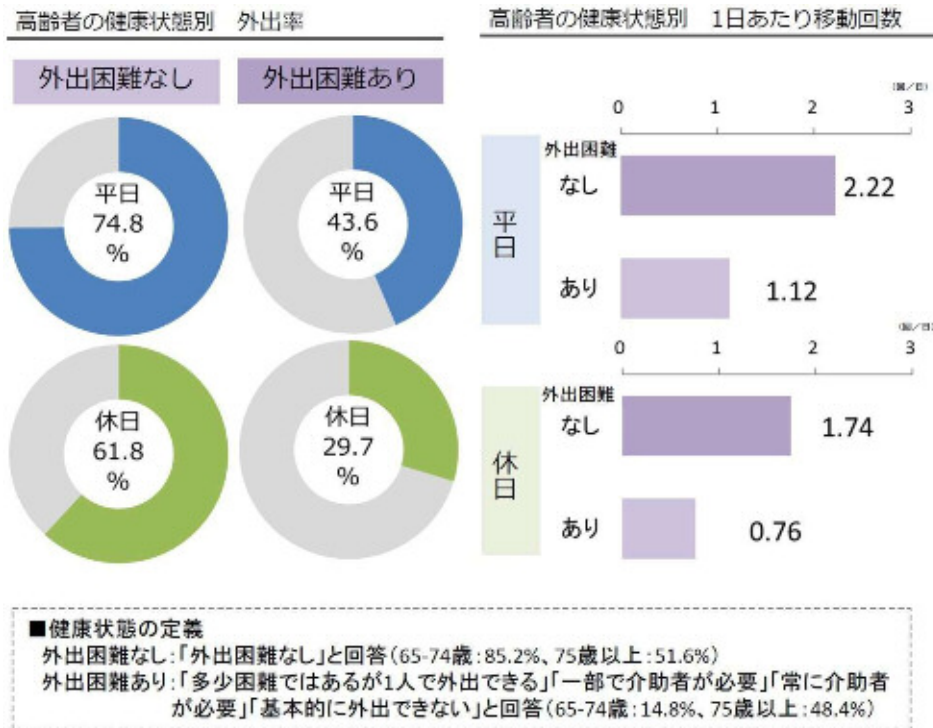
後期高齢者の世帯構成別 移動の交通手段別構成比



10

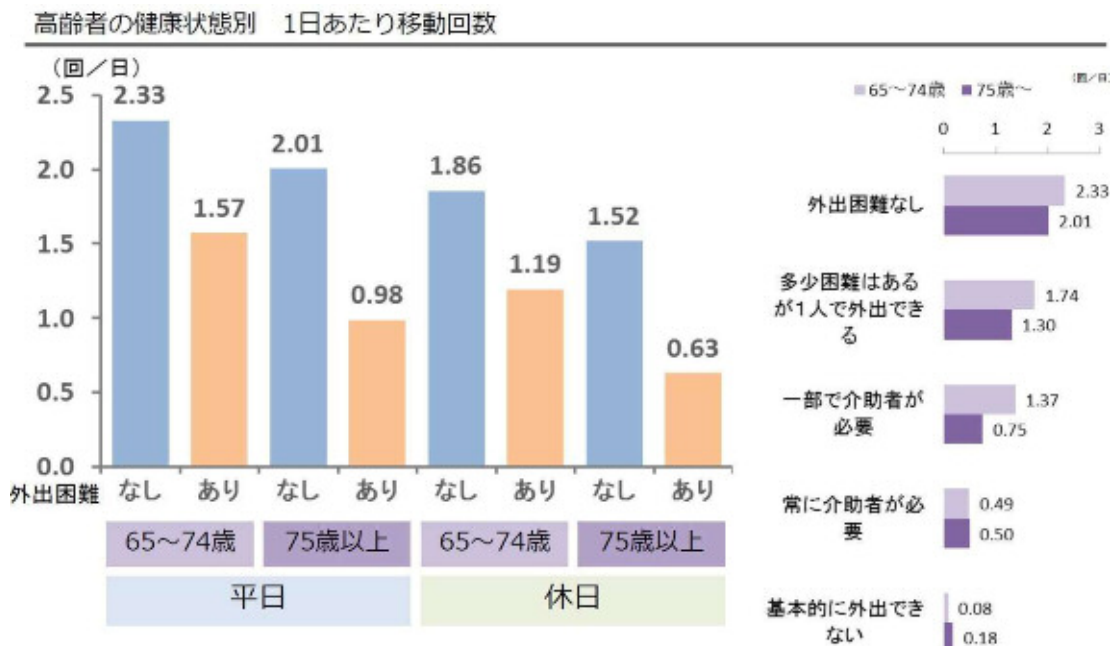
### ③健康状態からの傾向

「外出困難あり」の人は、「外出困難なし」の人に比べて、  
外出率も1日の移動回数もかなり少ない。



11

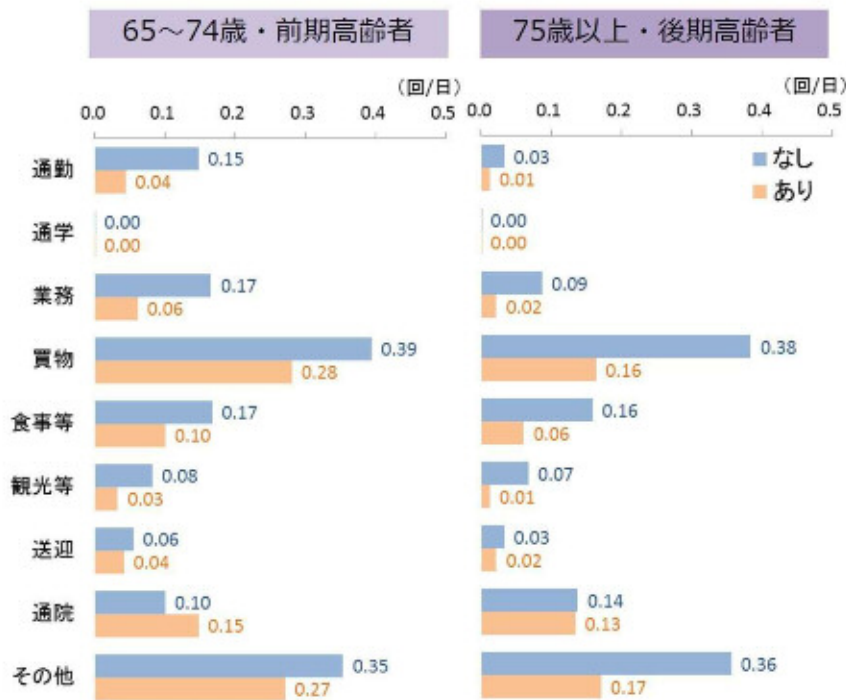
75歳以上の後期高齢者では、「外出困難あり」の人が約  
半数(48.4%)を占め、「外出困難なし」の人の移動回  
数の半分以下である。



12

**「外出困難なし」の人の移動回数は、通院以外の買物、食事等、観光等といった目的で多く、特に後期高齢者ではその傾向が強い。**

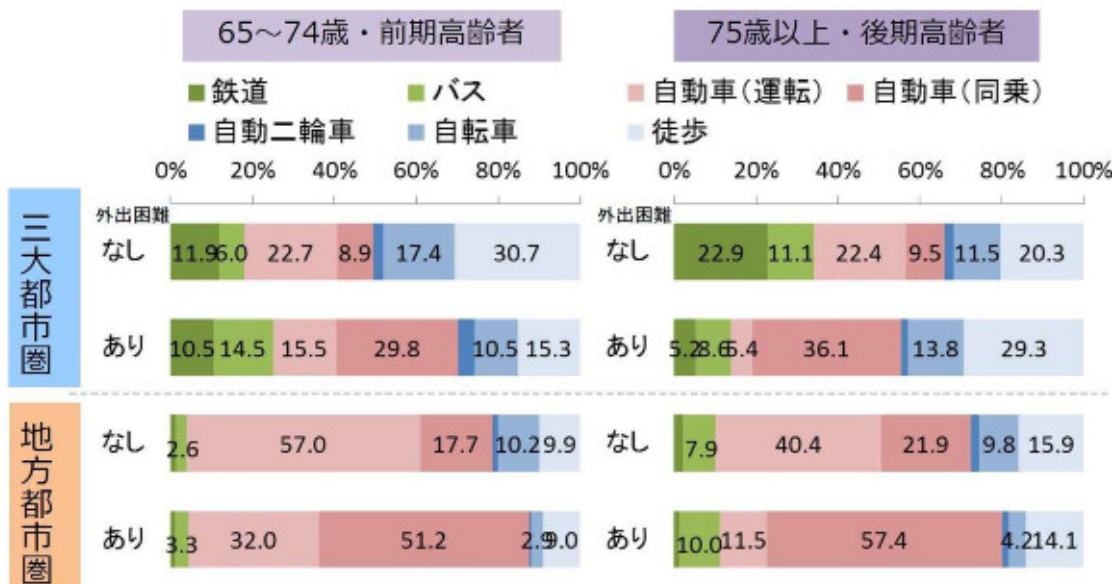
高齢者の健康状態別 目的別移動回数（平日）



13

**通院目的の交通手段では、「外出困難なし」の人は自動車（運転）が多いが、「外出困難あり」の人は自動車（同乗）が多く、後期高齢者はその傾向が強い。また、公共交通利用（バス）も多い。**

高齢者の健康状態別 通院時（平日）の交通手段別構成比

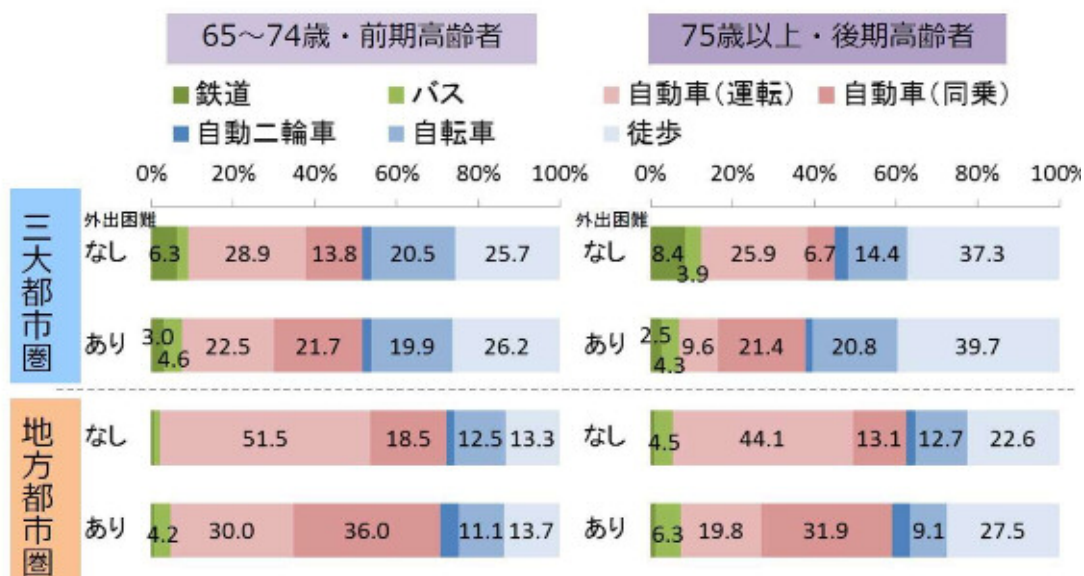


14

買物目的の交通手段では、「外出困難なし」の人は自動車（運転）が多く、「外出困難あり」の人は自動車（同乗）が多くなっている。

また、「外出困難あり、なし」とともに徒歩、自転車の利用が多く、その差は少ない。

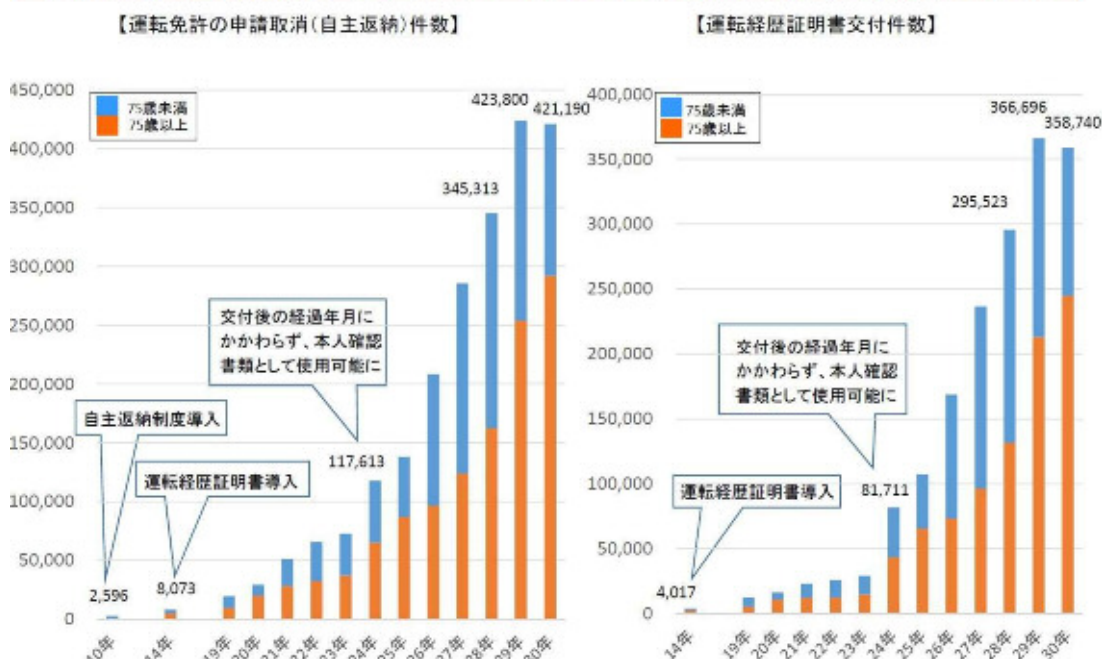
高齢者の健康状態別 買物時（平日）の交通手段別構成比



15

（参考）：運転免許の自主返納件数は確実に増加、特に75歳以上でその傾向が大。

運転免許の申請取消（自主返納）件数と運転経歴証明書交付件数の推移



16

(参考) 運転免許の保有：69歳以下の高齢者の保有率はほぼ平均かそれ以上、75歳以上の後期高齢者は免許保有率は低い（特に女性と80歳以上）。



17

## 2. 高齢者の移動に関する課題

### 交通（移動）

**派生需要**：ある**目的を果たす**ために移動する  
 （移動することが目的：散歩、サイクリング、ドライブ等）

多くの高齢者（リタイヤした人）は、**行わなくては行けない目的、行かなくては行けない場所**といった制約が非常に少なくなる。

→ **楽しい、面白い、やり甲斐がある等**といった**目的、場所**が必要。

18

## 移動手段の問題

- 自動車 — 自分で運転…**運転能力の低下**  
送迎してもらおう…**誰に？**
- 鉄道 — 駅まで行かないと利用できない。  
**垂直移動**を伴うことが多い。
- バス — バス停まで行かないと利用できない。  
**移動中の立乗りは危険**が伴う。
- 自転車 — **身体能力の低下**、**利用空間の貧弱さ**、**交通ルールが難解**。
- 徒歩 — **身体能力の低下**、**歩行空間の貧弱さ**。

19

## 3. 高齢者の移動手段に関する施策の事例

愛知県内ではコミュニティバス等の運行など創意工夫に富んだ移動サービスが展開中

### 3. 市町村のコミュニティバス等の運行状況

- 令和元年5月1日現在、愛知県内において、コミュニティバスは県内54市町村のうち52市町村（約96%）で運行されている。

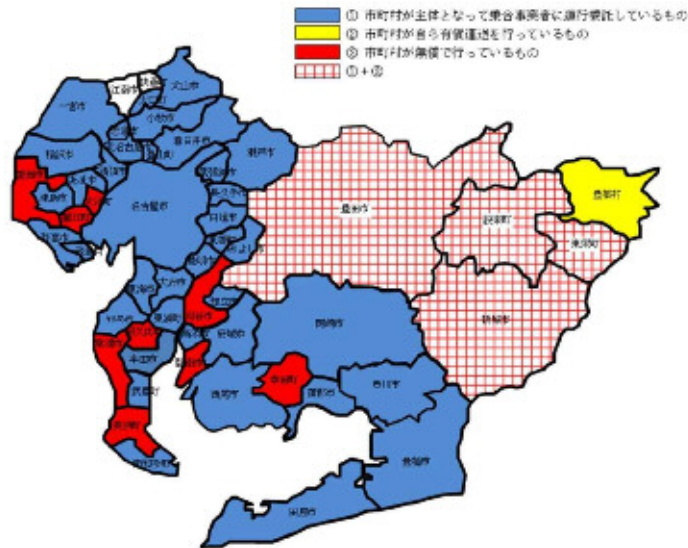
自主運行バス種別			その他		
市町村が主体となって乗客募集者 に運行委託しているもの (道路運送法4条許可) (旧11条許可を含む)	市町村が自ら 有償運行を 行っているもの (道路運送法77条兼用) (旧9条許可)	市町村が無償で 運行を行っているもの (道路運送法適用外)	市町村が 特定の施設への 送迎目的で運行 を行っているもの	乗合バス事業者 の付帯路線に 対して市町村が 増設しているもの	隣接市町村に 乗り入れているもの
42市町村	5市町村	10市町村	25市町村	23市町村	27市町村
コミュニティバス運行市町村数 52 (全54市町村のうち96%)					

※種数の運行形態を採用している市町村があるため市町村数の合計は一致しない。  
※設楽町、東栄町、豊根町の8町村は、地域公共交通活性化再生法による法定協議会を共同で設置し、コミュニティバスを共同運行している。

愛知県資料

20

## ◆図表 コミュニティバスの市町村別運行形態



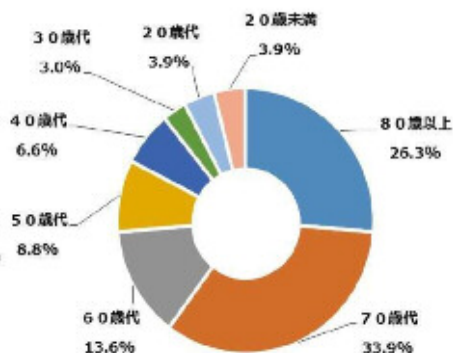
愛知県資料

### 有償運送と無償運送

有償運送は、**道路運送法に基づく旅客運送**

21

- **多くの市町村は、住民代表や関係機関、学識経験者による地域公共交通会議や法定協議会を組織して、運行改善や利用促進などについて話し合っている。**
- **利用者の年齢構成（例）は以下の通り。他の例も同傾向で、高齢者が多い。**



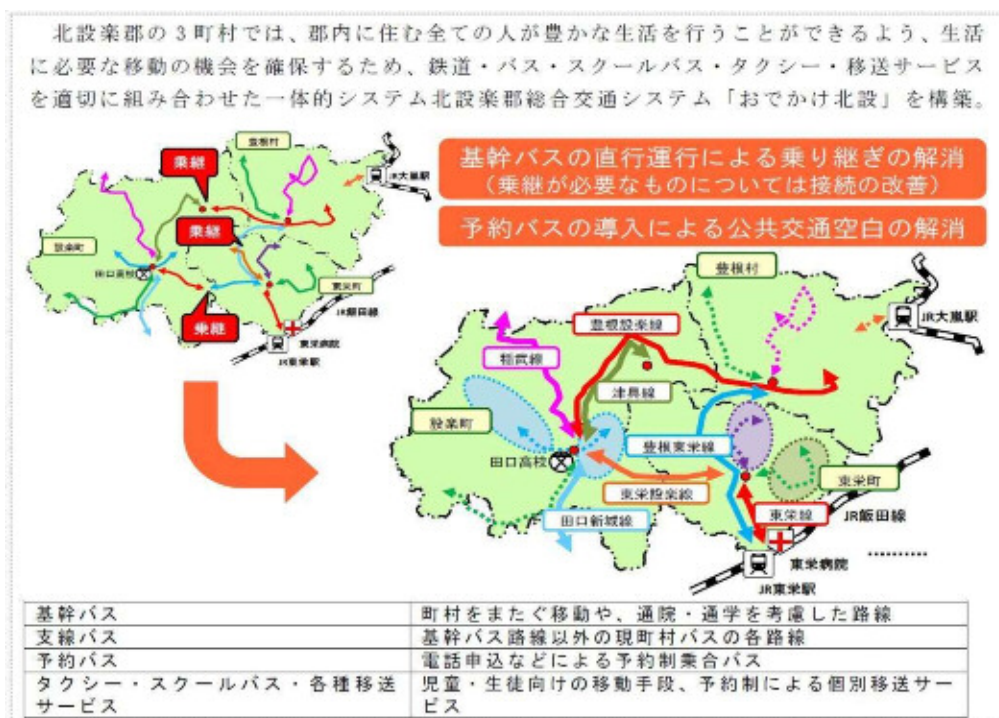
尾張旭市「あさぴー」



豊川市コミュニティバスと豊鉄バス

22

## ①地域が協働してシステムを構築

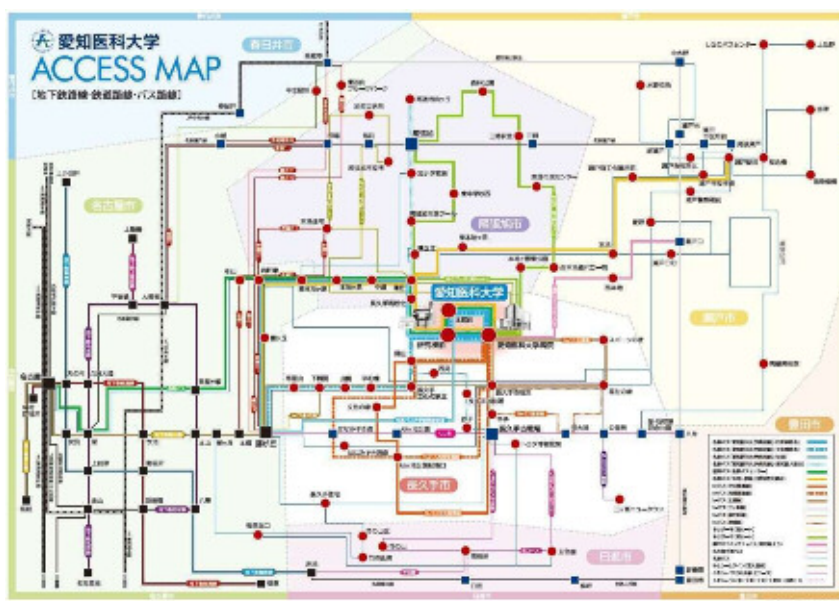


出典：「よりよい地域公共交通ネットワークを形成するための提言書」(H22.3) 国土交通省中部運輸局

23

## ②バス事業者とコミュニティバスとの連携

愛知医科大学病院ではバスターミナルを整備し、名鉄バス、長久手市、尾張旭市、瀬戸市のコミュニティバスが乗入れている。



- 【1番のりば】藤が丘(四軒家経由)、藤が丘(平和橋経由)
- 【2番のりば】名鉄バスセンター(四軒家・栄経由)、瀬戸駅前(瀬戸市役所南経由)
- 【3番のりば】尾張旭向ヶ丘(尾張旭駅経由)、長久手古戦場駅(香桶経由)
- 【5番のりば】コミュニティバス
- 【6番のりば】降車専用

愛知医科大学病院資料

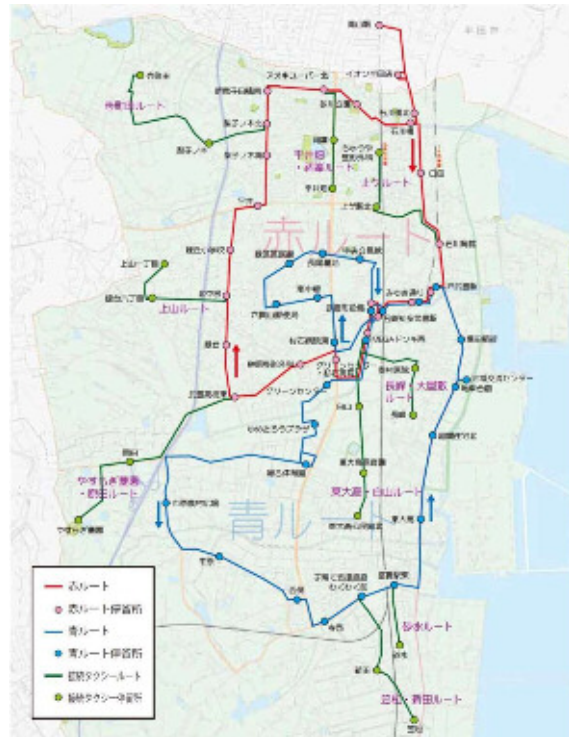
24



### ③コミュニティバスとタクシーの連携



みよし市の「さんさんバス」



武豊町の「ゆめころん」

25

### ④住民主体のコミュニティバス

瀬戸市菱野団地では、住民組織が主体となって、事業費の一部負担、地域のボランティアが運転手を務めるなど皆で話し合って運行しているバス。

#### 菱野団地「住民バス」運行再開

住民バスとは、地域のみなさんが協力して運行するバスです。地域のボランティアさんが運転手を務め、**10人乗りのワンボックスカー**を運行します。団地内の村道や主要道路を走り、団地センター地区の周辺・NPO施設や、名産バス停留所、タクシー乗り場など、みなさんの日常生活とコミュニティの輪を結ぶします。団地内の暮らしをまっすぐに、今夏、運行を再開します。

◆運行再開 8月6日(月) から  
 ◆運行日 毎週 / 月～金曜日 (土・日曜・祝日、お盆、年末年始は運行しませず)  
 ◆運行エリア 菱野団地(菱野台・八幡台・原山台・森山台) ◆運賃 無料

#### 外周道路での乗降について

- ① 団地の外周道路は、住民バスが来たら、手を挙げてお知らせください。バスが安全な場所に停車します。
- ② 交差点や横断歩道での乗降は禁止されています。少し離れたところでお待ちください。
- ③ 降りるときは、乗降場にお間違いないでください。バスが停車してから乗車を立ち、降車してください。

◆運賃について 午後7時30分以降乗降が可能な場合は乗車料は無料です。その他の乗降場の乗降料は、別途、運賃表等とご運行の開始と合わせてお知らせいたします。

◆問い合わせ先 菱野団地コミュニティ交流実行委員会 090-1286-4998

◆菱野団地からのおかけには名産バスやタクシーもご利用ください!

◆名産バス 0561-84-4000 ◆名産町間交通バス 0561-82-2175  
 ◆名産タクシー 0561-82-2184 ◆マルセタクシー 0561-82-2220

#### 菱野団地住民バス ルート案内&時刻表

バス停・通過ポイント	1便	2便	3便	4便	5便	6便	7便	8便	9便	10便
① 八幡台西(名産バス)	8:10	9:40	10:10	10:40	11:10	11:40	12:10	12:40	14:10	14:40
② 八幡台西(名産バス)	9:12	9:42	10:12	10:42	11:12	11:42	12:12	12:42	14:12	14:42
③ 八幡台西(名産バス)	9:14	9:44	10:14	10:44	11:14	11:44	12:14	12:44	14:14	14:44
④ 八幡台西(名産バス)	9:16	9:46	10:16	10:46	11:16	11:46	12:16	12:46	14:16	14:46
⑤ 八幡台西(名産バス)	9:17	9:47	10:17	10:47	11:17	11:47	12:17	12:47	14:17	14:47
⑥ 八幡台西(名産バス)	9:20	9:50	10:20	10:50	11:20	11:50	12:20	12:50	14:20	14:50
⑦ 八幡台西(名産バス)	9:23	9:53	10:23	10:53	11:23	11:53	12:23	12:53	14:23	14:53
⑧ 八幡台西(名産バス)	9:25	9:55	10:25	10:55	11:25	11:55	12:25	12:55	14:25	14:55
⑨ 八幡台西(名産バス)	9:28	9:58	10:28	10:58	11:28	11:58	12:28	12:58	14:28	14:58
⑩ 八幡台西(名産バス)	9:30	9:59	10:29	10:59	11:29	11:59	12:29	12:59	14:29	14:59
⑪ 八幡台西(名産バス)	9:31	10:01	10:31	11:01	11:31	12:01	12:31	13:01	14:31	15:01
⑫ 八幡台西(名産バス)	9:32	10:02	10:32	11:02	11:32	12:02	12:32	13:02	14:32	15:02
⑬ 八幡台西(名産バス)	9:35	10:05	10:35	11:05	11:35	12:05	12:35	13:05	14:35	15:05
⑭ 八幡台西(名産バス)	9:37	10:07	10:37	11:07	11:37	12:07	12:37	13:07	14:37	15:07
⑮ 八幡台西(名産バス)	9:38	10:08	10:38	11:08	11:38	12:08	12:38	13:08	14:38	15:08
⑯ 八幡台西(名産バス)	9:40	10:10	10:40	11:10	11:40	12:10	12:40	13:10	14:40	15:10
⑰ 八幡台西(名産バス)	9:42	10:12	10:42	11:12	11:42	12:12	12:42	13:12	14:42	15:12
⑱ 八幡台西(名産バス)	9:43	10:13	10:43	11:13	11:43	12:13	12:43	13:13	14:43	15:13
⑲ 八幡台西(名産バス)	9:47	10:17	10:47	11:17	11:47	12:17	12:47	13:17	14:47	15:17
⑳ 八幡台西(名産バス)	9:49	10:19	10:49	11:19	11:49	12:19	12:49	13:19	14:49	15:19
㉑ 八幡台西(名産バス)	9:50	10:20	10:50	11:20	11:50	12:20	12:50	13:20	14:50	15:20
㉒ 八幡台西(名産バス)	9:51	10:21	10:51	11:21	11:51	12:21	12:51	13:21	14:51	15:21
㉓ 八幡台西(名産バス)	9:54	10:24	10:54	11:24	11:54	12:24	12:54	13:24	14:54	15:24

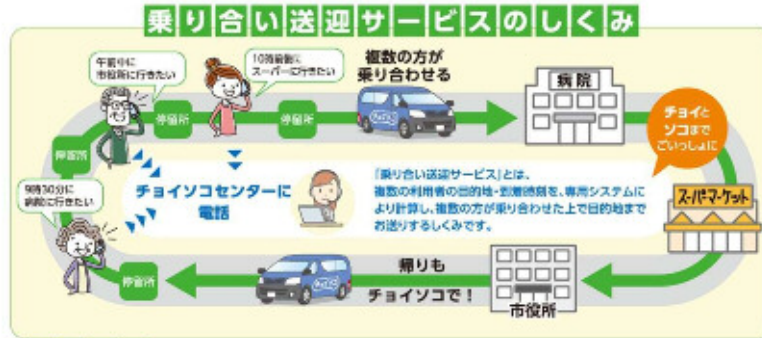
3便へ 4便へ 5便へ 6便へ 7便へ 8便へ 9便へ 10便へ 終了 終了

26

参-45

## ⑤新たな仕組みによるサービスの実証実験

豊明市では、企業が主体となり、行政も協力体制を採って  
**デマンド型の乗り合い送迎サービス（チョイソコ）を展開。**



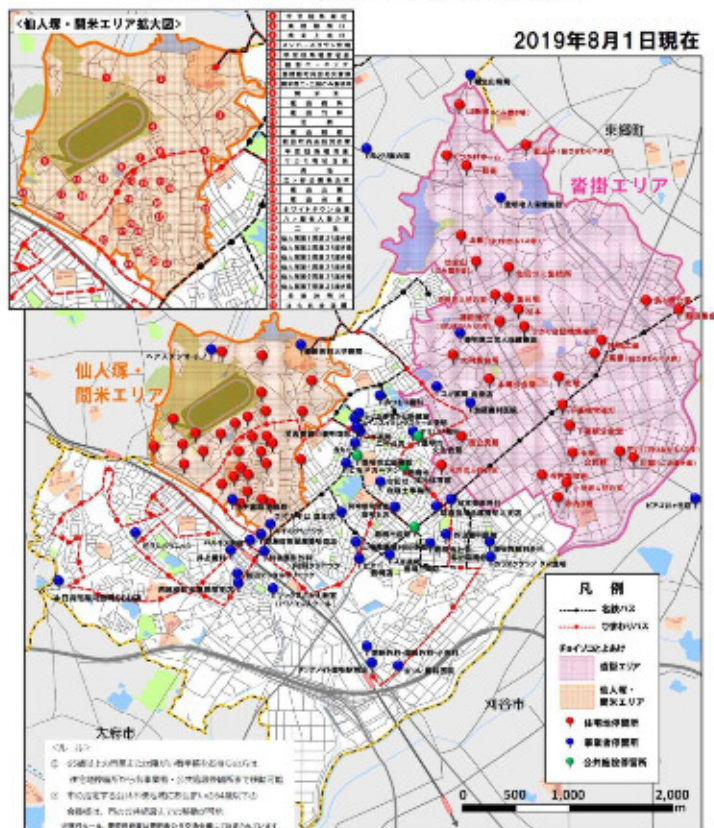
### ご利用方法



<https://www.choisoko.jp> > toyoake

27

## チョイソコとよあけ停留所

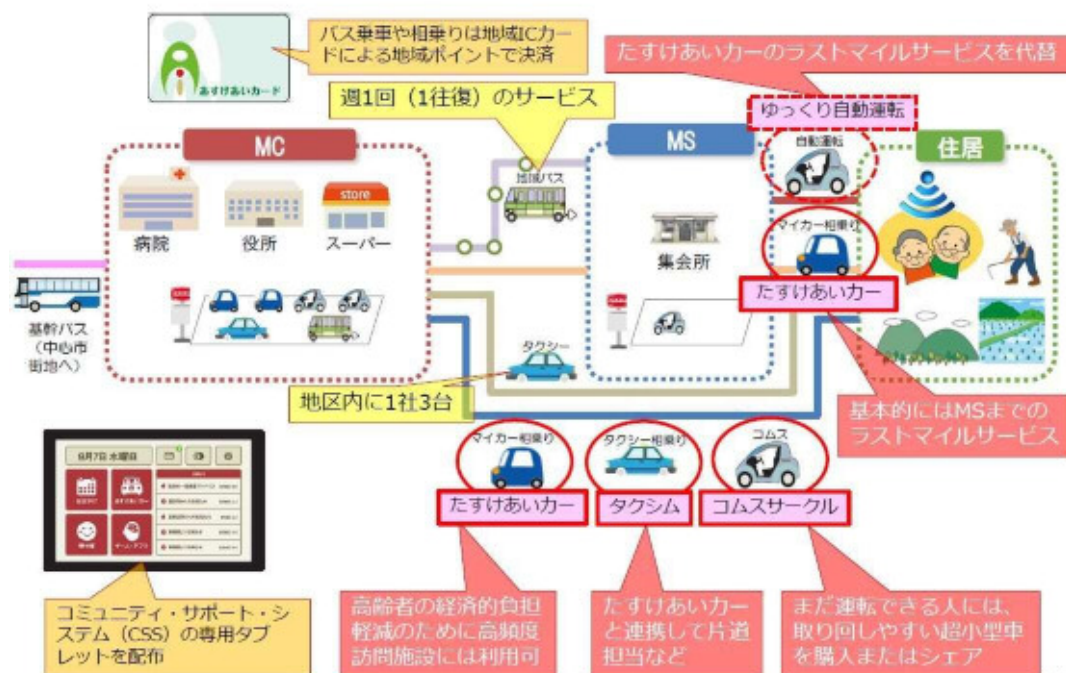


28

<https://www.choisoko.jp> > toyoake

## ⑥新たな技術も使った産官学共働プロジェクト

豊田市「たすけあいプロジェクト」は、名古屋大学、東京大学、豊田市、足助病院の共働によって展開中。



豊田市都市整備部交通政策課資料

29

## 4. 県の取組へのアドバイス

### ①地域連携への仕組みづくり

移動は一つの市町村内で完結するとは限らない。特に大規模な病院などは自市町村ではないことが多い。隣接・近接する市町村との連携、協働が必要で、話合う場、仕組みをつくる。

（一部の市町や交通対策課が情報交換の場を取組んではいるが・・・）

30

## ②ラストワンマイル、運転免許自主返納者等への対応

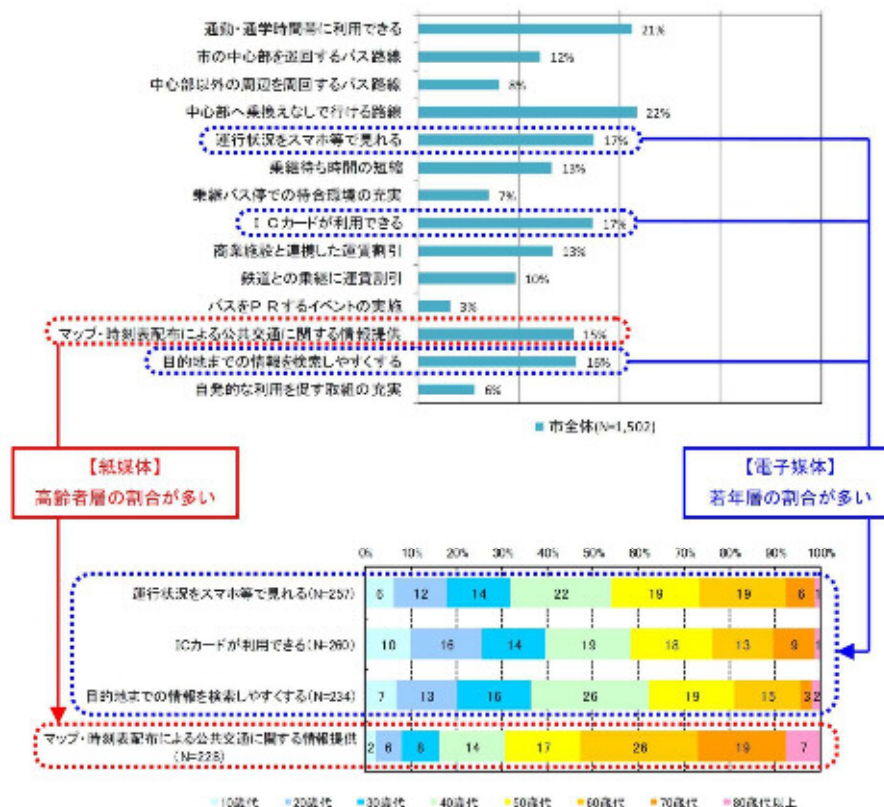
高齢者の特性（バス停まで来れない人等）に応じた対応、運転免許自主返納者への対応なども含めた市町村共通の課題の検討。  
例えば、タクシーの活用等

## ③MaaSの研究・検討

公共交通でのシームレスな移動や交通モード間の壁の解消を目指して、MaaSが話題となっているが、その導入について研究・検討を進める。

31

### 【参考】豊川市市民アンケート



32



**Society5.0**  
**SDGs未来都市**

# 宇部市 高齢者の 多世代交流について

市制施行100周年その先の未来へ



令和2年2月  
宇部市

## 本日の流れ

1. 宇部市のご紹介
2. 「人財が宝」 みんなでつくる宇部SDGs
3. 宇部CCRC
4. 地域共生社会の実現に向けた取り組み
5. Society5.0に対応したまちづくり

# 1. 宇部市のご紹介

- 人口：164,899人 (H31.4.1)  
(男：78,694人／女：86,205人)
- 面積：286.65km<sup>2</sup>
- 世帯数：79,228世帯 (H31.4.1)
- 平均気温：16.3度 (H27年)
- 降水量：1,614mm (H27年)
- 高齢化率：32.7% (H31.4.1)



本州の最西端、山口県の南西部に位置する**工業都市**



- 陸海空そろった交通環境**  
 ■山口宇部空港 ■山陽新幹線新山口駅・厚狭駅 ■山陽自動車道宇部IC・国道2号 ■山口宇部道路
- フルラインナップの教育・研究機関環境**  
 ■山口大学(医学部・工学部) ■宇部フロンティア大学 ■宇部高専 ■山口県産業技術センター  
 ■JAXA西日本衛星防災利用センター ■宇部市メディカルクリエイティブセンター
- 安心！充実の医療・介護環境**  
 「医療介護施設が充実している」と評価した圏域の主な自治体41のひとつに選ばれています。



# まちの困難を市民協同で克服

世界一と言われた降下  
煤塵（1950年代）



産・官・学・民一体で  
公害克服（1980年代）



UNEP Global 500  
（1995年）受賞



宇部方式

宇部SDGsを支えるまちの歴史



## 2. 「人財が宝」 みんなでつくる宇部SDGs

### 第四次宇部市総合計画

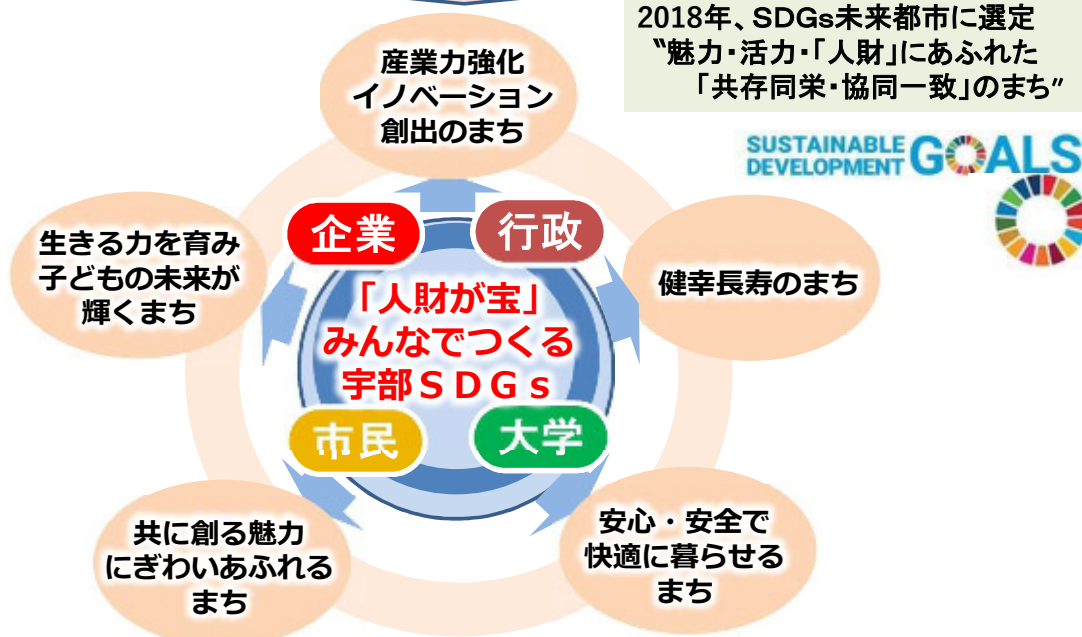
ひとが元気

地域が元気

まちが元気

後期実行計画

2018年、SDGs未来都市に選定  
“魅力・活力・「人財」にあふれた  
「共存同栄・協同一致」のまち”



## 第2期宇部市まち・ひと・しごと総合戦略の取組

### 【基本目標1】

結婚・出産・子育ての希望をかなえ、  
子どもの夢を育む教育を推進する

### 【基本目標2】

「稼ぐ力」を強化するとともに、  
安心して働けるようにする

### 【基本目標3】

関係人口を増やし、新しいひとの  
流れをつくる

### 【基本目標4】

ひとが集う、安心して暮らすことが  
できる魅力的な地域をつくる

【横断的な目標1】  
多様な人材の活躍を推進する

【横断的な目標2】  
新しい時代の流れを力にする

## 3. 宇部市のCCRC

### 宇部市CCRC構想

移住対象者	アクティブシニアにとどまらず、 <b>子育て世代を含めた様々な世代</b>
対象地域	市内全域
移住の形態	大都市からの移住 拠点地域への市域内転居
生活居住環境	既存の高齢者施設や空き家等の活用 民間資金の活用を含めた住宅等の整備
地域との関係	<b>地域支え合いの一員として活躍</b>

### 移住定住施策



移住定住サポートセンター、U I J 奨励助成、**専門人材の誘致**、  
住宅情報バンクの充実



# 田舎暮らしの本 「住みたい田舎」

総合部門で全国 **1** 位 ランクイン！



シニア部門 ②位  
若者部門 ⑭位  
子育て部門 ⑪位



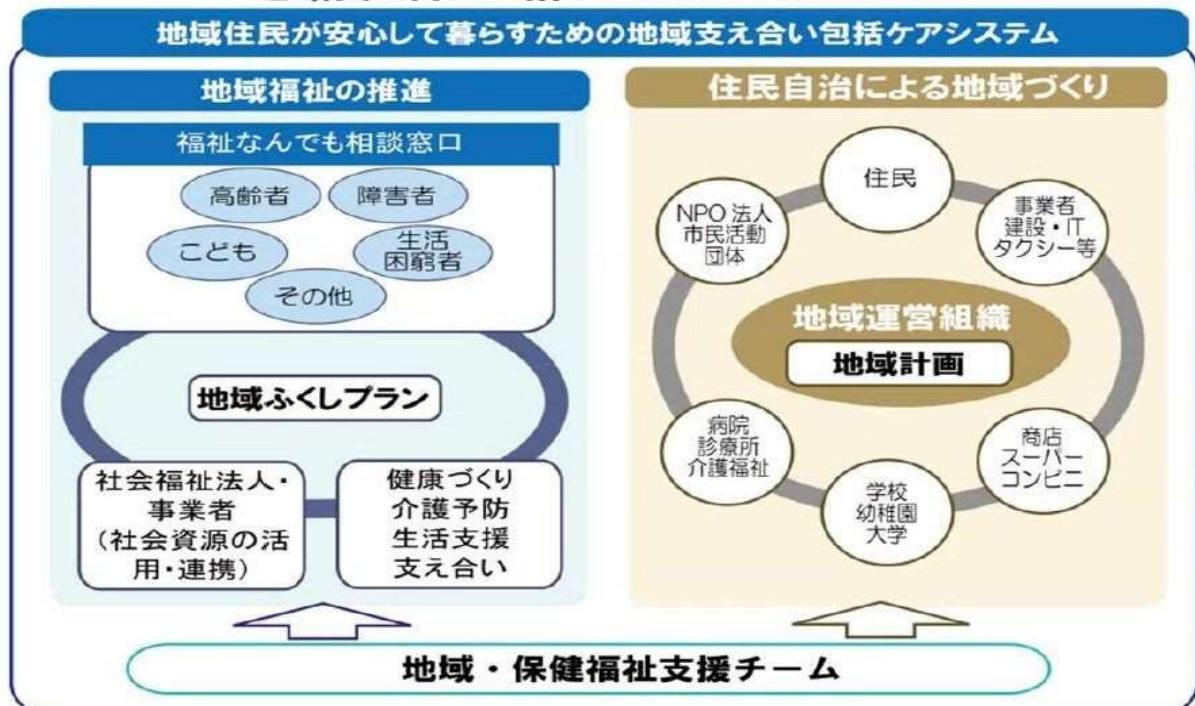
宝島社「田舎暮らしの本」  
2020年2月号

- ・移住サポート体制 や 各種移住支援策の充実
- ・都市機能と田舎の風情を併せ持つ環境
- ・医療・福祉の充実 や 健康づくりへの取組
- ・空港をはじめとした交通の利便性
- ・移住者数の増加

## 4. 地域共生社会の実現に向けた取組

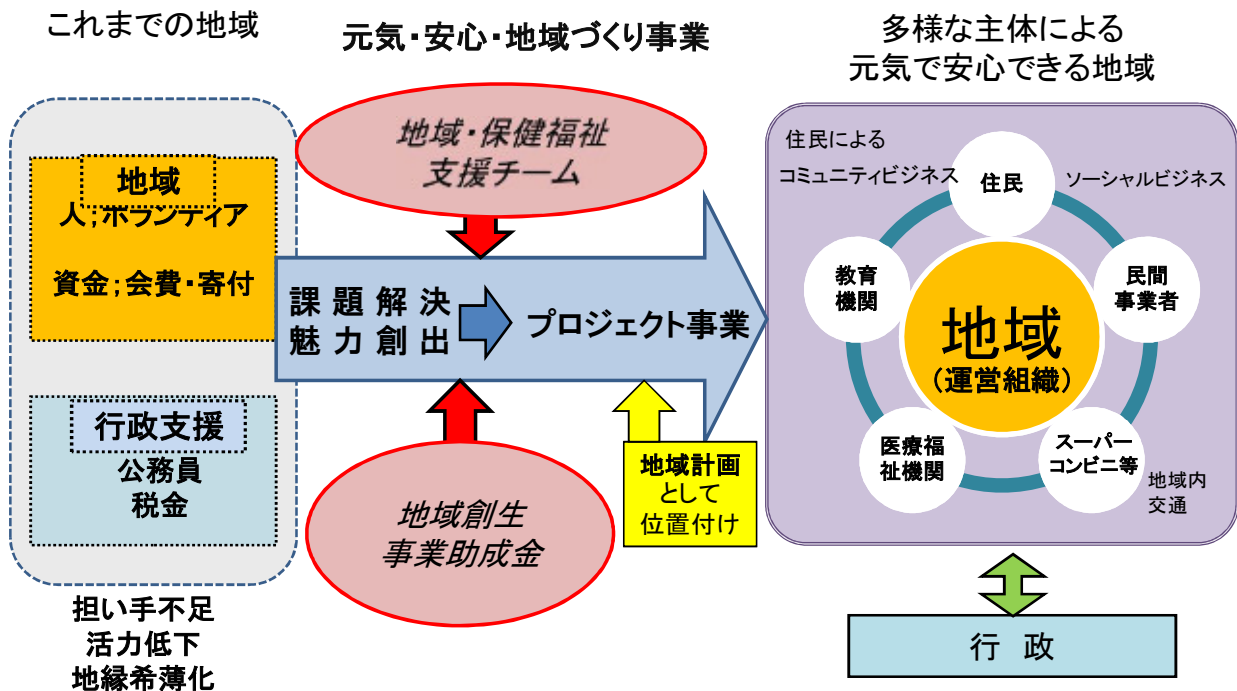
### ① 地域支え合い包括ケアシステム

さまざまな世代が支え合う元気で安心できる地域づくり  
地域支え合い包括ケアシステムのイメージ



## ② 地域・保健福祉支援チーム

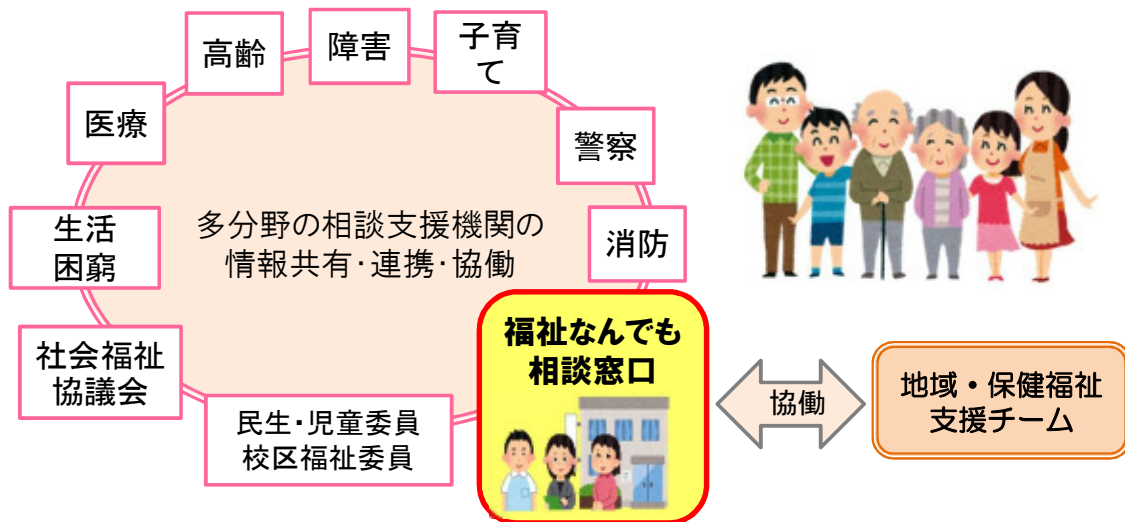
### さまざまな世代が支え合う 元気で安心できる地域づくり



## ③ 福祉なんでも相談窓口（断らない相談支援）

地域包括支援センター（10か所）・障害者相談支援事業所（4か所）・宇部市社会福祉協議会（1か所） 計15か所に『福祉なんでも相談窓口』を設置

### 縦割りの支援から横つながりの支援に



#### ④ ご近所ふれあいサロン

子どもから高齢者まで  
だれもが集い交流できる地域拠点  
(200か所整備)

- 活動支援**
- ・立ち上げの支援 ・人材育成
  - ・活動費の助成
  - ・情報交換会の実施
  - ・チラシ、HP等による情報発信

からだへの効果「健康づくり」  
(認知症予防)



地域への効果「友達・仲間づくり」



こころへの効果「生きがいづくり」



#### ⑤ 宇部市多世代ふれあいセンター

高齢者を始めとした市民の福祉の増進と  
生活の向上及び多世代の交流を図るための  
施設

**効果**

- ・地域共生社会の実現
- ・多岐に渡る  
相談機能の充実  
(包括的な支援)

社会福祉協議会  
老人クラブ連合会  
シルバー人材センター  
行政 等

連携・支援



生活相談  
サポートセンター

発達障害等相談  
センター



若者ほっとカフェ

若者ふりースペース



こどもすくすく  
プラザ



ふれあい塾

## ⑥ 「ちょこっと活動・就労・活躍」事業

- ・時間を自由に使える働く意欲のある高齢者の社会参画を支援
- ・高齢者も高齢者を支え、社会参加することそのものが社会貢献という仕組みの構築



例えば・・・

《事業所・団体》

- お中元やお歳暮の時期に短期で活動できる人を募集したい
- 午前中だけ子守りができる人がいればお願いしたい

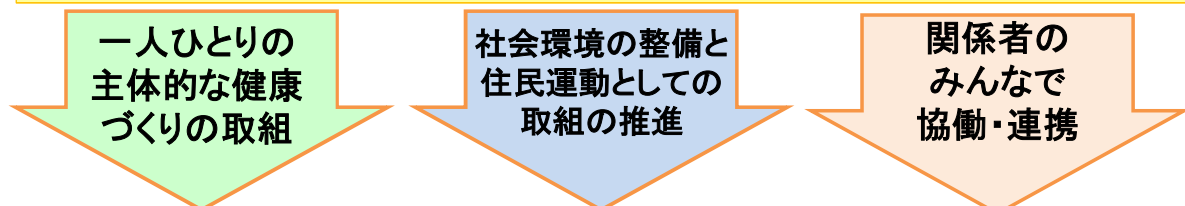
《高齢者》

- ピアノの講師をしており、老人ホーム等での出張演奏や個人指導が可能
- 週に2日、2、3時間働きたい

## ⑦ SWC(スマートウェルネスシティ) 2019年度～

### SWCとは

地域住民が「健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を送れること」= 「**ウェルネス(健幸)**」  
をまちづくりの中核に位置づけ、  
**住民が健康で元気に幸せに暮らせることを目指す**  
新しいまちづくりの形



健康づくり、介護予防、生活習慣病の改善・重症化予防

- はつらつ健幸ポイント
- あなたにぴったりの個別運動プログラム

筑波大学、  
タタヒルシアと  
連携

飛び地型自  
治体連携  
(5市町)

ICT  
等活用

# 5. Society5.0に向けたまちづくり

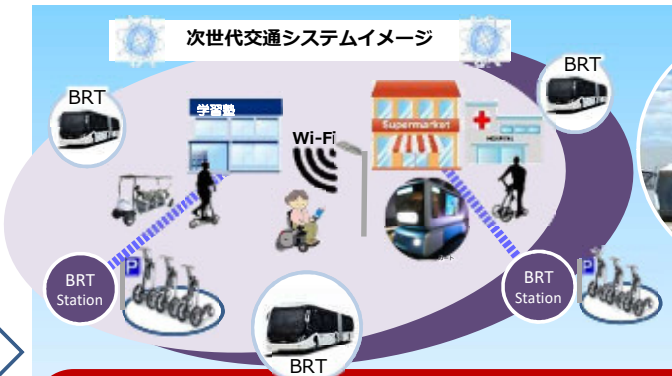
## ① コンパクトシティに向けて

多極ネットワーク型  
コンパクトシティ



地域支え合い  
包括ケアシステム

人口減少・高齢化社会  
公共交通の維持困難  
交通弱者の増加



BRT: バス・ラビット・トランシット

安全で利便性の高い **グリーンスローモビリティ**  
「使いやすく、持続可能な地域公共交通網」



5G環境の整備



宇部市

## 高齢社会懇談会意見集

2020年3月

作成・発行 愛知県

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電 話 052-954-6088（政策企画局企画調整部企画課）

052-954-6285（福祉局高齢福祉課）

Webページ <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kikaku/koureikon.html>